

沙汀《一个秋天晚上》 訳注

上 田 望
王 岳 川
訳注

一陣の小糠雨に一陣の山おろし、おまけに真っ暗な夜とこの山間部の秋特有の寒さで町にはすでに人氣がなくなっている。とくに村役場²の辺りはそうであった。ここは辺鄙なところで背後には大きな山、前には勢い激しく流れる³川があり、普通の時でも役所の大門がひとたび閉ざされれば、人影を探すことは難しい⁴。

しかし一、二時間⁵前、普段は運動場になっているが、定期市⁶の立つ日には小商人たちが露店を広げる⁷空き地⁸のところでひと騒ぎ⁹があったのだった。頗る風変わりな見せしめ¹⁰がおこなわれたため、それが市場の老若男女をみんな呼びよせ、彼らのために寂しくやるせない生活にいささか香料をふりまいたのである¹¹。もし天気が急変しなければ、彼らはまだ立ち去っていなかったであろう。だが、今ここには粗末な幾つかのバラック¹²、市が立つ時にもつや血¹³を煮込むのに使われる移動式かまど¹⁴が少し、そして一、二匹の野良犬が残っているのみであった。このほかにあるのは風の音、水の音、そして耐え難い寒気だけである¹⁵。

ただ何とか一人の人間を探そうとすれば、そんなに難しいことではない。それは引きずり回されて見せしめにされた流れ者の娼婦であった。彼女は筱桂芬¹⁶と呼ばれていた。その日の午後、初めてこの町に来たのだったが、彼女はそこですぐに幸運にめぐり会ったのであった¹⁷。しかし今現在、彼女を苛んでいるのはその予想外の境遇¹⁸のことではなかった。彼女はきちんと横になり、疲れ果てた全身の関節を休めたいとひたすら思っていたが、ついていないことに、地面は雨が降ったせいで一面泥だらけであった¹⁹。

彼女はもう何時間も身体を硬直させて座りっぱなしで、背中に背負った袋やズボンとはつくにずぶぬれになっていた²⁰。しかしもっとつらいのは彼女が午前中、二十数キロ歩いたのに²¹まだ何も食べていないことであつた。彼女がこの町にたどり着いた時にはもう午後²²になっていた。彼女は町の手前の川辺で髪を梳き、安物の白粉と花柄のシルクのチーパオ²³、そして赤地に白い花柄²⁴の布靴で身支度を整え、人目を引くように振る舞いながら²⁵木賃宿²⁶を探しに出たところですぐに敵に出くわしてしまったのだつた²⁷。

これはこの一、二年の流浪生活の中で経験したことの無い巡り合わせだつた²⁸。ぶたれ、罵られたことはさておき、最後には引きずり回されてさらし者にされたのである²⁹。だが、もし彼女が減らず口をたたかなければ³⁰足枷をはめられる³¹こともなかったであろうし、濡れたところに座って凍えることもなく、ただ二日前の彼女と似た境遇の女性のように、町の外に追い出されるだけですんだ筈であつた。

背後に壁でもあればよかった。寄りかかることが出来るからである。しかし運の悪いことに周りには空気だけであつた！ 彼女は何度となくこのまま横たわろうと決心したが、しかしいざ実際に横になろうとすると決心がぐらついた。彼女には今着ているこの一張羅しかまともな服がなかったからである³²。

彼女は絶望のどん底の淵に落とされ、しくしくと啜り泣きはじめた³³。

「あたしが罪を犯したっていうのかい？³⁴」彼女は独り言のように泣いてはしゃべった。「人様のご亭主を盗ったりなんかしてないよ！³⁵……」

彼女は泣いたらますます悲しくなり、初めてはっきりと自分の惨めさを意識したのであつた³⁶。一度の食事³⁷のために彼女は各地をさまよい、男性に会えば相手のご機嫌とりをし³⁸なければならず、ありとあらゆる屈辱を受けてきたのだつた！ 今は罪人の方がまだましであつた。こんなふうには足枷をはめられ真夜中まで野外の空き地に放置されていた罪人を彼女は見たことがなかったからである³⁹。

彼女は泣き続けていたが、突然泣くのをやめ、怯えたように彼女を取り囲む四方の闇に目をやった。

「ちょっと、こんなふうにあたいを一晩外に出しておくことはないでしょ……ねえ！……」

自分でもびっくりしたほどの大声が出て、これが彼女に勇気を与えた。彼女はもう泣かなかった。そして彼女の声が大きくなるにつれ、憤怒の念もいや増しにわき上がってきた。たとえどうあろうとこんなふうにな一夜を過ごすなんて出来ないのにわかに思ったからある⁴⁰。

彼女が騒ぎ立てている最中に、村役場の大門がぎしぎしと開いた。

門が開くのに続いて、粗暴ではない口吻の叱責⁴¹が一言、彼女の耳に入ってきた。

「何を騒いどるだ？！⁴²」

それに対して彼女は、「もちろん、無実の罪を訴えてるのよ！」と言い放った⁴³。彼女は自分を罵った人間が民兵⁴⁴であることを失念していたのだが、彼女の目的はこの状況から抜け出すことにあったからすぐに続けて、「ねえちょっと来て見てみてちょうだいよ」と言った。「寒いし腹は空くし、腰骨⁴⁵は座りっぱなしでもう痛くって痛くって⁴⁶。あたいは別に人様のご亭主を盗んだりしたんじゃないのよ⁴⁷。……」

「残念だが、あんたに足枷をはめたのはおらじゃないからな⁴⁸」と民兵は不平不満を述べる⁴⁹みたいに彼女の話の腰を折った。

「誰があたいに足枷をはめたかなんてどうでもいいことなんだよ。ただね、罪人だって風をよける場所とか、何本かの草とかあってもいいだろ。……」

彼女は噤り泣き出し、騒ぎ続ける気力が急速に萎えていった。民兵は気の毒そうに思わず⁵⁰ため息をついた。

「まるでおらがあの女に足枷をはめたみたいじゃないか⁵¹」しばしたたずみ、彼は独り言のようにつぶやいたが、それはまるで自己弁護をしている⁵²みたいだった。

そして彼はまたため息をつくと、黒い⁵³門の中の暗闇に引っ込んだ。彼の名前は謝開太、「老娃」という綽名で呼ばれていた。温厚な性格で、動作はにぶく、上背はないががっしりした体つきの農民であった⁵⁴。何年も村役場の民兵をやっているが、いつまでたっても田舎臭さが抜けきれない。彼はゆっ

くりと身体の向きを変えると、大門に門をかけようとした⁵⁵。しかし門をかけようとして伸ばした腕を、またゆっくりともとに戻した⁵⁶。

彼は班長の陳躍東が叫んでいる声を聞きつけ⁵⁷、ため息をつくと、立ち止まって待った。

「たまらんよ！」彼は腹を立ててぶつぶつ言った⁵⁸。「まったく鼻⁵⁹の生まれ変わりだ！……」

班長は三十歳くらい⁶⁰の若者で、背高のっぽ⁶¹、手一杯に疥癬⁶²が出来ていた。地主⁶³の一人息子で、「紅宝攤子」⁶⁴とカルタ⁶⁵にしか興味がなかったが、十回の勝負で九回は負けていた。彼がここで労役に服するようになってからまだ一年たっていない⁶⁶が、その目的は徴兵逃れである。退屈のあまり、彼の頭には早くから桂芬を慰み物にしてやろう⁶⁷という邪悪な考えが巣くっていた。このために彼はあれこれと頭を悩ませ⁶⁸、徳ねえさんの造り酒屋で白酒をひっかけ、ようやく今戻ってきたのであった⁶⁹。

班長は小ずるそうにちょっと笑うと⁷⁰、民兵と向かい合って立ち止まった。

「寝とけて言っただろ」彼は間延びした声で言うと、気恥ずかしそうに笑った。

「寝るだって？ そんなについてる筈はないだよ！⁷¹」

「まったくおまえってやつは！」班長はすぐに続けて言った。「今晚はおまえにかわって夜の当直をしてやるって言っただろ！……」

民兵の謝開太は生真面目にしばらく思案していた。

「あんたまた賭場に行って徹夜するんじゃないだろうね？⁷²」彼は疑わしそうにきいた。「賭場へ行くって！ 酒を飲むのだってみんなつけ⁷³だ。一さわってみろよ！」班長は弁解するように両手で制服のポケットをちよつとたたいた。

民兵は大きく目を見開いて班長を見つめ、それから頭を振り⁷⁴、ちょっとだけさぼって寝に行くことに決めた。彼はすぐには行かず、精神を集中して耳をそばだて様子をうかがっていたが、最後にはため息をついた。「おらがあの女に足枷をはめたみたいじゃないか⁷⁵」彼は恨みがましく心の中でつぶやいた。暗闇を突き抜け、国旗掲揚台のところで啜り泣く桂芬の声が聞こえて

きたからである。

彼は空き地で見せしめにされている女⁷⁶のことで班長と話しあうつもりだったが、一つ欠伸をしたあと、こう言っただけだった。

「今夜はおらたち二人だけだな！⁷⁷」

民兵は身を翻して中へ入って行き、班長だけが大門のところに残った⁷⁸。

企てを実現するため⁷⁹、班長はかなり苦心していたが、その全ての鍵⁸⁰は、謝開太を立ち去らせる⁸¹ことにあった。事務員⁸²は村役場には寝泊まりしないのが常であったし、郷長は医者を探しに県城へ出かけていた⁸³。全部の部屋を合わせても数名の民兵が寝泊まりしているだけで、彼らの大部分は結婚していて所持持ち⁸⁴だったから、連中を騙して追っ払うのは簡単だった。ただあの天涯孤独の謝開太には少なからず手を焼かされた⁸⁵。謝開太にかわって夜の当直をしてやると彼は何度も言ったのだが⁸⁶、あの生真面目な男はどうしても信用せず、班長が例の病気を抑えきれずに賭場に行くのではないかと心配した⁸⁷。班長は半分諦めかかっていたのだが、ついに謝開太を追っ払うことが出来たのだった⁸⁸。

しかし、彼はすぐに国旗掲揚台のところへ桂芬を探しに行くような真似はしなかった。万全を期すため⁸⁹、彼はわざとらしく門を半分閉じ⁹⁰、とろとろと謝開太のあとを追うように中へ入った⁹¹。そこはもともと廟の本殿で、正面の東岳大帝はすでにどこかへ運び移されて、真ん中の梁には用をなさなくなって久しいランプが一つぶら下がり⁹²、下に食卓と何脚かの椅子があった。だが、両わきの下級神の像はまだ残っていて⁹³、そのうち、みんなが「おデブ様」⁹⁴と呼んでいる神の足下にはかけたお碗の灯りがともし、また神の像が安置されている台の下でもたき火がぱちぱちと燃えさかっていた⁹⁵。班長はたき火のそばに腰を下ろすと、後殿の動静をうかがった⁹⁶。

謝開太が欠伸をし、ばさっという音で草鞋を脱ぎ捨て、続けて木製のベッドがザザザッと軋む音をたてるのが聞こえたが、そのあとは何の物音もしなくなった。

しかし、このような状況になっても班長は行動を起こさなかった。ある種の倦怠ムードが彼を包んでいた。同僚のがうつって欠伸をこらえきれなくな

ると同時に、疲労を感じていた。しかも少し火にあたったため、疥癬がますます痒くなってきた。一人で疥癬を搔いている時はどんな幸せも彼を誘惑することは難しく、心ゆくまで搔いている方がはるかに楽しいのだった⁹⁷。だが、彼は間の抜けた笑みを浮かべ⁹⁸、ため息を一つつくと、ついに決心をして立ち上がった。彼はたき火を離れ、そっと門を推し開けると、盗賊のように暗闇へ滑り込んで行った。

例の哀れな女性はまだ啜り泣き続けていた。誰かが彼女を助けに来てくれるだろうなどという考えはもはや捨てていた。村役場の民兵の出現と彼のヒント⁹⁹から彼女は今日、どんなに酷い目に遭ったのかをまた思い出していた¹⁰⁰。彼女を懲らしめた婦人の威光は今まで見たこともないほどで、誰もが彼女の言いつけに従いそうな感じであった。その婦人の攻撃中、町の間人みんなが彼女の助っ人であった¹⁰¹。不思議なのはあの意気揚々と威張りくさっているやくざもの¹⁰²たちである。連中はまるでイヌのように一言命令されただけで彼女にすぐさま足枷をはめたのであった。

彼女の知り合い¹⁰³の中にも、かつて焼き餅を焼いた妻¹⁰⁴たちの虐待を受けた者が何人かいた。彼女たちのある者は一張羅の服を引き裂かれ、ある者は磁器の破片で顔を傷つけられ、そのために長期間仕事が出来なかった。こっちの方がもっと酷いのかもしれないが、彼女にはその方がましだった。衣服や顔が惜しいとはこれっぽっちも思わない。食べ物と暖をとり、横になることが出来れば、服や顔などどうでもよかったのである¹⁰⁵。

彼女はあたりを見渡したが、目に入るのは暗闇だけだった。彼女はまた思わず声をあげて泣いた¹⁰⁶。

「まったくおかしい話じゃないか！¹⁰⁷ あたい¹⁰⁸がどんな罪を犯したっていうのよ！」彼女は腹を立てたように抗議の声をあげた¹⁰⁹。「人様のご亭主を盗んだわけじゃあるまいし……」

彼女は急に口を閉じた。せわしない足音が耳に入ったからである。それは班長だった。彼は彼女の前まで来ると立ち止まったが、どんなふうに切り出したらいいかわからず、ただ薄ら笑いを浮かべるだけだった。初めて女性に近づくわけではなく、息子も娘もおり、結婚してもうだいぶになるが、商品

として扱われる女性に近づくのはこれが最初だったのである。

彼の間の抜けた笑みは、自分の中に原始的な欲望だけが充満しているのに、おかしなことを口走って恥をかくのではないかと躊躇¹¹⁰していたからであった。

「なんでまたこんな時にここへ来たんだ？¹¹¹」彼はとうとう話題を見つけて切り出し、息をついた。

「これはあたいが悪いのかい！¹¹²」彼女は反駁するように言ったが、苦しみを訴える相手が出来たことを喜んでいた。「あたいが来たのが間違いだっていうんなら¹¹³、立ち去らせればいいだけのことでしょ。あたいを罪人みたいに。一罪人にだってこんな扱いはしないわ！ 風よけの幕すらなしで！」

啜り泣きが彼女の話を通り切った。彼女は涙をぽろぽろとこぼした¹¹⁴。

「どうかお慈悲を！」しばらく間があり、また物乞いをするかのようにしゃくりあげながら言った。「決してご恩は忘れないから！……」

「おまえが我々の恩を忘れないだと？」班長は嘲るように相手の話を遮って言った¹¹⁵。「おれみたいな堅気を騙してどうするつもりだ？！¹¹⁶」

こんなふうに言えばいいと思っていたわけではないのだが、一旦口を開くと、躊躇と羞恥はまったくなくなっていた。そして知らず知らずのうちに一つの態度が固まってきていた。その態度は商品と見なされる女性に相対するのに最も適切であると彼が考えたものであった。そして彼はやくざっぽく舌もなめらかに¹¹⁷、風流事の通であることを自負するかのごとく彼女と話し始めた¹¹⁸。

彼女もただちにそれに反応し、彼女の職業にふさわしい態度¹¹⁹をとった。彼女はすでに一縷の希望を見つけていた。それによって彼女が非常に必要としている食物、暖を得、ちゃんと横になることが出来そうであった¹²⁰。この希望を実現するために、彼女は普段のはにかみすら忘れた。彼女は躊躇せず全てを承諾した。しかもその物言いは班長よりもっと露骨だった¹²¹。

こういうことで¹²²話がまとまり、班長は急いで彼女の足枷をはずしてやった。彼は彼女を連れて村役場の中へ入り、彼女をたき火のそばに座らせた。それから裏手の厨房に行ってまだあまったご飯がないかどうか見に行くつも

りだった。彼は行動に移ろうとしたが、また急に立ち止まり¹²³、小柄で痩せた身をすくめて丸まっている哀れな彼女を見て薄ら笑いを浮かべた¹²⁴。

「変な真似をして人をはめたり¹²⁵しないでくれよな?!」彼はそう言って、興ざめたように¹²⁶ため息をついた。

「あんたを騙してどうだっていうのさ!¹²⁷」彼女は疲れ切ったように返事をし、頭を上げた。

彼女の声の調子や態度には多少うんざりした感じがあり¹²⁸、もし彼女に自由があればこの時ばかりはたとえどんなお偉いさん¹²⁹が来ても相手にしない¹³⁰というかのものであった。彼女はひたすらこうしてたき火のそばに座り、頭を抱えて静かに休みたかった。しかし彼女は突然、まだ自分には食べ物が必要なことを思い出し、同時に班長の顔色が暗く沈んでいくのに気付いた。

そこで彼女は無理をして¹³¹媚びをふりまくようにほほえみ、続けて言った。

「約束はちゃんと守るって¹³²。でもちょっとついでに温かいお茶がないか見てきてもらえない? のどが乾いて死にそう!」

「わかった¹³³」班長は物憂げに返事をしたが、彼女の思わせぶりなそぶりには応えなかった¹³⁴。

班長は厨房¹³⁵の中へ入って行った。彼はちょっとがっかりしていた。彼女のあのばさばさにそばだった髪の毛¹³⁶、雨と涙で洗い流された白粉と紅、鋭く尖った鼻¹³⁷とややすぼまった口¹³⁸のついている黄ばんだ顔¹³⁹、縮こまっている貧相な身体¹⁴⁰、そして彼女の作り笑い¹⁴¹、彼女のめんどくさそうな口調¹⁴²、全てが彼にとって不満を抱かせるものだったからである。彼はいささか失望し¹⁴³、興味は徐々に失せていった¹⁴⁴。

あるいはそのためか、彼が戻ってきて謝開太に気付いた時¹⁴⁵、彼は気持ちを抑えることが出来、あわてふためいて取り乱したりはしなかった¹⁴⁶。謝開太は寝室から班長より一足先に出てきていたのである¹⁴⁷。謝開太はずっと何かトラブル¹⁴⁸が起きるんじゃないかと心配していたのと、鬱憤が腹にたまっていたために穏やかに寝付けなかった¹⁴⁹。そこで大声で班長に声をかけたが返事はない。それで彼は慌てて起き出してきたのである。

彼ら二人は思わぬところでばったり顔をあわせた¹⁵⁰。そこで民兵は大いにほっとした様子で言った。

「あれま！ おら、あんたが賭場へ行ったんじゃないかと心配しとったんだよ！¹⁵¹……」

「どこの賭場へ行くっていうんだ？」班長は無理に笑顔をつくりながらため息をついて言った¹⁵²。「刮癢¹⁵³をやる小銭すらないんだぞ！」

「あんた、あの女を放してやったんだね？¹⁵⁴」謝開太はすぐに顎で桂芬を指して¹⁵⁵たずねた。

「そうよ！」班長はわざと嫌気がさしたような態度で言った。「あんなに泣きっぱなしだったからな！¹⁵⁶」

民兵は深くため息を一つついた。

「人間ってのはいろいろと他人に便宜をはかってやるもんだよ！¹⁵⁷」彼は相手の話を遮り、すぐに班長が称賛に値すること¹⁵⁸をしたと信じこんだので、それ以上説明¹⁵⁹の必要はなかった。「おらもそうしたかったんだけど、おらにはそうする資格がないんじゃないかと思っ！それに¹⁶⁰、公務はみんなきちんとやらんとまずいからね？¹⁶¹ ふーっ！¹⁶²」

彼は笑わずに¹⁶³首を振り、感慨深げにたき火のそばに腰を下ろした。

班長も、目を覚ました哀れな女性に飯を手渡すと¹⁶⁴、気が滅入った表情でたき火のそばに座った。最初、彼はあの正直者が彼の胡散臭いところ¹⁶⁵に気付くのではないかと冷や冷やし、ついで彼自身の善良さ¹⁶⁶に自らを恥ずかしく思い始めた。しかし今、彼は少し腹を立てている。謝開太は彼がうまいことやろうとしていたところに邪魔¹⁶⁷しにきたのだ¹⁶⁸。

ただ、桂芬一人だけがうきうきとしていた¹⁶⁹。食べ物彼女を奮い立たせ、疲れを吹き飛ばしたのである。

「ああ、今晚あんたがたに会えてついてた！」彼女は深く喜びをかみしめるように¹⁷⁰言って、飯をかき込み¹⁷¹出した。

「飯はもう冷めて硬くなっとるだろ！¹⁷²」謝開太はそう言って欠伸を一つした。

「それならおまえがちょっと湯を沸かして持ってきてやったらいいだろう

が」班長は思わず口走った¹⁷³。彼はちょっとふてくされて言った¹⁷⁴だけだったのだが、謝開太は心配そうに、「なら、ちょっと薪¹⁷⁵があるかどうか見てくるべ！」と言って台所へ湯を沸かしに行った¹⁷⁶。しばらくしてから¹⁷⁷、彼はお湯を大きな素焼きの鉢¹⁷⁸になみなみと、それに粗末な碗を三つ持って戻ってきたので、桂芬にたいそう喜ばれた。班長も、急に快活になり、民兵の善良で実直な様子に笑みをこぼした¹⁷⁹。

「道理でみんな、おまえはいいやつだと言うわけだ！」班長はからかう¹⁸⁰ように言った。「今日、初めてこの目で確かめたよ！」

「なにがいいやつなんだか！¹⁸¹」民兵は恥ずかしそうに¹⁸²言った。

彼は碗に湯を汲むと班長に手渡した¹⁸³。そして彼は干し柿のような顔¹⁸⁴をあげて桂芬を見やり、ため息をついた。

「顔をめっちゃめっちゃにされんで¹⁸⁵ついてたな！」彼は考え込むようにつぶやき¹⁸⁶、キセル¹⁸⁷を取り出した。「あたい、あんたたちにちょっとききたいわ！¹⁸⁸」民兵のつぶやきが彼女の記憶を呼び起こしたようで、飯をかき込む手を休め、桂芬は滔々と¹⁸⁹しゃべりはじめた。「ありゃ一体どんな人間なのさ？ 私だってこの稼業であちこち回って世間¹⁹⁰を見てきた。悪いやつ¹⁹¹にも出くわしたし、女のごろつき¹⁹²を見たこともあるけど、あの女みたいに凶悪じゃなかったよ！あたいがあの女の誰かさんをたぶらかした¹⁹³とか言って。あたいは初めてここに来たんだよ！……」

身体を前にぴんと突き出すと¹⁹⁴、彼女はぷんぷんしながら民兵を見つめた。彼女の大きな目は潤んでいた¹⁹⁵。

彼女はまた彼女の蒙った恥辱、酷い扱いを思い出していた¹⁹⁶。あのとき彼女はちょうど人目を引くように歩きながら¹⁹⁷漆塗りの立派な門の前¹⁹⁸を通り過ぎ、木賃宿へ行こうとしていたのだったが、罵り言葉の嵐¹⁹⁹がふと耳に入り、野次馬根性で立ち止まった。そして振り返って事の次第²⁰⁰を見極めようとして度肝を抜かれたのであった²⁰¹。がっちりした体格²⁰²、顔中塗壁のように白粉を塗りたくった婦人²⁰³が向こうから飛ぶように駆け寄ってきたのである²⁰⁴。頭はパーマのかかったリーゼントヘア²⁰⁵、全ての指に金の指輪をはめていた²⁰⁶。

その女性は一言も言わずに²⁰⁷、いきなり彼女の横面を一発張り、そのあとはみんなよってたかって彼女を罵倒²⁰⁸したのであった²⁰⁹。……

「うっ、うっ²¹⁰」と彼女は嗚咽しながら続けた。「あたしらは人間じゃなくて、あの女だけがまともな人間だっていうのかい？²¹¹」

「そりゃ、あんた、来た時期が悪かったんだよ²¹²」民兵はそう言って鼻の穴から煙草の煙²¹³を噴きだした。「半月早けりや何もなかっただろうし、郷長が出かけてなければそれでも大丈夫だったろうね。一昨日、女どもを追っ払った²¹⁴あとですぐにあんたが来たんだ。小麦粉を売ろうって時に大風に吹かれる²¹⁵ようなもんで、巡り合わせが悪かったんだよ。……」

民兵は話をやめて、地面に一回、キセルをうちつけ、煙草の焦げかす²¹⁶を出した。

その言葉を聞き、班長は突然声をあげて笑った²¹⁷。

「いったい誰があのご亭主をたぶらかして身体をだめにしたんだか？²¹⁸」班長はまたにやにやしながら²¹⁹一言付け加えた。

「そりゃ自分が悪いのよ！」民兵は不満げに桂芬をかばって言った²²⁰。

「手当たり次第えり好みせず、次から次へと！²²¹……」

桂芬は恥ずかしそうに顔を赤らめ、そしてその話題を避けようと飯をかき込みはじめた²²²。それにはしかるべき理由があった²²³。民兵の説明で彼女のご亭主がたぶらかされて身体をだめにするというのがどのような意味か、そしてえり好みしないというのがどういう意味か²²⁴を理解し、突如恥ずかしくなってきたのである。彼女はそんなによくわかっているわけではなかったのだが、ことの真相は、荒淫の度が過ぎて²²⁵郷長が身体を壊し²²⁶、しばしば病気になったので、彼の妻はその怒りを理不尽にも全ての流しの娼婦にぶつける²²⁷ようになったのであった²²⁸。……」

彼女はごまかすように飯をかき込みはじめたが、また急にご飯のどんぶりを口元から離した。

「あたいがよそのご亭主をたぶらかしてだめにしたって？²²⁹」彼女は叫ぶと、頬骨の飛び出ている痩せた顔²³⁰をがばっとあげた。「あたいは前にここに来たことがあった？ その人はつるつる顔？ あばた面？²³¹……」

「冗談を言っとるんだよ！²³²」口を挿んだ民兵は、彼女がぷりぷりしているの²³³で静かにちょっと笑った。

「え、冗談を言ってるって！²³⁴」桂芬は鸚鵡返しに言った。「あんたはあたいが人間じゃないとでも思ってるの？ 何が冗談よ。あんた自分で娼婦をやってみなよ²³⁵」彼女はむせび泣きはじめ、言葉の調子もぎこちなく²³⁶、とぎれとぎれになった²³⁷。「あんたが堪えられるとはとても思えないね！ みんな人間から生まれ、親がちゃんと育ててくれたのに、誰が喜んでこんな罰当たりな飯を食べると思うのよ？²³⁸……」

この間²³⁹、最初はへらへら笑っていた²⁴⁰班長も、ほんとうに²⁴¹きまり悪くなってきた。

「ああ！ 一言で恨みを買っちゃったな！²⁴²」班長はそう言うと、またきまり悪そう²⁴³に笑った。

「あたいの恨みを買ったからって何さ！ 生まれついてのくずなんだから！²⁴⁴……」

彼女はにぎった箸を上に向け²⁴⁵、手の甲で小鼻の横を流れる一滴の涙を拭い、そして沈黙した。

彼女はまた飯を食べはじめたが、二口ほど食べると、もう食べる気がしなくなったようで、どんぶりのお湯をすすって²⁴⁶ばかりいた。

民兵はこっそりと彼女を見やり、それから班長の様子をちょっとうかがうと、煙草を吸い続けた。班長ももう口を開こうとはしなかったが、痩せた顔に浮かべた笑みは崩さないよう努力していた。これは照れ隠しだった²⁴⁷。例えどうであれ、彼は自分のプライドが彼女に傷つけられたと思っていた。もし彼がいなかったら、桂芬はまだ野外で凍え²⁴⁸、食べ物や暖をとることも出来なかったろうに……

班長は彼女が哀れな存在であることをすっかり忘れていた。自分の野心も頭の隅から消え、それは彼女への不満に変わっていたのである。

「おい、言っとくぞ」彼は突然思い出したように言った²⁴⁹。「五更の銅鑼が鳴ったらすぐに戻るんだぞ²⁵⁰」彼は彼女をじっと注視したが、彼の恫喝はいかなる明確な反応をも引き起こさなかった。彼は挫折感を味わされた²⁵¹。

「おい、そんな時に俺達に面倒かけるんじゃないぞ」一呼吸置き、班長はまた心にもない²⁵²ことを続けて言った。「足枷をはめる時にまたぎゃあぎゃあ泣いたりしたら、俺達がなぶってるんじゃないかと思われて、変な誤解を招いたら厄介だからな！²⁵³—ええ？……」

「安心おしよ」桂芬は気落ちしたように言った。「あたいだって分別はあるよ²⁵⁴」

「だいたいだな²⁵⁵。おまえに同情なんかしなかったら、布団の中で気持ちよく寝てるとこだ²⁵⁶。……」

「そうだ、そうだ」民兵はとりなすように急に口を挿むと²⁵⁷、「二口、三口ほど吸ったらあんたも寝に行くがいいだよ！—ほれ！²⁵⁸……」

班長は重々しい面もちで²⁵⁹謝開太がよこしたキセルを受け取ると、煙草を吸い始めた。

班長は気持ちよく何服か吸ったら寝に行き、あの正直者に番をさせ、五更の鐘が鳴る時にやらなければならない公務も彼に押しつけてしまおうと思っていた²⁶⁰。ところが、彼の心がにわかに無垢になり²⁶¹、いかなる欲望もいかなる悪巧みも彼の心を悩まさなくなった²⁶²。加えて、彼は徹夜慣れしており、手の疥癬もまた痒くなってきていた。そのため、煙草を存分に吸ってからキセルを桂芬に手渡した時には²⁶³、気持ちがさっぱりして²⁶⁴、眠りたいとは思わなくなっていた²⁶⁵。

鶏の足²⁶⁶のような手を搔きむしりながら、ちらちらと桂芬を横目で見やっている²⁶⁷班長の表情はのんびりくつろぎ、そして満足しているように見えた²⁶⁸。

「あんた、二十歳はいっとるだろ？²⁶⁹」民兵は不意にたずねた。桂芬をしばしじっくり観察したあとのことだった。

「まさか！²⁷⁰」桂芬は否定すると、恥ずかしそうに笑った。

そして、口の中に含んだ煙を吐き出し終わるのを待って、彼女はようやく民兵にはっきりと告げた。彼女は今年、十八歳だった。

「ふん！²⁷¹……」民兵は鼻の穴から一声発した。疑っているようでもあり、驚いているようでもあった²⁷²。

「ほんとうだって！」桂芬は弁解するかのように言葉を続け²⁷³、吸った煙草のかすをぱっぱっとたたいて出した。あたかもこのことが彼女にとっては非常に重大なことであるかのようにだった。「数えてごらんよ。辰年生まれの干支は龍だろ。今年はちょうど十八じゃない？ あたいは生まれてこのかた年をごまかしたことはないよ。人間、年ってものは幾年生きたかなんだからごまかせっこないだろ！²⁷⁴」

「おまえ、この商売何年やってるんだ？²⁷⁵」班長が首を傾げて彼女を見ながら、経脈に唾をつけていた。

「来年の春で二年になるね」

彼女は淡々と答えたが²⁷⁶、急にまたこみ上げてくるものをごくつと飲み込み、煙草を探っていた牛革の巾着袋²⁷⁷から手を離した。

「正直な話、誰がこんなこと好きこのんでやるかね！²⁷⁸」彼女は弱々しい声で²⁷⁹続けた。その口振りは重たく沈んでいた。「笑われるかもしれないけど²⁸⁰、あたいのところは昔はちゃんとそれなりに食べていけてたんだ²⁸¹。うちには何畝も土地があったし²⁸²、よそからもそれこそ²⁸³何十畝も借りてた。毎年七、八頭の太った豚を売ったりしてね²⁸⁴。一今こんな飯を食べてるなんで誰が想像できたと思う？……」

彼女は両手を広げ²⁸⁵、救いを求めるかのように班長と民兵に視線を投げかけると、上半身をかがめ²⁸⁶、それ以上は何も言わ²⁸⁷なくなった。

「畜生！²⁸⁸ ああの金剛鑽²⁸⁹が人をむちゃくちやにしやがったんだ！²⁹⁰」彼女はちょっと身体を起こして²⁹¹そう付け加えると、キセルに煙草を詰め始めた。

「金剛鑽ってのは誰だい？」班長は興味深げにたずねた。

「あたいんとこの聯保主任²⁹²だよ」何かを考えているように沈んだ口調で彼女は答え、細い竹の細片²⁹³で火を点けた。

「おまえのどこじゃ、郷長って言わない²⁹⁴のかい？」

「やつの息子が郷長なのさ。……」

竹の細片は燃えていたが、彼女はすぐには煙草を吸おうとせず²⁹⁵、説明するように話を続けた。

「考えてみると、あいつ自身も郷長をやったことがあるんだ！ あれは聯保主任を郷長と呼び改めるようになったばかりの頃だったよ²⁹⁶。息子が研修を受けて戻ってくるを待って、やつは郷長を息子に譲り渡したんだ²⁹⁷。……」

「おや、そりゃおれたちんところと同じだ！」班長は急に何かを悟ったように言い、民兵を見た。

「あ、あ、あ」民兵もやっと合点がいった²⁹⁸。「おらもわかっただ！」

「あんたのおとつあん、おっかさんはまだ元気なのかい？」班長はさらに関心を持った様子でたずねた。手を搔きむしるのはやめていた²⁹⁹。

「おっとうは一昨年逝ったよ。……」

「これこそ、“天下のカラスはみな同じく黒い³⁰⁰” ってやつだ！」民兵は独り言のようにつぶやき、彼らが話していることを注意して聞いていなかった。そして立ち上がって薪を取りに行った。彼の大きな黄色い顔には終始、一種の嘲るような、そして怒ったような表情が浮かんでいた。薪を取って戻ってきた時、彼はまた言った。「これこそが“天下のカラスはみな同じく黒い” ってやつよ！……」

彼は腰を下ろすと、手を動かして薪をくべた。しかし、桂芬が今話している彼女のにいさん³⁰¹の境遇は彼の耳に入っていた³⁰²。

「なんだって！ あんたのところじゃ金を出して兵役逃れをしないんかい？」彼はびっくりしてきいた。薪をくべるのも忘れていた。

「二回もお金を出したんだよ！」桂芬は悲しげに言った。「でもやっぱりとつかまったんだ！³⁰³……」

そして彼女は辛抱できず足腰を伸ばし、立て続けに欠伸をしたが、それは彼らの親切心を軽く見たからではなかった³⁰⁴。

「あんたら、考えてごらんよ³⁰⁵」彼女は続けた。そして一言一言言葉をかみしめるように³⁰⁶言い出した。「そんなこんなで残されたのは子供³⁰⁷ばかり……おっかあは動けないし³⁰⁸……義姉さんは義姉さんでお嬢さん育ちみたい³⁰⁹に風が吹けば病気をする。どこに人手があるっていうのさ！……ああ！前にも言っただけの何畝かの畑すらやっていけなくなった。それで出ていく方が入ってくる方より多くなっちゃった！³¹⁰……そのあと、おっかあが崔三

誑にあたいを綿陽へ連れて行かせたんだ。やつは綿陽の紡績工場で女工を募集しているんだと出任せを言ってた³¹¹。……」 彼女は白河夜船を漕ぎはじめていたが、またすぐに目を覚まし、自分が身にまとっているぺらぺらの服に注意を向けた。

「皺が寄って漬物³¹²みたい！」彼女は悄気て言った。「手提げも返してくれないし！……」

「手提げは返してくれるだよ！」民兵は言った。「早く一眠りするがええ！」

「ああ！今日あんたがたに会えてほんとについてた……」彼女は欠伸をしながら言った。

彼女はちょっとほほえんで彼女の感激ぶりを表そうとしたが、うまく笑うことに成功しなかった³¹³。彼女の頭はもう膝³¹⁴のところまで下がっていた。

「あたいをちょっと寝させて³¹⁵」彼女は寝言³¹⁶のように哀願し、それからすぐに寢息を立て始めた。

田舎者二人は期せずして顔を見合わせほほえみ³¹⁷、それからため息をついた。

「風邪を引かなきゃいいだども！」民兵は心配そうに言った。

「こんなにたき火を燃やしてるんだぞ！」班長はそれに応えて言った。多少うんざりしたような口振りだったが、それは彼が民兵の心遣いに不満だったからではない³¹⁸。桂芬の話から彼は自分自身のことに思いをはせていたのだった。彼も何度となく金を払った。だが今、彼はここで班長をつとめる羽目になっている！³¹⁹ 彼の父親も元気ではなく、母親や妻も大した仕事は出来ない。今しも秋まきの作物を植える³²⁰時だ。おやじもまったく苦勞しているだろうよ³²¹。……

彼は心の中で自分に話しかけた。「たぶん一日か二日休みをとれば何とかなるだろう！」それから民兵に声をかけた。

「おい！ “対対福”をやらんか、どうだ？³²²」

民兵はしばらく考え、音をたてて舌を鳴らした³²³。

「まあいいか！³²⁴」彼は口の中でもごもごとつぶやき、それからため息をついた。

そして一人掛けの椅子を一脚運んできた。また「おデブ様」の足下にあった、半分かけた碗で作ったランプも運んできた。班長はへりに油のしみこんだカルタを取り出した。彼らは「対対福」を始め、次第に何もかも忘れていった。暗闇、真夜中、そして黒い長衣に赤い帽子を戴き、垂れ下がった下唇に油がべとべととしている「おデブ様」³²⁵……

カルタを切り直す時³²⁶、二人は必ず桂芬の方を見³²⁷、火のおこりをよくしてからまた遊びを始めた。

1944年11月24日

【訳注】

本訳注は、既発表の「呉組紺《官官的補品》訳注」(『金沢大学文学部論集 言語・文学篇』第20号、2000)に引き続き、1998年度後期に中国語学中国文学コースの外国人教師、王岳川北京大学教授と上田が担当した中国文学特殊講義の教材「一个秋天晚上」に注釈を施し、日本語に訳したものである。訳文、注釈いずれも上田の手になるが、王教授の講解の中でネイティブ独特の解釈と考えられるものについては、特に「王注」と標記し書出した。上田は中国の近現代文学研究を専門とする者ではなく、誤訳・語釈も多々あるかと思われる。大方のご叱正・ご指教をお願いする次第である。なお、この講義終了後に受講生であった土井和代、南奈々恵、藤原麻依子、池田圭、宮村晃子、青山裕子、平体理恵子、山口亜希、吉田清香、山口陽介各氏よりノートとレポートを提出してもらったが、特にレポートからは訳注作成に際して多くの示唆を受けた。ここに記して感謝の意を表したい。なお、当講義では日本で翻訳が発表されていない中国の郷土小説の作品を取り上げることにしているが、この作品についてはその後、尾崎文昭氏の翻訳が発表されているので(『中国現代文学珠玉選 小説2』所収)あわせてご参照いただきたい。

1. 沙汀：シャー・ティン（1904-1992） 作家。本名は楊朝熙、のちに楊子青と改める。四川省安県城関安昌鎮の出身。族譜に拠れば父方の先祖は湖北黄州の出で、明末清初に四川へ移住してきたらしい。祖父は清朝の官吏、父は挙人、母方の親戚にも読書人が多く、自他共に認める書香の家に生まれ、当時はまだ安県に新式の学校がなかったこともあって幼少より家庭教師を招き、伝統的な教育を受けている。父親が早くに亡くなった沙汀は、哥老会のメンバーであった叔父（母親の弟）に可愛がられ、叔父が殺人事件で逃亡を余儀なくされた時、彼も12歳から二年間、叔父と共に四川西北部の各地を転々とした。1921年、叔父の強い勧めで成都の第一師範学校に進んだ沙汀は、在学中に魯迅の「故郷」などを読んで大きな影響を受ける。卒業後、革命運動に身を投じるが、1929年に白色テロを逃れて上海に移り、処女作「法律外的航線」（1932）を刊行した。同年、左翼作家連盟に加盟し、多くの郷土小説を執筆しはじめる。1936年に中国共産党に入党し、1938年に延安に移って、賀龍将軍に随行してルポルタージュ「随軍散記」（1940）などを執筆。1940年に再び四川へ戻り、各地を転々としながら国民党政治の腐敗ぶりや階級間の矛盾などをリアリズムの手法で暴き出した長・短篇を次々に発表した。解放後も四川に住み続け、四川省文聯主席、作家協会四川分会主席などを歴

任、郷土小説の先駆者であり、また四川を代表する作家の一人として高い評価を受けている。王注：沙汀は四川籍の作家である。四川は昔から今に至るまで漢の揚雄、司馬相如、唐の陳子昂、李白、宋の蘇軾、近代では郭沫若、何其芳、巴金、沙汀など才子を輩出することで知られている。また四川成都は『三国志演義』の英雄劉備、関羽、張飛、諸葛亮たちが活躍した舞台でもある。しかし、『三国志演義』の英雄たちがそうであるように、土地が狭く保守的な風土であることが災いして、四川に留まると成功することは難しい。そのため多くの有名人はみな「出川」（四川を離れる）しようとしたのであり、この「出川」が四川の一つの重要なテーマとなったのである。前に挙げた李白、蘇軾、郭沫若たちも四川を出てから成功した人々であり、鄧小平なども同じである。沙汀の郷土小説には内容・言語表現・意義に関して三つの特徴がある。まず、内容であるが、沙汀の作品は多く中国の農村部の遅れた部分、地主の圧迫、農民の愚昧さ、そして、伝統文化の腐臭を放つ一面、例えば、茶館で朝から晩まで茶を喫しながら、愚にもつかない話をして清談のように時間をつぶすことなどを描く。第二は言語表現の特徴である。沙汀は四川方言を多く用いて書いており、例えば「什么」は四川方言では「shazi」と発音するように、後から出てくるいくつかの四川方言は説明を要するであろう。そして沙汀の言葉は諷刺がきいており、作品の中に出てくるすべての人々に対し、諷刺的で批判的な態度を示している。特に「在其香居茶館里」（1940）ではその特徴は顕著である。また彼の言葉には新喜劇的な側面があり、巴金の「家」、「春」、「秋」などのように深刻ではないため気楽に読みすすめることができる。第三は意義上の特徴であるが、彼はリアリズムの手法を用いて中国の農村、特に沙汀が住んだことのある四川西北の綿陽周辺の農村風景を描いている。彼のテーマの範囲は狭く、創作の対象は四川西北部に限定されていると言っても過言ではなく、それゆえ四川の郷土小説の第一人者とされている。巴金が『随感録』など中国社会全体の状況について作品を書いているのに対し、沙汀は四川のみを描いてきたのである。最後に、簡単に沙汀の経歴を述べておきたい。彼は1904年12月に生まれている。若い時に成都に出て学び、小説を書き始めて比較的高い評価を得ていた。40年代には賀龍將軍の部隊に従軍している。50年代以降、四川の作家協会の主席をつとめた他、1979年に北京に転勤となって中国社会科学院文学研究所所長の職についている。文化大革命の時は1968年に監獄に送られ、72年に釈放されているが、その間やその前後、多くの作家たちと同じようにひどい目にあった。かつて読んだ彼の文章に拠れば、紅衛兵たちが沙汀を跪かせよう

としたが、沙汀は頑強にこれに抵抗し、最後には彼に薬を飲ませて無理やり跪かせたということである。老舍などのように自分の意志を貫き通さなかったということではいろいろと毀誉褒貶があり、作風について確かに欠点も認められるが、総合的に見れば優れた作家と私は考えている。彼のペンネーム「沙汀」であるが、この「沙」という字については諸説があり、ある伝記の作者の説に拠れば、彼は小さい時から四川原産の魚、「沙勾魚」を食べるのが好きであったことからこのペンネームにしたのだということである。晩年、彼が故郷へ帰った時魚料理に鯉が出てきたので、沙汀は怒って「自分は四川人だから沙勾魚が好きなんだ」と言ったというエピソードもある。「汀」字については彼の郷里には川や湖が多かったことと関係があるかもしれない。按：ペンネームと「沙勾魚」の関係については沙汀自身が「ある親戚が文章を書き、「沙汀」の由来は私が「沙勾魚」を食べるのが好きだったからだと言っているが、もちろんこれは間違いである」と否定している（呉福輝『沙汀伝』pp18）。また「文化大革命の始まった時、私は疑いを抱かず、常に自分に誤りがあり、それを当然点検すべきだと思っていた。当時、毛主席の威信は高く、それに加え私たちの長期にわたる思考の習慣と仕事の習慣から、紅衛兵のやり方が過激であったとしても、やはり一心にこの政治運動を支持していた」と沙汀自身が述懐しているように彼は当初、文革に対して肯定的であったことは間違いない。更に呉福輝は、造反派が沙汀たちに跪いて自分の犯した罪への許しを請わせようとした時、睡眠薬を服用していた沙汀は意識が朦朧としていたこともあって簡単に膝を屈してしまい、それが他の同志たちへのプレッシャーになったと言う（『沙汀伝』pp428-29）。

一个秋天晚上：1944年11月24日、沙汀が41歳の時に重慶で脱稿した作品。作者の回想に拠れば、重慶にいた時、部屋に五、六日閉じ籠もって一気に書き上げた作品であるらしい（『沙汀自伝』pp302参照）。また『沙汀代表作』（黄河文芸出版社1989）の脚注に拠れば、1945年2月に『青年文芸』月刊第1巻第6期に掲載され、当初は「堪察加小景」という題であったが、のちに『沙汀短篇小说集』（人民文学出版社 1953）でこの「一个秋天晚上」に改められたと言う。「堪察加」とは抗日戦争期、新聞界の辺鄙な大後方に対する冗談めいた呼び方である。なぜこの題を改めたのか、その理由を呉福輝は「班長は大部分のチャンスを民兵の谢开太の愚かさによって邪魔されているが、彼もまた虐げられてきた一人であり、心の中は真つ暗闇ではない。解放後、この作品の雰囲気への理解に基づいて沙汀は「一个秋天晚上」と題名を改めるが、「秋天」とはこの点を暗示しているので

ある」としている（『沙汀伝』 pp310）。

また、沙汀の小説は、彼自身が認めているように、作者の見聞した出来事や実在の人物がモデルとなって描かれることが多いが、この作品についてもある程度それは当てはまるようである。呉福輝はこの作品が書かれた背景及びその特徴について、「近くのある郷の有力者とその妻が流娼を追っ払った話を彼（沙汀：訳者注）は聞いたことがあった。彼らは二本の大木に穴を空けたものの中に人間の手足を差し込ませ、両側を止めると動こうとしても動けなくなってしまう。普通の足枷よりも残酷なもので、これを「脚柙」と言うが、蕭文虎の郷公所にもこの刑罰はあった。この娼妓の哀れさを描くのは難しいことではない。しかし、機会に乘じ彼女を手込めにしようとしていた班長が、女性から彼女の兄が二度もお金を出したのにもかかわらず兵隊に取られ、また自分も騙されてきた経緯を聞かされ、班長自身も兵役逃れで郷公所に勤めていたことから、彼女に同情し邪念が消えていくが、このような描き方は彼の作品には多く見られないものである」とする（『沙汀伝』 pp309）。この蕭文虎という人物は、40年代、国民党から逮捕令が出されたために沙汀が避難していた安県睢水郷の郷長であるが、彼は「袁寿山の甥であり、また袁寿山の睢水における政治上の合法的継承者」（前掲『自伝』 pp286）であった。この「睢水郷の主たる実権派」（前掲『自伝』 pp281）である袁寿山こそがこの作品の影の悪役、郷長のモデルではなかったかと考えられ、作者自身も微妙にそれを示唆するような文章を残している。「当時、農村が崩壊し、落ちぶれて娼妓となった若い娘たちもしばしば睢水へ飯の種を求めてやってきていたが、このような害を被り、侮辱される女性たちを、一般の市民は一顧だに値しないかのように“货儿子”、あるいは単に“货”と呼んでいた。そして新しい“货”（商品）が市場に出るたびに、まじめな人間のふりをしながら妾を囲っていた袁寿山もときたま足を“お運びになり”、千篇一律の生活にアクセントをつけるのであったが、彼はこれを“逢场作戏”（たまたま機会がある時、気まぐれに遊ぶ）と言っていた。見聞を広めるために、ときどき私も彼らと一緒に遊びを見にいった。……中略……のちにはこのような生活を反映する小説「一个秋天晚上」を書いた」（前掲『自伝』 pp295-296）

なお、本訳注は黄河文芸出版社排印本に拠るが、「堪察加小景」との異同については『中国郷土文学大系 現代巻』所収のテキストに拠って適宜、注記する。王注：この題「一个秋天晚上」は時間について説明しているだけで、年代や時代背景については何も言っていない点に注意してほしい。それゆえ作者は一般的な

歴史観を超越した四川の農村の風俗小説を書こうとしたのであろう。それではこの秋の夜にどのような物語が生まれ、どのような人物が登場するのであろうか。作者は物語と人物の上に人間の本性を描き、人間の本性の善と悪を通じて中国社会、特に四川の社会の一面に光を当てようとしたと言えるであろう。この小説の登場人物は全部で三人しかおらず、彼ら三人は「正面人物」(善玉)としては描かれていない。善玉は普通、英雄など立派な人間であるが、しかし描かれる三人のうち、二人は民兵、一人は娼婦で、中国では「负面人物」(負の要素が強い人物)、あるいは「反面人物」(否定的に描かれる人物)であり、よく言っても「灰色人物」(評価のはっきりしない人物)と言える。作者はこれらの善くもなく、悪くもない三人の人物から善良な人間性の一面を掘り起こす。同時にこの三人の生活がいかに困難であるかが描かれ、そこから一般の真面目な農民の生活の苦しさが容易に想起される。

2. 原文は「郷公所」 「堪察加小景」(以下、「堪」と略す)では「公所」に作る。「郷」政府の事務所。県以下の地方の基層組織で国民政府により設置され、台湾では現在も廃止されていない。民国28年(1939)年9月19日に公布された「県各級組織綱要」の規定に基づけば、県より下のレベルの組織を郷(鎮)とし、郷(鎮)内の編成を保甲とした。郷は人が散居しているところを指し、鎮は人口の密集しているところを指す。郷(鎮)の区分は10保を原則とし、従前の規定で一鎮の戸口が100戸とされていたものが一気に1000戸に増え、郷(鎮)政権の地位の向上につながった。郷(鎮)には郷(鎮)公所が設けられ、郷長一人、副郷長一人乃至二人が置かれた。郷長、副郷長は郷(鎮)民代表会によって選挙され、任期は二年で再任も可能であった。郷(鎮)公所にはその下に「民政」「警衛」「経済」「文化」の四部門があり、それぞれの部局に主任一人、幹事若干名が置かれる。また「管」「教」「衛」三位一体制度を実現するために、郷長が郷(鎮)の中心的学校の長(普通は小学校長)と郷(鎮)壮丁隊の隊長を暫時兼任した。『中国官制大辞典』pp811「郷公所」、『中華民国史事件人物録』pp310、『支那問題辞典』pp472-473「村落組織」、松本善海『中国村落制度の史的研究』pp539-564第2章「中国における地方自治制度近代化の過程」を参照。王注:「郷公所」は中国では比較的小さな機関であり、「人民公社」に相当するであろう。治下の土地面積がどれくらいかと言うと、一、二万人の人が住んでいるくらいの規模である。
3. 原文は「湍激奔腾」 「湍激」は水の流れの激しいさま。「奔腾」は多くの馬が飛ぶように疾走することから、勢いよくすすむさま。

4. 王注：小説の冒頭の段落（「一阵细雨」～「人影子的」）で、作者は雨、風、夜、寒さ（原文は「寒」）、活気がない（原文は「没一点活气了」）という五つの修飾語によってたちどころに読者を冷たく、陰気で寂しげな山地へと誘う。最初に作者は静まりかえって寂しい雰囲気強調しようとしたのであろう。だからこの段落の前半分では「穿山风」（山をうがつ風、四川方言）や「例有的寒冻」（毎年きまって訪れる寒さ）など自然の様子が描かれ、後半では具体的にこの地域社会全体の活気に乏しく荒涼とした感じが描かれている。
5. 原文は「但在一两顿饭久以前」 食事に要する時間が「一顿饭」であるから、一、二時間程度。 王注：「久」は時間を意味する四川方言で、普通話ならば単に「但在一两顿饭以前」と言うだけである。「一两顿饭」に要する時間（一時間半から二時間）ほど前に、という意味である。
6. 原文は「赶场」 四川方言で定期市へ行くこと。四川ではごく一部の県をのぞき、定期市を「场」と言う。崔榮昌『四川方言与巴蜀文化』pp317参照。崔書は移民などの視点から四川方言の歴史的形成過程を論じており、四川方言の特徴を把握するのに有用である。中国の各地で農村の定期市をどのように呼んでいるかについては、陳正祥『中國地圖集』（天地圖書有限公司 1980）に「中國鄉村市集通名的地區分布」という分布図があり、参考になる。ちなみに民国22年刊『安縣志』卷17「建置」に拠れば雒水區の市は二、五、九の日にたつことになっており、三十の市がたつ地名が載せられているが、その中に東嶽廟もある。
7. 原文は「摆摊」 露店を出す。
8. 原文は「坝子」 『四川方言詞典』は「平地あるいは平原」とし、「操场坝子」と「川西坝子」の例を挙げている。蕭紅燕『中国四川農村の家族と婚姻』pp25では「坝子」「平坝」「坝坝」を同じとし、「西南中国の各地では、平な土地または平原を意味し、四川西部成都一帯の「川西坝子」のように、地名としてよくみられる。四川東部では「坝」は山間の盆地あるいは山脚地帯にも使われる」としている。 王注：一般的な意味での「大坝」（大きな土手）ではない。四川方言では比較的大きな空き地を「坝子」と言う。
9. 原文は「着实热闹」 「着实」は確かに、本当に、の意味。 王注：中国の農村の定期市はあっという間に人が来てにぎやかになり、あっという間に誰もいなくなってしまう。前の段落で「冷」を描き、ここでは「热」（にぎやかさ、活気）を描きはじめていて著しい対照をなしている。
10. 原文は「颇为别致的示众」 王注：「示众」とは人間を縛って拘束し、公衆の面

前で辱めたり、殴ったりすることである。1950年代以前にもこのようなことが娼婦、国民党員、共産党員に対してごくたまに行われていたが、文化大革命になると日常茶飯事で、一部の人間を縛って車に乗せて街中を巡っていた。であるから「示衆」は、一種の人間を侮辱する方法である。しかもこれは「颇为别致」(大いに普通とは異なる)な「示衆」である。ではどこが異なるのか、多少、補足しておきたい。中国は閉鎖的な社会であり、特に男女問題については昔の人が「男女授受不親礼也」(『孟子・離婁』)と言っているように、一般的に男女は接触が許されておらず、兄嫁が溺れて死にそうになった時に、手を伸ばして助けるべきか否かという問題が孟子の時代から二千年以上も議論されてきているほどである。まさにこのように閉鎖的であるがゆえに、娼婦を捕まえたり、あるいは中国で言う「风流韵事」(男女間の桃色事件)が世の明るみに出た時、みなに興味を示す。だから作者は市場の老若男女が全員一人の例外もなく見に来て来たと言っているのである。更に付け加えれば、先秦から隋唐までは「男女授受不親」はそこまで厳しくなく、宋明理学が登場してからかなりひどくなり、最もひどかったのは清末民国初期である。農村の女性などは結婚前に相手の男性に会うことはできず、これなど「男女授受不親」の典型的な例である。

11. 原文は「让他们替自己寂寞寡欢的生活撒上一点香料」 公開処刑や見せしめを楽しむ無自覚な民衆については、『阿Q正伝』を嚆矢として多くの中国の作家たちが小説や記録文学で取り上げてきているが、もっともこれは中国に限った問題ではなく、中世のイギリスでは処刑場をよく眺められる場所の権利がまるで劇場のチケットのように売買されたくらいである。 王注：一人の娼婦を捕まえ、しかも街を練り歩いて人々に見せしめにする光景は、楽しいことが何もない味気ない生活を送っている人々にとって、興味津々のエンターテインメントであった。
12. 原文は「篾折棚子」 「篾折」はむしろの意、「棚子」はバラックの意。 王注：「篾」は竹で編んだものである。四川には竹が特に多いため、「篾席」を作るのである。
13. 原文は「肥肠猪血」 「肥肠」は豚の大腸のこと。食用。「猪血」は豚の血に塩を加え蒸して固まらせた食品。血豆腐。紅豆腐。四川、雲南などでは屋台で売られており、見た目も味もレバーのようである。
14. 原文は「行灶」 移動できるかまど。
15. 王注：ここでは一陣の雨がにぎやかな見せしめの場面を「烟消云散」させてしまったのである。雨のためにみんな立ち去り、もとの荒涼とした風景にかえったの

である。第一段落から寒々しい様子→騒がしい様子→寂しい様子と変化を繰り返している。

16. 原文は「筱桂芬」。「筱」は「小」に同じ。人名に用いることが多い。「堪」では「花名叫筱桂芬」とこれが源氏名であることが明示されている。『四川民俗大典』pp110-111「娼妓」に拠れば、民国時期、成都だけでも公娼、私娼あわせて三万人の娼妓がいた。春をひさぐやり方には代帳、自帳、花頭、遊娼など何種類かあるが、遊娼は娼妓の中でも最低ランクであり、多くは人通りの少ないところで白粉や口紅をつけて男性を誘惑していたという。作者はこのような「流娼」の悲惨な境遇を熟知し、かつ彼女たちの境遇に深く同情しており、それがこの作品の執筆にも影響を及ぼしたようである。「小さい時から男女のことについて知っていたって？たくさん見たら、だんだんわかってくるものだよ。私は女性を描くことは少なかったが、この手の女性には同情していた。子供時代の記憶がなかったら、「一个秋天晚上」の流娼に対して筆先にあんなに多くの感情が込められることはなかったろうね」（『沙汀伝』pp20より） 王注：「筱」は細い竹のことであるが、ここでは「筱」は彼女のこの名前が源氏名であること、あるいは彼女が若いことを示している。ここに来て人物が登場してくるが、それがこの場所に引きずって来られ、さらし者にされた「流娼」である。「流」とは「到处奔走」（あちこちを移動する）、「娼」は娼婦を指す。彼女は妓院の娼婦ではなく、各地を移動する娼婦なのである。またこの「流娼」の名前も重要である。「桂」はキンモクセイの花、「芬」は芳香のことである。キンモクセイの強い香が人を惹きつけるように、彼女にも強烈な香りがあることを表している。では、彼女はどうして娼婦の中でもランクの低い「流娼」をしているのか。その答えは「筱」や「桂」という言葉に表れている。中国では（大きな花の咲く）牡丹という名前は「大名」（立派な名前）であるが、それに対しキンモクセイは花が小ぶりであることから、彼女は年若い容姿は一般的であろうと想像される。またそれは後出の班長の目に映った彼女のイメージ描写からもあまり美人ではないことが裏づけられる。
17. 原文は「她立刻碰上了好运气」 王注：作者はここで四川人のユーモアのセンスを発揮している。ここは反語で彼女は「立刻倒霉了」ということなのだが、それを「她碰上了好运气」と表現している。四川方言あるいは中国語の中では反語が用いられることが多く、例えば特に好きな男性もしくは女性を「冤家」と言うが、これは仇の意味ではない。もっともこの段で用いられている「好运气」は常用語ではなく、意図的な反語である。

18. 原文は「那意外的遭际了」 王注：これは作者の「卖关子」（講釈師などが山場で話を打ち切ってじらすこと）であり、一体全体、娼婦の身に何が起きたのか作者はわざとすぐに語ろうとせず、読者の興味を惹きつけようとしているのである。
19. 原文は「她只想好好地躺一躺, 息一息已经酸软的周身关节, 糟糕的是地面上已经因为下雨糊上一层泥浆」 このテキストでは彼女は横になるのを始終、ためらっているように読めるが、「堪」では「那怕就是泥地上躺一躺也不错」（たとえ泥んこの地面に横になるのでも悪くない）となっており、ぬかるみでも横になるのを辞さない決意を持っているようにとれる。『中国居住建筑簡史』pp125「四川住宅建筑」に拠れば、四川盆地の土質は多くは赤紫色の砂岩か粘土であり、それゆえ赤色盆地とも呼ばれている。また四川省の降雨量はかなり多く、年間約1000ミリ程度と長江中、下流の各省と大差がない。四川中央部では秋の夜に雨がよく降り、「巴山の夜雨、秋池に漲る」（李商隠「夜雨寄北」）とはこの現象を指すものであり、また四川西部には「天漏」という俗語があって多雨を形容している。それゆえ、この時期に雨が降って地面がぬかるむのはこの一帯では珍しいことではない。王注：彼女は体を横たえ—もちろん地面の上ではなく、室内で—、疲れ切った関節をリラックスさせたいと思っているが、ついていないことに雨が降って地面は泥だらけであり、彼女は横になることもできなければ、関節を休めることもできなかった。四川は粘土質の土壌であり、北京の砂地とは違って、ちょっとでも雨が降ると非常にねばねばしてくっつきやすくなり、歩く時靴まで脱げてしまうほどの泥んこになる。
20. 原文は「她已经直挺挺坐了好几个钟头, 后衣包和裤子早湿透了」 「堪」では「她已经直伸伸站立了好几个钟头了」とあって筱桂芬が何時間も立ち続けていたことになっているが、ここでは座っていたことになっており、これより後の部分でも「站」から「坐」へと表現が改められている個所がある。またこの改訂に伴い、彼女がずぶぬれになっていることを描写する語句も新たに書き加えられているので、作者は筱桂芬がずぶぬれになって悲惨な状況にあることを強調するため、彼女がぬかるんだ地面に座っていることにしたのかもしれない。ただし、『四川方言詞典』の「脚柞」の項目では、「使用时象枷锁一样枷在受刑者两条小腿上, 使其既不能坐, 也不能卧, 更不能直立行走」（使う時には、首かせや鎖と同じようにすねの部分にはめ、座ることができないばかりか横にもなれず、ましてや立って歩くことはできない）とあり、「脚柞」を足に着けられると座ることも難しいようなので、リアリズムの観点からすればこの改訂には若干、無理がある。「后衣包」

はおそらく「身后衣包」または「背后衣包」（後ろに背負った衣服袋）のことであろう。王注：「后衣包」はチーパオの下の部分のことであろう。

21. 原文は「是她上半天跑了五十里路」 「堪」では「五十里路」ではなく「三十里路」となっていた。五十里（清代の一里は576m、現代中国では一市里が500mである）も歩いているところを見ると、彼女は纏足をしたことがなかったようである。前掲蕭書pp348ではD. Davinの纏足分布の境界線図を載せ、纏足の境界線が二期作水稻の北限と一致していることから、二期作水稻区の農業形態が女性に農作業への参加を促し（結果的に纏足がその地域で流行しなかった）という中生〔1991a：169-170〕の指摘を取り上げる。D. Davinの境界線図では四川の北部と中部は纏足の分布領域とはなっているが、これについて蕭書pp347では、四川で農村の女性まで果たしてみな纏足をしたかどうか定かではなく、少なくとも80歳代以下の女性にはそのような慣習が見られないとしている。
22. 原文は「半下午」 王注：四川方言で午後四時頃を指す。
23. 原文は「一件印花的绸旗袍」 「旗袍」はもともと満州族旗人の女性が着用する「袍服」であったが、1925年以降、上海の女性がこれを基に西洋の服装を参考にして手を加えたものが女性のモダンな服装として普及していった。1920、30年代、「旗袍」のスタイルは様々に変化するが、特に1931年には「旗袍花边运动」が起こり、全体の縁にレースの飾りをつけた「旗袍」が流行った。ここでの「印花」は「図柄をプリントする」という意味であるが、各種の花を刺繍またはプリントした「旗袍」も少なくない。『老月份牌廣告畫 上卷論述篇』pp36、80参照。
王注：比較的安いチーパオである。高級なのは「绣花」（図柄を刺繍する）したもので、刺し子が手で刺繍したものが最も高価であり、「印花」（図柄をプリントしたもの）は一般的な普及品であるが、それでも（普通の女性が着ているものに比べれば）よい服であることは間違いない。
24. 原文は「红底白花」 赤地に白い花。「花」は模様という意味ではなく、花の絵柄を指す。
25. 原文は「招摇过市」 仰々しく自分を見せびらかし、人目を引くこと。 王注：（この文で）重要なのは、「招摇过市的」という部分で、これは娼婦が自信たっぷりに歩く、歩き方のことである。またもう一点、彼女がここにやって来て、口紅と白粉をつけ、チーパオを着、花柄の布靴を履くと、あっという間に他の人とは異なった様子になってしまい、だからこそ彼女は「招摇过市」するのであり、大して器量のよくない娼婦でも目立ってしまうほどこの土地が田舎であることが

強調されている。

26. 原文は「栈房」 宿屋。木賃宿。『四川方言詞典』、『四川方言与普通話』ともにこれを四川方言としている。
27. 原文は「而她不久就碰见了対头」 「対头」は相手、敵の意味。 王注：彼女は「招搖过市」した結果、敵に出くわしてしまう。敵とは彼女を捕まえさせた人物である。
28. 原文は「这是她一两年流浪生活中没有过的遭际」 「堪」では「这是她一两年間稀有的遭际」となっている。 王注：前の段落に引き続き、彼女の境遇を紹介している。この一文から彼女が二年間、娼婦として生活を送っていたことがわかる。
29. 原文は「挨打受气不必说了,最后还被拖来示众」 「堪」では「辱罵不必说了,她还挨了一顿耳光,最后是被拖去示众」に作っていた。「示众」は見せしめにする。一口に見せしめと言ってもやり方はいろいろあった。前掲蕭書pp390に拠れば、解放前、四川豊県馮村一帯では泥棒を捕まえた時、村落の処置として、泥棒を通り道の木に縛り付ける「示众」がしばしば行われ、罰として非常に有効であったらしい。これは私刑に近く、また更正の余地もあるが、沙汀は『自伝』の中で、民国が誕生したばかりの頃、処刑した匪賊の首を木のかごに入れて、県城南門外の橋にぶら下げる「示众」がしばしば行われていたことを回想している。
王注：「挨打受气不必说了」とあるからきっと「挨打」され、「受气」されたのである。しかしこれよりもっとひどいのは、最後に引きずられ、「示众」（見せしめにする）されたことである。「示众」については前にも述べたが、中国では特殊な意味がある。およそ人を侮辱し、貶める時、その人間を「示众」する。「示众」の方法はたくさんあるが、最もよく使われる方法は人を縛り、ぶちながらその人を歩かせ、みんなに見せるやり方で、一種の懲罰であり、「杀一儆百」、つまり一人の人間をぶって教化し、みんなを脅かすのが目的であろう。これは最も簡単な見せしめのやり方であるが、もう一つ、紙でできた大きな帽子をかぶせるやり方がある。帽子にはその人物を侮辱する「流氓」（ごろつき）、「坏蛋」（ろくでなし）等の言葉が書かれ、高い帽子はそびえ突き出ていることから、特に目立ってみんなが目にすることができる。一般的に、「示众」されて貶められた人間は、その後はその社会の中で生きていくのが難しくなる。
30. 原文は「但若果是嘴不硬」 王注：彼女の「嘴」が「不硬」だったらば、ということであるが、四川の若い女性は性格が一般的に「泼辣」（活発で弁がたつという褒める意味合いがある）である。そのため口では絶対に負けを認めず、いつも

「据理力争」(筋の通っていることを押し通す)し、自分に道理があると主張して自己を弁護しようとするが、これが「嘴硬」である。

31. 原文は「被柞上脚柞的」 「脚柞」は黄河文芸出版社排印本の脚注では「刑具の一種で、二枚の大きな木からできており、四川の西北部の農村でよく用いられた。犯罪者の逃亡を防ぐために使われ、足枷よりも効果的であったが、よりむごい罪作りな刑具であった」とある。また「柞上」の「柞」は動詞である。『四川方言詞典』では、「za 4 (动) 铐上」として「堪」のこの文を用例に挙げている。王注:「脚柞」はそれぞれが10キロ近くあり、普通は死刑囚にはめるものである。「脚镣」(足枷)は「脚柞」よりも軽く一キロ位しかない。「柞」には二つの意味が考えられ、一つは「柞树」(コナラ・クヌギなどの総称)などの葉を食べる野生の蚕を「柞蚕」と言うことから「像蚕一样困住」(蚕が繭を作ったように動けない) 枷という意味と、もう一つ、「柞树」を材料として作った枷という意味がある。
32. 原文は「背后有个墙壁也好, 她可以靠一靠, 倒霉四面都是空气! 她好几次决了心就这样躺下去, 但总临时又动摇, 因为她就只有这一身盖面衣服」 この段の描写は「堪」と比べるとかなり書き換えられていることがわかる。「堪」では「曾经有好几次, 她试想蹲下来, 这至少腿子好受一点, 但她拿不定重心, 又磨得脚胫作痛, 她立刻就又站起来了」(彼女は何度もしゃがみ込もうとした。そうすれば少なくとも足は少し楽になるのだが、彼女は重心をとることができず、また足がこすれて痛いので、またすぐに立ち上がることになってしまうのだった) とある。なお、王師は原文の「决了心」を四川方言とする。また「盖面」は、一番外側のみかけを取り繕う服。四川方言では碗の一番上にのせる最も上等なおかずのことを「盖面菜」と言う(『四川方言詞典』)。王注:「盖面」は四川方言である。外に出かけて人に会う時に、「显得很体面的, 好看的」(まともに見える、きれいな) 服を指す。もし泥の中に横になってしまえば、翌日はひどい有様になってしまうため彼女はどうしても横になることができなかった。ここではこんなにひどい侮辱を受けながらも、(自分の体面を守ろうとする) 彼女の自尊心が描き出されている。
33. 原文は「现在, 她是完全地绝望了. 嚶嚶啜泣起来」 「堪」では「现在, 她已放弃了这个念头, 但嚶嚶啜泣起来」となっている。「嚶嚶啜泣」は、しくしくとすすり泣くこと。王注: 彼女は一縷の希望もなくなり、そして自分の悲惨な運命に思いを馳せて泣き出すのである。「嚶嚶」とは鳥の声の形容であり、「啜泣」は小声で泣くことである。

34. 原文は「我犯罪来吗」 王注：「来」は四川方言である。意味は普通話の「我犯罪了吗」ということである。 按：『四川方言与普通話』、『四川方言詞典』『四川方言与民俗』などにはこうした「来」の用法について記述がないが、『成都方言語法研究』pp61では先行体を表す語気詞としての「来」があることを指摘している。この文を先行体の先決条件となる文として解釈すれば、「(自分をこんな目に遭わそうというのなら)、あたいが罪を犯してからじゃないのかい？」となる。
35. 原文は「我又没偷人抢人」 王注：「偷人」「抢人」以外は犯罪ではないと考えられている。四川方言では、「偷人」とは既婚の女性が夫以外の男性と仲良くなること、「抢人」は男性が道行く人から略奪すること、あるいは人の家から金銭や物を盗むことであり、必ずしも人を盗むことを指すのではない。 按：「偷人」は普通話でも使われ、他にも「偷汉子」「偷人养汉」などの言い方があり、いずれも女性が「間男する」の意味である。しかし、「抢人」を王師のように解釈するとすれば、これが犯罪行為でないとは考えにくいので、訳文ではこの語は訳出しなかった。待考。彼女はこの町に来たのが最初であるから、「自分は不義密通などしていない」と身の潔白を主張しているのである。実際に彼女のような流れ者の娼婦が相手にするのは、主に貧困層の独身の労働者であったようである。(『自伝』pp25)
36. 原文は「第一次那么明显的感觉到自己的可怜」 王注：この娼婦はこの仕事をして二年になるがそれまで特に自分を哀れと感じたことはなかった。前のところでも「招摇过市」とあって彼女は「春风得意」(物事が順風満帆である時の誇らしげな様子の形容)と感じているかのようなのであるが、今、彼女は初めて自分を哀れに思ったのである。なぜ哀れなのか、それは以下に説明がある。
37. 原文は「饱饭」 王注：少しお腹を満たすような食事。
38. 原文は「逢人要好」 王注：男性に会うたびに媚態を示し、ご機嫌とりをしなければならない。それは彼女が娼婦を生業としているからであり、しかも彼女は器量がそんなによくないため、なおのこと「逢人要好」しなければならないのである。
39. 原文は「现在更是连犯人都不如了,因为她就从来没见过犯人象她这样,深更半夜拿脚柞柞在露天坝里」 「堪」では「现在是连犯人都不如了,因为她就从来没见过犯人像她这样」となっている。 王注：罪人でも屋根のあるところに拘置されるが、彼女は真夜中、屋根もない場所に放り出されているため、彼女は悲惨だと思ったのである。なお、「露天坝」は四川方言で、上に屋根のない露天のある狭い

場所を意味する。

40. 原文は「无论如何也不能就这样过一夜」 王注：屋外に放り出されたままでは凍死するか、野獣などに襲われるかであろうから、このままで夜を過ごすことはできないと彼女は思ったのである。
41. 原文は「申斥」 部下や若輩者を叱り諭すこと。なお、「堪」では四川方言の言い回しが用いられていたため「粗话」（卑俗な言葉）となっている。 王注：言い方はもの柔らかいが、この「你是在喊冤哇？！」という言葉自体は内容からして相手を訓戒し、叱責するものである。
41. 原文は「你是在喊冤哇？！」 「堪」ではこの句は「火锹给你插进去了吗？」（焼けたスコップを突っ込まれでもしたのかい？）となっていた。四川方言の独特の言い回しであったために、読者のことを考えて表現を改めたのであろう。 王注：これは四川方言の言い方であり、「你在乱叫乱嚷什么？！」（何をやたらにわめいているんだ？！）という意味である。ここの「喊冤」は派生義で「乱叫」（やたらにわめく、騒ぐ）の意味で使われており、その後の筱桂芬のせりふ、「当然是喊冤罗！」の「喊冤」（冤罪であることを申し立てる）は本義であり、意味が異なる。またこの段に出てくる「哇」と「罗」であるが、四川方言では「哇」は疑問を表す言葉であり、「罗」は「就是」の意味がある。 按：『四川方言詞典』では「罗」を、「事実の承認を表し、かつ感嘆のニュアンスがある」とする。
42. 原文は「顶着」 逆らうこと。抵抗すること。 王注：相手の言うことに真っ向から反論するように言うのである。中国語には「顶嘴」（たてつく）という言い方もある。
44. 原文は「所丁」 郷公所に勤務する「壮丁」。ここでは、以下「民兵」と訳す。国民党政府が実施した保甲制度で、一つの保に属する18歳以上45歳以下の男性は「壮丁」と呼ばれ、壮丁隊に組み入れられて道路の改修などの労役に従事させられた他、一部は軍隊に召集された。ちなみに『安県統志』の「四川省第十三区安県二十六年七月份保甲概況統計報告表」に拠れば、1937年の時点で安県の全人口は179021人、男性は97063人、うち壮丁は24844人、保長は364人、甲長は3652人となっている。当時、民衆が何よりも恐れたのは徴兵であり、例えば山本真「日中戦争開始前後、四川省新都県における県政改革の実験とその挫折」に拠れば、実験県が設置されていた四川省の新都県では1937年から1938年の二年間で約1700人の壮丁が徴兵されている。新都における徴兵は義勇壮丁と義勇補充壮丁との二種類に分かれ、義勇壮丁は国軍を補充するもので前線に赴かねばならず、死ぬ危

険性も高い。そのためこの徴兵がのちに新都事件勃発の原因の一つになったと言われている。また沙汀の小説「呼嘯」では、夫をこの義勇壮丁に取られ、転戦する夫の帰りを待ち続ける女性の苦しみが描かれている。義勇補充壮丁とは前線に赴いた四川軍を補充し、省内での軍役に従事するものである。後で出てくるように徴兵を逃れるにはお金を払うのが手っ取り早い、必ずしも成功するとは限らず、一番確実なのは作者の小説「公道」に「这是朱大娘的儿子，原在本街上卖瓜子纸烟，因为怕拉壮丁，三个月前才在城里补上警察的缺」（それは朱お婆さんの息子だった。もともとこの街で瓜の種やタバコを売っていたのだが、壮丁に引っ張られるのを恐れ、三ヶ月前になんとか県城で警察の欠員をうめることになったのであった）とあるように、前もって警察や郷公所などで警士や所丁として「服役」することであった。

45. 原文は「腰杆」 腰部。『四川方言与普通話』に拠れば、四川方言では身体部位の名詞に「杆」がつくことが多い。
46. 原文は「坐痠」 「堪」では「站酸」に作り、彼女は立ちっぱなしということになっている。「痠」は、病気や疲労が原因で手足や腰などの筋肉が痛み、体がだるいこと。「酸」にも作る。
47. 王注：彼女は相手が自分を管理する立場にある「所丁」であることを忘れて真っ向から言い返すが、（この情況から脱することが本来の目的であり、きつい口調で口答えすべきではなかったと気付いて）すぐに口調が柔らかくなり、いくつかの理由を述べて「所丁」の同情を買おうとしている。
48. 原文は「可惜不是我把你柞起的啦？」 四川方言での動詞の後に置かれる「起」の用法はかなり普通話と異なる。『四川方言与普通話』に拠れば、その異なる用法の一つとして「四川方言里的“起”，相当于普通话里的时态助词“者”或趋向动词作补语的“上，下”」と述べている。王注：「可惜」は普通話の「可惜」（残念なことに）ではなく、四川方言の「但是」（しかし）、「退一步说」（それはそれでも）の意味である。
49. 原文は「叫屈」 不平不満を口に出して訴えること。王注：民兵は先ほどは「骂她」していたのに、ここでは「叫屈」となっており、明らかに彼女に同情しはじめている。
50. 原文は「情不自禁」 こみ上げてくる感情を抑えきれないように。思わず。王注：彼女がしゃくり上げたため、民兵はますます同情する。
51. 原文は「就像你把她柞起的样！」 王注：これは独り言のようなせりふである。

ここでの「你」は「我」のことであり、四川方言ではしばしば二人称が一人称になる。話をする「我」がいて、その思考の相手となる第二の「我」が往々にして二人称となり、「你」と呼ばれるのである。

52. 原文は「很有点象替自己辩解」 王注：民兵は更に一步踏み込んで彼女に同情する。
53. 原文は「黑魑魑」 王注：これは門が黒いだけでなく、門の中も含めて言っている。四川方言では「heisuosuo」と発音し、「阴森可怕」（薄暗くて気味が悪い）という意味である。
54. 原文は「他叫谢开太, 诨名老娃, 是个性情厚重, 行动迂缓, 矮而结实的农民」 「堪」では「他叫谢老娃, 是个心思迟顿, 行动迂缓, 矮而结实的汉子」に作っており、気働きも動作も鈍いとしていたのを、「性情厚重」（しっかり落ち着いた性格）として高い評価を与えている。また「汉子」を「农民」に改め、その出身を明示している。 王注：「娃」は子供を意味するが、「老娃」は年はいっているが子供のよ様な美しい心を持っている人間のことを言う。
55. 原文は「揎上大门」 王注：「揎」は門のかんぬきをかけ、門をしっかりとしめることである。 按：『四川方言词典』「揎」項では「用手推」（手で推す）と説明している。
56. 原文は「但他刚才伸出手臂, 却又慢慢缩转去了」 王注：「刚才」は一つの言葉ではなく、「刚」（あるいは「刚刚」）と「才」とに分けて読むべきである。また「缩转去」は「缩回去」の意味であり、四川方言である。 按：『四川方言词典』「转去」項では、「趋向补语。用于别的动词之后, 相当于“回去”」とある。また、名詞としての「刚才」は通常、主語の前に置かれることが多く、ここで「刚」がその後の「又」と呼応していると考えられる点も王師の解釈の妥当性を裏づける。
57. 原文は「他听见班长陈耀东在吆喝」 王注：ここですぐに班長の名前「陈耀东」が紹介される。はっきりと聞き取れないが、非常に大きな声音を「吆喝」と言う。おそらく班長は、「别关门！」「等一会儿！」などと大声で叫んだのであろう。
58. 原文は「他生气地咕噜道」 「咕噜」はつぶやく、ぶつぶつ独り言をいうの意。 王注：谢开太は腹を立てながらも、相手が班長であるために小声でこうつぶやくしかなかったのである。
59. 原文は「夜猫子」 ふくろう、みみずく。転じて夜更かしをよくする人。『四川方言词典』「夜猫子」項では「猫头鹰, 喻指夜里不睡觉的人, 又说夜猫儿」（ふくろう。夜、寝ない人を喩えて指す。「夜猫儿」とも言う）とする。もっともこの

言葉は東北など四川以外の地域でも用いられている。

60. 原文は「三十挨边」 『四川方言詞典』では「挨边」を「ngailbian1 (动) 靠近;接近」と説明する。王注:「挨边」は四川方言である。もう30歳に近づいているということであり、四川人の理解では29歳の筈である。もし「三十靠近的人」というのなら28歳の筈である。
61. 原文は「长条子」 『四川方言詞典』「长条条」の項では「cang2tiao2tiao2 (形) (〜的)形容人瘦长」とする。また四川方言には名詞に接尾辞「子」がつくものが非常に多い。王注:四川方言である。痩せていて、背が高いことである。
62. 原文は「疥疮」 疥癬。疥癬虫の寄生によって発症し、伝染する。ちなみに沙汀も1941年の夏、ひどい疥癬に悩まされて医者にかかっており、そのときの医者が小説「医生」の主人公のモデルとなった。『沙汀伝』pp280参照。王注:昔、中国の農民がよく感染していた皮膚病の一種である。栄養不良や湿気などがおそらくその原因であろう。命に関わる病ではない。
63. 原文は「小粮户」 小規模の地主。
64. 原文は「红宝摊子」 賭博の一種。陶器の碗とサイコロで丁半を当てる「摇宝」ではないかと思われる。『沙汀伝』pp22参照。この「摇宝」はサイコロではなく、「宝盒儿」と呼ばれる壺を使用するという説もある。待考。
65. 原文は「纸牌」 賭博で使用する紙製のカルタ。トランプ、圓牌、四色牌なども含まれる。『安縣志』巻56「礼俗」に拠れば、かつては賭博にはまっている人間は百人のうち二、三人程度だったが、光緒、宣統以降、哥老会の人間が賭博で寺銭を稼ぐようになってひどくなったという。
66. 原文は「他来服役不到一年」 「服役」は兵役や労役に服すること。王注:民国の法律では長男は兵役を免除されていたが、この班長は兵役を逃れるために郷政府で働いていることからすると、当時、戦争が激しくなり、長男でも兵役を免れるのが難しくなっていたのであろう。
67. 原文は「想糟踏下筱桂芬」 「堪」では「想揩那流娼的油」(彼女からうまい汁を吸ってやろうと思っていた)に作っていた。また「揩油」には呉語で「调戏」(女性にわいせつな行為をする)という意味もあり、作者は上海に滞在していたこともあるので、より具体的なこちらの意味で用いていたのかもしれない。そして方言色の強いこの「揩油」から暴行を想起させる、より一般的な動詞「糟蹋」に改め、直前にある「邪恶念头」とも呼応させたのであろう。その過程で四川方言独特の用法である「下」が入り込んでいるのは興味深い。王注:みなさんに

注意していただきたいのはこの「下」である。これは四川方言では量詞であり、「一次」の意味である。按：『四川方言詞典』では「下子」を「ha4zi3（量）“一下子”的省文」と説明している。

68. 原文は「苦恼」 王注：この「苦恼」は「痛苦」の「苦恼」ではない。彼は公務員でありながら公務員の法律に違反することをやろうとしており、内心びくびくし、よくないとは思いつつもそれをしようとしている。
69. 原文は「才从德娃子的烧房里喝了干酒转来」 『四川方言詞典』に拠れば、「娃儿」は児女を意味する。「烧房」も四川方言で醸造所、造り酒屋。saolfang2「糟房」とも言う。「干酒」はいわゆる「白酒」、「白干」のこと。 王注：「烧房」はあまり上等ではない酒場。「转来」は「回来」の意味である。「干酒」は四川の「烧酒」（白酒）でアルコール度数は60度、非常に品質の悪い低級な酒である。この段は「以酒壮胆」（酒の力を借りて肝っ玉を太くする）と理解できる。班長は自分自身でも肝っ玉が小さいことがわかっていたのであろう。
70. 原文は「班长狡猾地一笑」 王注：「狡猾地」という表現から班長がいろいろと気を回しているのがわかる。彼が笑ったのは、谢开太のめんどくさそうなムードを和らげようとしたのである。谢开太は前のところで「厌烦死了」と言っており、腹を立てていたのであろう。
71. 原文は「没有那么好的福气」 「福气」は運命によって定められた享受する資格のある幸福のこと。 王注：谢开太は「我还在上班呢！」（おらはまだ勤務中だ）と言っているのである。
72. 原文は「你不会摸到场合上去熬夜吧？」 『四川方言詞典』に拠れば「场合」は「cang2ho3（名） 场所：特指赌场」とあり、四川方言で特に賭博場を意味する。 王注：ここでの「摸」は「偷偷地溜去」（こっそり出かけていく）の意味であり、このすぐ後に出てくる「你来摸吧！」の「摸」（手で触る）とは異なる。
73. 原文は「赊」 掛けで売り買いすること。
74. 原文は「摇摇头」 王注：お金がないことを触って確かめる必要もないということで首を横に振ったのである。もし「点点头」（軽く頭を下げる）となっていれば、きっと谢开太は触って確かめたことであらう。
75. 原文は「仿佛你把她炸起的样！」 王注：この「你」も第一人称の「我」の意味で用いられている。注51を参照のこと。
76. 原文は「那个露在场坝上的妇女」 『四川方言詞典』に拠れば「场」は、「集市」の意味である。なお、この個所は「堪」ではただ「她」に作る。

77. 原文は「今晚上只有我们两个人罗！……」 王注：娼婦がまだ泣いているようなので謝開太はこのことに関して班長と話をしようとするが、彼はあくびをして急に「今晚上只有我们两个人罗！」と「改口」（言葉を変える）する。なぜ彼が言葉を変えたのかというと、過度の同情は彼の民兵の立場にそぐわないと思ったからである。この言葉には多くの意味がある。一つは「我们不能出事」（私たちはトラブルを起こすことはできない）、二つ目は「我去睡觉啦, 你不能离开」（私は寝に行くからあなたはここから離れてはならない）、三つ目は謝開太の一抹の不安であり、それゆえこの後に省略記号があるのである。
78. 原文は「班长在大门边留下来」 王注：ここまでの一連の対話はずっと門のところで交わされ、班長だけは門の外に残ったのである。
79. 原文は「为了实现他的企图」 王注：「企图」は悪い意味で用いられる語である。「意图」ならば中性の語であり、「宏图」ならば褒める意味で用いられる語である。ここから作者の態度がはっきりする。この言葉には沙汀の班長に対する軽蔑や非難の意味が込められているのである。
80. 原文は「那全部工作的关键」 「堪」では「关键」を「重心」に作る。
81. 原文は「支使开谢开太」 「支使」は人に仕事をさせる、使役する、指図する。「支使」の後に「开」「走」などの補語がくることが多い。『儿女英雄伝』第40回：「他把那两个小丫头也支使开」（彼はその小間使い二人を外に出し）
82. 原文は「办事员」 「乡公所」で働いている正規の公務員。行政職員。
83. 原文は「乡长进城求医去了」 「乡长」は行政区域としての「乡」の長。郷長については既に注2「乡公所」でも触れたので繰り返さない。 王注：この言葉はとても重要である。ここで初めて郷長が出てくる。しかも郷長は「进城求医去了」（县城へ医者（の）の診察を受けに行った）とあるから病気らしいが、どんな病気なのかは述べられていない。
84. 原文は「有家有室」 「有家」は女性がとつぐこと、「有室」は男性が妻帯すること。『孟子・滕文公下』：「丈夫生而愿为之有室, 女子生而愿为之有家」（男の子が生まれると早くよい嫁をもたせたい、また女の子が生まれると早くよい夫を持たせたいと願う）。 王注：「有家」にはいろいろな意味がある。一つは父母の家があること、一つは自分に家があること。「有室」は妻がいること、結婚していることを指す。
85. 原文は「他却打了不少麻烦」 『四川方言詞典』では「打麻烦」を「da3=ma2fan2 找麻烦（面倒を引き起こす）」としている。 王注：「打麻烦」は四川方言であ

る。面倒なことに出くわすという意味である。

86. 原文は「他曾经两三次提议代他守班」 王注：この出来事はこの日の午後に起き、夜までの短い間に何度も夜警を替わってやると言っているのであるから、班長は非常に早くから「动心眼儿」（手だてを考える）していたものと見える。
87. 原文は「怕他熬不住牌瘾」 「熬不住」は我慢できないの意味。「牌瘾」はカルタ賭博癖。「瘾」は、悪癖、中毒を意味する。「烟瘾」（ニコチン中毒・阿片中毒）など。
88. 原文は「但他现在总算把谢开太打发走了」 「堪」では「总算」を「轻轻松松」に作るが、文脈からすれば「总算」の方がおさまりがよいように思われる。四川方言の「打发」にはいくつか特殊な意味があるが、ここでは一般的な「人をよそへ行かせる。立ち去らせる」の意味である。 王注：班長は谢开太を寝に行かせ、ついに彼の悪巧みを実現することが可能となったのである。
89. 原文は「为了周全」 王注：「周全」とは「不出娄子」（間違いを起こさない）、「不失误」（ミスを犯さない）という意味である。
90. 原文は「他做作地半掩了门」 「做作地」はわざとらしく、の意味。 王注：班長は後でこっそりと抜け出すために、谢开太のように門をしっかりと閉じてかんぬきを掛けることをしなかったのである。
91. 原文は「缓缓跟了进去」 王注：「慢腾腾地跟谢开太进去了」（ゆっくりと谢开太の後から中へ入っていった）ということである。
92. 原文は「那是间大神殿，正中的东岳大帝已经搬移开了，中梁上悬着一盏久已失灵的洋灯」 民国当時、多くの「乡公所」や「团防局」「保甲局」は会館に置かれていた。『安縣志』巻14「建置」に拠れば、作者の故郷安県でもいくつかの公的機関は廟、会館に置かれていたことがわかる。会館あるいは公所とは同郷出身者あるいは同業者の団体組織のことである。明末の戦災で四川は人口が激減し、清代になってから清朝政府は湖南、広東など十数省から多くの移民を四川に送り込んだ。その結果、四川の各地に主に外省人たちが自分たちの利益を守ろうとそれぞれのエスニックグループの会館を建てたため、一つの県城に数十もの会館が林立することとなり、安県もその例外ではなかったようである。前出の『安縣志』巻18「建置」に拠れば、安県全県には湖広会館、陝西会館、江西会館、広東会館、福建会館、貴州会館、黄州会館、川主廟など全部で四十七の会館があった。四川の各地の会館は廟の形式をとることが多く、例えば概ね南華宮が広東会館、真武宮、禹王宮が湖広会館、万寿宮が江西会館となっている。会館の建築は大殿、両

側の廂房、後廂房、戲台、観戯楼などから構成された壮大なつくりであり、館内には神像が祭られ、毎年定まった時期に祭祀が執り行われる。このような宗教的機能以外にも、成員間の相互補助など広範囲にわたる機能を有した会館であったが、清末民国初期になると、四川の会館は徐々に力を失い、地方当局によって財産を接収されるところも出てくる。また1930年代になると国民党は「修正人民団体組織方案」を公布し、各地の同郷会の合法化を推し進めていった。『四川民俗大典』pp96-98の「会館」を参照。この小説に登場する「郷公所」もおそらく「東岳大帝」像を祭る「大神殿」が附設されたどこかの会館であったのだろう。「東岳大帝」は東嶽（山東省泰山）の主神のことで、泰山府君とも呼ばれ、もともとは死後の世界を支配する泰山の長官に過ぎなかったが、唐代以降、政治的意図によってその権威は増大の一途をたどり、死後の靈魂だけでなく人間界をも支配する道教界の王者に祭り上げられた。澤田瑞穂「冥府とその神々」、石井昌子「道教の神々」等を参照。四川は中国でも道教信仰が盛んな地域であり、安県にももちろん東嶽廟はいくつかあった。そのうち毛家区の東嶽廟には民国22年当時、民丁訓練處が置かれており、また睢水区の東嶽廟は咸豊年間に創建されたものであるが、当時は小学校が設けられていたと言う。「盞」は明かりの数を数える量詞。「失灵」は「故障する、役に立たなくなる」の意味であるが、ご本尊の東嶽大帝の塑像がなくなっていることから、「(廟の) 御利益 (靈驗) がもうなくなった」という意味を掛けているであろう。東嶽大帝像がなくなっていることについては、旧社会の信仰や因習が農村の経済状態の悪化、新文化運動の推進や国民党政府の政策などにより衰退しつつあることを暗示すると同時に、主人（做东儿的）である郷長不在の隠喩であるかもしれない。「洋灯」については「吳組綑《官官的補品》訳注」で少し触れたので省略する。

93. 原文は「兩廂皂隸之類的神像却还在」 王注：中国では建物の正殿の左右両側の棟を「兩廂」と言う。正殿は南向きに建てられることが多いから、「兩廂」は普通は「東廂」と「西廂」である。「皂隸」は「衙吏」（旧時、役所の下級官吏）、あるいは「办事員」（事務員）のことである。
94. 原文は「胖爷」 待考。 王注：大きな神像をこの土地の人は「胖爷」と呼んでいたようだが、これはもちろん通称であり、この神の正式な名前は「胖爷」ではない。
95. 原文は「神座下的一堆柴火正在熊熊地燃燒着」 「神座」は一般に位牌の意味であるが、ここでは、本殿の中で、神像や位牌などを並べるために一段高くなった

場所を指すのであろう。『安縣志』巻55「礼俗」に拠れば、安県には山が多く木が豊富であるため、薪を主たる燃料としている。

96. 原文は「班长在火堆边坐下来, 留心着后殿里的动静」 この文までは火の燃える擬声語「熊熊」を除けば、室内をビデオカメラで撮影しているかのように視覚的描写の連続であるが、「动静」という言葉の後から、聴覚の描写へとモードが切り替わり、読者もまた班長と一緒に息をひそめて谢开太のあくび、草鞋を脱ぐ音、そしてベッドの軋む音に耳をすませることになる。 王注：班長はたき火の傍らに座っているが、彼の心はたき火のところにはなく、後殿の動静だけを気に掛けている。なぜなら、彼は谢开太が寝入った後、娼婦のところへ行こうと思っていたからである。
97. 原文は「而当一个人搔着疥疮的时候, 任何幸福都很难引诱他的, 倒是尽情抓它一通快活得多」 王注：作者はここにこの文を挿入しているが、これは「疥疮」が痒くて痛くてつらいが搔くと気持ちいいという複雑な感覚を表している。
98. 原文は「蠢然一笑」 王注：「蠢」とは愚かしいという意味である。笑い方が見苦しく下品なことを「蠢然一笑」と言い、班長の文化レベルが低く、みっともなく笑っていることを形容している。では彼は何を笑っているのであろうか。自分の度胸のなさを笑っているのである。彼がすぐに行動を起こさなかったのは疲れて眠たかったこともあるが、ことを起こす度胸がなかったからである。
99. 原文は「提示」 暗示する。 王注：谢开太が何を「提示」したのかと言えば、「足枷をはめたのはおらじゃない」ということ、では誰がそうさせたのであろうか。
100. 原文は「她才又记起她今天触到的是怎样一种霉头」 王注：「触霉头」は「倒霉」の文語的な言い回しであり、よくない目にあうという意味である。ここから今日、彼女が出くわした出来事が何であったのかが語られはじめる。小説の書き方の技法でこれを「倒叙」と言う。
101. 原文は「而在那妇人的进攻当中, 几乎全街人都是帮手」 王注：この女性はずいぶん娼婦を叩いたり罵ったりしたに違いない。だからこれを「进攻」と表現している。
102. 原文は「那批神奇活现的流氓」 「堪」では「某些人物」に作る。四川を代表する秘密結社と言えば清末から民国期にかけて大きな影響を及ぼした「哥老会」があり、沙汀は叔父や妻の父が「哥老会」の幹部であったため、四川の作家の中では「哥老会」と関係が深いとされる。そのため、解放前に執筆された「堪」では「某些人物」とあいまいな書き方に止めたのかもしれない。沙汀と「袍哥」との

関係については中裕史「沙汀の妙味—小説の中の袍哥」が参考になる。「神气活现」は得意満面な様子、また尊大で傲慢な様子。

103. 原文は「熟人」 王注：彼女の知り合いというのであるから当然皆娼婦である。
104. 原文は「醋婆子」 焼き餅焼きの妻。 王注：「吃醋」（焼き餅を焼く）女性に対する「尖酸刻薄」（辛辣で手厳しい）で無礼な呼び方である。
105. 王注：この段（「在她的熟」～「看重它们」）は筱桂芬の心の動きを描写している。
106. 原文は「放声哭了」 王注：前のところでは「啜泣」（小さな声で泣く）だったのが、ここでは悲しくなってきたため大きな声を出して泣いている。
107. 原文は「搞出怪来」 「堪」では「入他妈哟」に作る。「他妈的」は「畜生！」くらいに訳されるが、省略のない原義は「我操你妈的戾」（おまえの母親を俺は犯したぞ）である。この言葉については、魯迅「论他妈的」及び大河内康德「中国語の悪態、罵語」（『中国語の諸相』所収）に詳しい。大河内はこの言葉が「おれはおまえの母親を犯してやるぞ！」という脅迫の意味に誤解されていることが多いが、これは宗族社会の世代意識から「おれがおまえの母親を犯しておまえができたのだ、おまえはおれの息子にすぎない」というのを少し荒っぽく言ったものであるとし、また「你妈的」が「他妈的」となる理由については“你”よりも“他”の方がおだやかなのである。“你”と“他”の交換は論理的にはおかしいが、いまいましさを言うには“他”である。面と向かって“操你妈的”はやはり激しい場面でないと使えないという」と説明している。 王注：「搞出怪来」は典型的な四川方言である。普通話に訳せば「真是奇怪」（本当におかしい、変だ）あるいは「真是奇怪得很」などになり、これはある出来事の発生が一個の人間の想像を超えるものであった時、それに対する憤りを表す言葉である。
108. 原文は「老子」 王注：自分のことを指して「老子」と言うのは四川方言の一つの表現方式である。四川方言はあまり言葉遣いが上品ではない。自分のことを自分で「老子」と言うことは、つまり「私は誰々の目上の人間である」あるいは「私は彼らの父親母親である」と言っていることであり、そうなると対話の相手は「目下」あるいは「子供」であるから私を尊重すべきだということになる。 按：ちなみに四川方言で相手を馬鹿にする第二人称の言い方は「龟儿」である。自分を相手の目上に位置づけて相対的に相手を貶める表現は世代間の上下関係が厳しい中国独特の風土に根ざしたものであろうか。『西遊記』では孫悟空がしばしばこの口吻を用いて相手を貶める。
109. 原文は「恼怒地抗声道」 「堪」ではもともと前出の「入他妈哟」という言葉を

彼女に吐かせているため「粗鲁地绝叫着」に作る。「抗声」は抗議するように大きな声を出すこと。

110. 原文は「而又害怕说失了格」 「失格」は『四川方言词典』に拠れば、「si2=ge2 (动)说话,做事不得体」(話し方や仕事ぶりがきちんとしていない) いう意味である。 王注：四川方言である。馬鹿なことを言って教養のなさを露呈し、自ら人格を貶め、面子を失うことを懼れたのである。「格」は人格の「格」である。
111. 原文は「什么人叫你这两天跑来呵！」 王注：これは彼女を非難する言葉である。ちょうどこの二日間、この小さい鎮に問題が起きていたのである。
112. 原文は「这个怪得我么！」 王注：彼女は問題が起きていたことなど知る由もないのであるから「这个怪不了我」(これは私を責めることはできないわよ) と反駁するように言うのである。
113. 原文は「就说」 王注：四川方言である。「退一步说」(一步退いて言う、つまりたとえそうだったとしても) という意味である。
114. 原文は「眼泪淌」 涙が落ちること。
115. 原文は「抢着说」 「抢着」+動詞のかたちで「先を争って～～する」という意味になる。「抢着说」は相手の言葉を遮って口を挟むことである。
116. 原文は「骗老实人做啥呵！……」 「堪」では「骗晃晃做啥啊！」に作る。『四川方言词典』に拠れば「恍恍(晃晃)」は「傻瓜」(馬鹿)の意味であり、この「堪」の文が用例に挙げられている。あまり馴染みのない四川方言ということで、後で「老实人」に改められたのであろう。 王注：「自分は真面目なおとなしい人間であり、自分のような人間を騙してどうするんだ」、つまり「あんたが自分を騙すことはわかっている、私はあんたの言うことを信用しない」という意味である。ここで注意しなければならないのは、彼桂芬がその前で述べた「我总会记得的！」は、将来必ず恩に報いるだろうという意味であるのに対し、班長の言葉は「自分あんたが将来、恩に報いると言っているのは信じられない」、つまりこの意味は「今、あんたを放してやったらすぐに恩返しを欲しい」ということである。どのように恩返しをするのかについてはここでは直接語っていない。
117. 原文は「流腔流调」 王注：ならず者のように話すことである。「流腔」は「流氓」(ならず者)のような言葉、「流调」は「流氓」のような話し方の調子である。
118. 原文は「但却自命风流地同她说起来了」 王注：「自命风流」は自分で自分を「风流」(色事に通じている) であると思い、得意がる態度を言う。「自己洋洋得意地」の意味である。またここでは彼が語った内容を具体的に書かない「虚写」という

技法が用いられている。この場面で班長が話したのは非常に「下流」(下衆)で「丑陋」(読むに堪えない)言葉であるに違いなく、作者沙汀は書くことができなかったのである。

119. 原文は「合乎她的行业的态度」 王注：「彼女の商売にふさわしい態度」とは、「流里流气」(やくざっぽい、不良じみた)さまのことであろう。
120. 原文は「可能由此得到她所急需的食物, 温暖, 和好好地躺一躺」 王注：「由此」はキーポイントである。「此」が指すものは何か。班長との交換である。では何と何を交換するのか。彼女が班長の欲望、本能を満足させることで彼女自身は食べ物、温もりと休息を得るのである。
121. 原文は「凡事她都直截了当地答应了他, 而且说得比他露骨」 「堪」では「凡事她都直截了当地答应了他, 而且说得比他还要裸露, 正像他所求的不过是一碗便茶那样」に作っていた。筱桂芬がいかに簡単に班長の要求に応じたかを強調する句「正像他所求的不过是一碗便茶那样」(彼の要求したものが一杯のお茶くらいでしかないみたいに)は後に削られている。 王注：「凡事」とあるが、「凡什么事呢?」(およそどんなことであろうか?)。これも虚写である。おそらく班長は彼女に多くの要求を提示したのであろう。彼女はこれらの要求を「直截了当地」に、つまり全く保留無しに全面的に承諾したのである。しかも彼女の言い方は班長よりもより露骨であった。班長はおそらく含みのある、あいまいな言い方をしていたのであろう。「露骨」とは、骨が肉から飛び出すことで、つまり話し方に一点の曇りもなくはっきりとしているということである。なお、この段落(「她也立刻」～「比他露骨」)でも多く虚写の技法が用いられている。さて、ここでクラスみなさんに質問である。ここまで読む限りでは、班長への評価はどうであろうか。彼は善人であろうか、それとも悪人であろうか。また筱桂芬についてはどうであろうか。ここまで読んできた限りでは、作者は班長に対して批判的な態度をとっており、また筱桂芬に対しても同様である。実際には筱桂芬の方が班長よりは多少ましかもしれない。しかし、この「一个秋天晚上」と題する小説がただこういうことを書くだけであったら特に面白いところはない。だからこそ小説の後半部では現時点での見方がちょうど反対に変わることでなり、ここに小説の力量と意義が存する。(先取りして言えば)そこではこの数人のもう一つの面、つまり善良な一面が描き出されることになる。
122. 原文は「就这样」 王注：「就这样」とはどういうことか。前の文にあるように彼らの間で話がまとまったため、班長はすぐに彼女の足枷を外してやったのであ

- る。「摸进」という動作は「乡公所」の中が真っ暗であることを物語っている。
123. 原文は「他就要动身了,却又停了下来」 王注：班長が立ち止まったのは、彼女が逃げ出すのではないかと心配になったのと、足枷を外してやったら先ほどの約束を履行しないのではないかと心配になったからである。
124. 原文は「蠢然一笑」 この語は前出。班長の笑い方についてはこの他にも「傻笑」など似たような表現が繰り返し用いられる。またこの作品は全体的に多くの「笑」が出てくる不思議なテキストである。
125. 原文は「过桥抽板」 「过桥」は大胆に思い切った行動をとること。「抽板」はかけ板をとりはずすこと。転じて人を窮地に陥れる。 王注：「过桥抽板」には「过河拆桥」という言い方もある。
126. 原文は「败兴地」 「败兴」は興ざめる、白ける。 王注：もともと「兴致勃勃」（興味津々）で事を為そうとしていたのだが、ここで「败兴」という言葉が出てきたのに着目しなければならない。熱が冷め始めたのは、たき火の光のもとで「身材瘦小」「缩住一团」「可怜」という三つの修飾語で形容される筱桂芬を班長はしっかり見てしまったためである。
127. 原文は「我骗你做什么呵！」 王注：四川方言では「什么」ではなく「啥子」である。これは作者沙汀が全国の読者に読んでわかってもらえるようにこうしたのであろう。
128. 原文は「她的声调态度都有点不耐烦」 「不耐烦」は、うんざりする、面倒がるの意味。 王注：これは彼女が非常に個性的であることを物語っている。普通は、釈放されたあと相手のご機嫌をとるものであるが、彼女の声音と示す態度はみな「不耐烦」になっている。なぜ彼女は「不耐烦」なのか、それは後で語られている。
129. 原文は「老爷大爷」 「老爷」は旧時、庶民が役人に対して使った敬称。旦那様。また、使用人が主人に対して使った敬称。「大爷」は年配の男性に対する敬称。また、財産や権勢のある人の称呼。 王注：「老爷」は官人に対して用いられ、「大爷」は非官人に対して用いられる。ただ、役人に対しした時「大爷」と呼ぶ民衆もいる。ただこれらの称呼は四川と北京では異なるところがある。北京では年配の人を「大爷」と呼ぶが、四川では一般に「老大爷」と呼ぶ。そして四川で「大爷」と言えば、身分が比較的高い金持ちを指し、役人は普通「老爷」と呼ぶ。
130. 原文は「她也不张理的」 『四川方言词典』に拠れば「张理」は単に「张」とも言い、「zang1（动）理会；理睬。多用于否定句，……又说张理」（相手にする。取

り合う。否定文で多く用いられる」と説明されている。王注：ここでは「张理」がキーポイントである。四川では「张理」は（「张」と「理」とに）分けて別々に「也不张他」「也不理他」というように用いることもできるし、あわせて「也不张理他」という言い方もでき、意味は「答理」（返事をする、相手をする）ということである。しかし、ここでの意味はおそらく「也不接待」（もてなしをしない）、つまり娼婦として接待の仕事をしていないということであろう。

131. 原文は「强使」 自分に無理に～～させる。
132. 原文は「我说的实在话哩」 王注：「实在话」とは何を指しているのか。意味するところは「我骗你做什么？」（あんたを騙してどうするの）、つまり自分はさっきの取り決めをきちんと履行しますよということである。
133. 原文は「好嘛」 王注：既に班長には気持ちの変化が起きている。彼はこの前の筱桂芬の言葉「我说的实在话哩。顺便请你看有热茶没有，口渴死了！」に対して非常に簡単な一言「好嘛」で答えている。この「好嘛」は「お茶を彼女に持ってくる」という意味での「好嘛」であると同時に「我说的实在话哩」に対する答でもあり、「我明白了」（わかったよ）という意味でもある。
134. 原文は「没有回答她的挑逗」 「挑逗」は異性に対して気のあるそぶりを見せてじらすことである。王注：班長は彼女の「强使自己撒娇地一笑」については応えなかった。
135. 原文は「厨房」 『四川方言与普通話』などに拠れば四川方言では「灶房」、「灶屋」と言うのが一般的であるらしい。
136. 原文は「毛耸耸」 髪の毛が立っている様子の形容。「毛发耸然」と言えば普通は恐怖で髪が逆立つさまを言う。王注：彼女の髪は雨に濡れて乱れている。「毛耸耸」は櫛で梳かされていない髪の毛の形容である。
137. 原文は「尖削的鼻子」 王注：中国では鼻が尖っているのは人となり酷薄で薄命の相とされている。
138. 原文は「微瘪的嘴唇」 ややすぼんだ口。王注：「微瘪的嘴唇」も人を辛辣に見せる。
139. 原文は「黄脸」 王注：健康状態がよくないことを示している。四川方言に「黄皮寡瘦」（『四川方言詞典』ではこれを顔色が黄色く、飢えて痩せている形容とする）という言い方があるが、これは栄養不良のために皮膚がきたないのである。こここのところまで髪の毛、顔色、鼻、口など彼女の「五官」が描写され、彼女の器量がよくないことが誰の目にも明らかになる。

140. 原文は「她那蜷缩着的单薄的身体」 「蜷缩」は縮こまること。身をすくませること。前出の「缩住一团」とほぼ同じ意味であろう。「单薄」はひ弱い、痩せこけている様子の形容である。これも前のところで「身材瘦小」と既に読者に示されている。 王注：彼女はとても寒いために縮こまっているのである。「单薄的身体」とあるが、班長の目からみた娼婦は「性」の記号であり、彼女が太っているか痩せているかという問題ではなく、彼女の胸部が発達していないことを指している。
141. 原文は「假笑」 前出の「强使自己撒娇地」した作り笑いを指す。
142. 原文は「她的大不耐烦的口声」 「口声」は語気、口振り。 王注：班長は農民であるから、自分が彼女を解放してやった以上、彼女は当然彼に感謝すべきだと考えている。しかし意外なことに筱桂芬はうるさがるそぶりを見せ、非常に個性的である。
143. 原文は「他多少是失望了, 兴致慢慢开始降低下去」 「堪」ではただ「他有点失望了」に作る。 王注：作者は非常に頭がよく、いくつかの修飾語「有点」「多少」「慢慢」を使って（気持ちの萎えていく様子を巧みに）描写している。
144. 王注：この一段落（「班长走进」～「降低下去」）は班長の目に映った娼婦の様子が描かれている。ここで彼の気分は更に下降する。文中に出てくる三つの言葉「丧气」「失望」「降低」はいずれも下降する気持ちを表現するものである。前のところで「懒懒应声」とあり、彼はもうかなり興味を失ってきているが、ここではそれが更に「丧气」となり、四川方言で「丧气」は一般に「没意思了」（つまらない）「没什么情绪了」という意味である。そうなった理由は「因为她那」以下で説明されている。
145. 原文は「也许正为这个, 当他转来, 发现出那个所丁的时候」 王注：「这个」が指すものは何か。失望と薄れた興味である。「转」は四川方言で、普通話の「回」に相当する。「发现出」の「出」字も四川方言の言い方であり、普通話ならただ「发现」と言うだけである。
146. 原文は「他还能够沉得住气, 没有弄到张惶失措的地步」 「沉得住气」は気持ちを抑えられること。普通は否定形で用いられることが多い。「张惶失措」はあわてふためくこと。 王注：班長の欲望は既に萎え始めていたため、他の人間に気付いた時も平気でいられたのである。彼がまだ何もしていなかったからでもある。このところでは班長の心理状態と表情が描かれている。
147. 原文は「谢开太是抢先一步从卧室里走出来的」 「堪」は「谢开太」を「其他的伙

伴」(彼の同僚)に作っていた。 王注：謝開太は班長よりもほんの少しだけ早く出てきたのである。

148. 原文は「出岔子」 厄介な問題やいざこざが起きること。詳しくは「官官的補品」注157を参照。
149. 原文は「他自己的一肚皮闷气也不让他安宁」 「肚皮」は四川方言で腹部、おなかの意味。『四川方言与民俗』pp233「肚皮」に拠れば、この言葉は敦煌変文に早くも見え、『水滸伝』などでも用いられているが、現在の普通話には見えないと言う。 王注：ここでは謝開太にどんな「一肚皮闷气」があったのか語られていない。またなぜ「一肚皮闷气」なのか。四川方言では「一肚皮」と言えば非常にたくさんの意味であるから、たくさんの不快な事があったのである。「不让他安宁」とはつまり(謝開太はそのせいで)寝付かれなかったのである。
150. 原文は「他们两个不期然而然地打了个照面」 「照面」は偶然に(正面から顔と顔を向き合わせるかたちで)出会うこと。 王注：「不期然而然」の「然」は「这样」(このように)の意味であり、そうなることを望んでいなかったのにそうなってしまったことを言う。
151. 原文は「我还怕你出去向场合去了呢！」 ここの「向」は方向を示す介詞ではなく、動詞であると言う。『四川方言詞典』は「向」を「xiang4 (动) 守着别人做某事」(他の人と一緒に何かをすること)と説明し、この文を例文の一つに挙げる。 王注：「向」は「蹲」「守」のことである。「蹲」とは(その賭場に)立ち去らずにずっといること、「守」は長い時間そのそばに居続けることである。簡単に言えば「賭場に行く」ということである。 按：王師と『四川方言詞典』の解釈にはかなりのずれがあり、文の構造や文意から見て「向」を動詞とする解釈にも疑問が残る。待考。
152. 原文は「班长强笑着叹息说」 王注：「强笑」は無理に笑うこと。「叹息」は自分がすっからかんであることに慨嘆しているのである。
153. 原文は「刮痧」 これについては黄河文芸出版社排印本の脚注に「民间流行的一种简易治疗方法,以光边瓷器为工具,刮身上某部位,至皮肤发红为止如治疗中暑等」(民間で流行している手軽な治療方法で、端のつるつるしている磁器を道具にして体の一部分を皮膚が赤くなるまで擦るもので、暑気あたりなどを治療する)と説明されている。『四川民俗大典』pp187「刮痧」項では、水に浸した麻の糸を両手で持って擦るのが一般的で、糸がない場合は油をつけた銅銭を代わりに用い、それもない場合は自分の中指と人差し指を使うとする。またなぜ「刮痧」というか

については、長江以南に「沙虱虫」という虫がおり、この虫に咬まれた時に茅で患部を「刮」することから来ており、のちに暑気あたり、腹痛、頭痛などにもこの治療方法が用いられるようになったと言う。王注：中国の北方にも「刮痧」はあるが、南方ほど普及していない。南方は暑くむしむししているのので、「中暑」（暑気あたり）になる可能性が（北方よりも）高く、南方では「刮痧」が多く行われている。脚注では「以光边瓷器为工具」とあるが、実際は多くの場合、銅銭、日本の十円玉のように「光边」なものが使われ、一般にはそれに石油をつけて背中、主に脊椎骨の両側を百回程度かく。そうすると皮膚は紅から濃紅へ変色し、非常に気持ちがよくなる。また首などをかく場合もある。この治療にはだいたい一毛銭か数分銭くらいしかかからないが、自分にはそれだけのお金もないのだから「賭場には行けない」と班長は言いたいのである。

154. 原文は「你把她放下来的哇？」 王注：「你把她放下来的哇？」は普通話の「是你把她放下来的吗？」を簡略化した言い方であり、四川方言では「是～～吗？」とは言わない。
155. 原文は「用下巴指了筱桂芬」 王注：谢开太の動作は班長を驚かせた。なぜなら捕らえられている罪人を解放してやることは規定違反であるが、谢开太はその行為をなじらなかつたからである。
156. 原文は「班长装出厌烦的神情说，“她就那么不息气地哭啦！”」 王注：班長は自分のもともとの悪巧み、つまり取引をしようとしていたことをごまかそうとしたのである。そして取り繕った後で「彼女が泣きっぱなしでどうしようもなかった」と（彼女を解放してやった）理由をとってつけたのである。
157. 原文は「一个人是该多行点方便呵！」 王注：「一个人」というのは四川人の言い方であり、普通は（ただ）「人」（人間というものは）と言うところである。この文は感嘆文である。「行点方便」というのは、規定に違反して他の人のために便宜をはかるということで、ここでは主として班長がいわゆる罪人を解放してやったことを指し、便宜をはかってやるのは道理として当然のことだと言っている。
158. 原文は「事体」 ことがら。こと。『漢語方言大詞典』ではこれを徹語または呉語とする。
159. 原文は「分辩」 言い訳をする。弁解する。なお、王師はこの「分辩」を「怀疑」（疑いを抱く）ことであるとする。
160. 原文は「再说呢」 王注：谢开太もこれが規定違反であるということははっきりわかっており、だからこの「再说呢」は「退回一步」（一步退いても）の意味な

のである。

161. 原文は「这场上的事, 每样都认真得么？」 王注：「这场上」とは「公務上」（公務上）ということであり、「每样都认真得么？」は「是不能每样都很认真的」（すべてをお堅くきちんとやることはできない）という意味である。
162. 原文は「呵哟！」 王注：「呵哟」は感嘆の言葉である。「就是这样」（そういうこった！）ということである。
163. 原文は「非笑」 「非笑」は「嘲笑する、そしり笑う」の意味が一般的だが、ここでは「笑みを見せずに」の意味である。
164. 原文は「把饭递给那个已经被吵醒来的可怜的女性」 王注：この文の主語は班長である。谢开太の「一个人是该多行点方便呵！」という理解と「这场上的事, 每样都认真得么？」という見解によって班長の悪巧みは覆い隠された。班長は後ろから取ってきた残りご飯を筱桂芬に手渡すが、彼の表情は「闷着张脸」（むっつりと押し黙ったまま）である。それはなぜなのか。最初はもちろん不愉快だった筈である。その次は失望である。なぜなら彼の悪巧みを実現するのは難しくなったからである。
165. 原文は「蹊蹺」 怪しい、疑わしい。
166. 原文は「坦白」 正直である。率直である。
167. 原文は「打岔」 邪魔をする。かき乱す。
168. 王注：この段落（「把饭递给」～「他的好事」）は心理描写である。最初は班長は「老实人」つまり谢开太が彼の怪しい点に気付くのではないかと心配していたが、谢开太が気付かず、更には彼が罪人を解放してやった行為を理解し、賛同したため、谢开太の正直さと善良さにだんだんと気恥ずかしくなっていく。そして現在は「冒火」、つまり火花が飛び散るが如く、普通の「不高兴」（不愉快である）よりももっと程度がひどい（心理）状態になっている。班長は谢开太が自分がやろうとすることを結果的に妨げたために今度は「生气」（腹を立てた）しはじめたのである。ここでは「担心」から「自慚」、そして「冒火」と心の動きがはっきり現れている。
169. 原文は「只有筱桂芬说得上心情开畅」 「说得上」は「～～と言い得る、～とはっきり言える」の意味。 王注：二人の男性の心の動きはかなり微妙であるのに対し、女性の方はかえって「心情开畅」（気分が晴れ晴れとしている）である。先ほどまで彼女は寒さに震え、腹を空かせていたが、解放され食べ物をもらって元気が出てきたのである。そしてすぐに感謝の言葉を述べる。

170. 原文は「深感庆幸」 「庆幸」は思いがけず良い結果を得ることができて喜ぶこと。 王注：最悪の事態を避けることができたのでうれしくなり、感謝したのである。
171. 原文は「掏饭」 食事をする。 王注：四川方言である。箸でご飯をかき込むことである。
172. 原文は「“恐怕饭已经冷硬了！”」 「饭」は普通、米の飯。中国ではあまり冷たいご飯を食べることはしないので、谢开太はその点を気遣ってこう発言したのであろう。冷たいご飯にお湯をかけて漬け物と一緒に食べることはあるが、日本のようにお茶漬けにする習慣はないらしい。『中国生活誌』pp60参照。
173. 原文は「“那你就去帮她烧点开水好啦！”班长脱口而出地说」 「脱口而出」は何の考えもなしに言う、思わず口にするの意味。 王注：「脱口而出」には二つの含意がある。一つは谢开太が邪魔したことに對する怒りであり、「おまえがご飯が冷たくなっていると言うんだから自分で湯を沸かしに行けよ」と突っかかるように言う。もう一つは谢开太をこの場から追っ払おうとしたのである。「脱口而出」の一般的な意味は、一人の人間が何も考えずに言葉を発することである。
174. 原文は「他讲的是忤气话」 「忤气」は四川方言で、怒って意地になる、不貞腐れる、やけになるの意味。沙汀「替身」：「因为被搅扰而感到恼怒,于是他又忤气地紧接着说」 『漢語方言大詞典』では「忤」を動詞で「用言语顶撞」(口答えをする)と説明し、西南官話(四川)として沙汀の作品の用例を載せる。 王注：「忤」は「不顺从」(素直に従わない)「不和睦」(うち解けない)ということであり、谢开太の言うことに突っかったのである。しかし谢开太はこの班長の意固地になった発言を真剣に受け止めてしまう。
175. 原文は「引火柴」 「引火柴」は引火用の木片、竹片など。たき付け。「引柴」とも言う。方言。沙汀「烦恼」：「你晓得米卖好多钱一斗么？ 去捡背引火柴回来！」
176. 原文は「跑进厨房里烧水去了」 王注：四川人が「跑」というのは本当に「走る」のではなく「歩く」の意味である。例えば「你跑来干啥子？」というのは「你走来干什么？」という意味である。
177. 原文は「不久」 「堪」には「不久」の文字はなかった。 王注：前の部分と呼応しており、谢开太を追い払ったのに彼の動作が素早く、すぐに戻ってきたのである。
178. 原文は「瓦钵」 王注：お湯やお粥を盛る土製の食器である。四川人が食事に使

う器は大きい。頭がすっぽり隠れるほどの大きさの、洗面器のような器を以前に見たことがある。これ以外にも謝開太は三つの碗を持ってきたようであるから、おそらくこの「瓦鉢」には取っ手がついていたであろう。「土碗」は粗末な碗のことである。

179. 原文は「便是班长,也都忽然开朗,为了所丁的善良憨直而发笑了」 「憨直」は正直である、実直である。 王注：班長もここで急に元気づくが、それは彼も寒い時にお湯が欲しかったのと、本気ではない言葉を真に受けた謝開太の心根に打たれたためである。「憨直」とは考えが複雑でなく、言われた通りにするということで、反対語は「狡猾」であり、誰それが「狡猾」だと言うのは非常に悪い評価になる。それゆえ、「善良憨直」というのは一人の人間に対する比較的よい評価である。ただ時には「憨直」は「愚蠢」（愚直である）というニュアンスを持つこともあり、比較的よい評語ではあるが、最高の評語ではない。
180. 原文は「取笑」 王注：普通の「取笑」は侮蔑的なものであるが、ここでは諷刺の意味はなく、軽くからかう感じである。
181. 原文は「什么叫心好呵！」 王注：中国人は謙遜する時、このような言い方をするのを好む。例えば、「很漂亮啊！」（とてもきれいだね）と言われた時には、「什么叫漂亮啊！」と答えるが、それは「不漂亮」（きれいではありませんよ）という意味であり、ここでの意味は「心不好」という謙遜である。
182. 原文は「忸怩」 「官官的補品」注82を参照。
183. 原文は「他打了一碗开水递给班长」 王注：「打」は四川方言である。この動作は「瓦鉢」から「土碗」にお湯を注ぐのではなく、「土碗」を直接「瓦鉢」の中に入れてお湯を汲むことである。川で水を汲むのと同じである。
184. 原文は「柿饼脸」 「柿饼」はいわゆる干し柿のこと。柿の皮を剥いて平べったくし、干して乾燥させてからかめの中に入れ白い粉がふくの待って食用とする。謝開太の容貌については後のところで「宽阔的黄脸」（大きくて平べったい黄色い顔）という描写もあり、これが「柿饼脸」の特徴なのであろう。 王注：ここで謝開太の容貌を描写している。「柿饼脸」というのは、四川方言では人の容貌に対する非常に悪い評価である。干し柿のような顔と言うのは、鼻が顔に陥没しているかのように非常に低く、農村の長時間労働で日焼けしているために顔色が黒みがかった赤色をしている顔のことである。ちなみに一般的に四川には丸顔と四角顔の人が多いが、北方の人は細長い顔の人が多い。
185. 原文は「抓烂」 「抓」はつかむ、引っ搔くの意味。また四川方言には「抓扯」

(殴り合いをする)という言葉もある。「烂」は『四川方言詞典』に拠れば「nan 4 (形) 坏; 不好」であり、ここでは「烂」は動詞「抓」の後に置かれた補語でよくない結果が生じたことを表す。王注: 四川人はよく「抓烂」と言うが、これは「抓伤」ということである。ある物を不完全にし、壊れた部分ができるのを「抓烂」と言っている。

186. 原文は「沉吟」 考え込みながら重々しくつぶやく。 王注: 誰かに話しかけるのではなく、低い声で自問自答することである。
187. 原文は「烟棒」 四川方言。『四川方言詞典』には「yan1bang4 (名) 旱烟袋」とある。「旱烟袋」は「烟袋」とも言い、キセルを指す。四川や雲南の人は竹や金属でできた二尺くらいある円筒の水キセルを愛用する。 王注: 四川の男性は喫煙者が非常に多い。過去に四川の兵隊を「双枪兵」と言っていたが、「双枪」とは本当の歩兵銃と(銃に見える)キセルを持っていたからである。
188. 原文は「“我倒要问问你们呵!” 所丁触动了她的心事」 「触动」は記憶を呼び起こすこと。 王注: 谢开太の言葉に自分の受けた仕打ちを思い出したのである。この「问问」は「追问」(問い詰める)の「问」ではなく、「打听」(ちょっと尋ねる、普通は聞き手とは関わりのないことを尋ねる場合に用いられる)の意味である。
189. 原文は「滔滔不绝」 川の水が流れるように。立て板に水で。
190. 原文は「码头」 港町。貿易港。転じて四川では商業都市。 王注: 「场合」(場所、前出)、「世面」(世間)のことである。四川方言での「码头」は港の意味ではなく、ある人間がとりしきっている地盤のことを指す。
191. 原文は「歪人」 四川方言。『四川方言詞典』には「wailren2 (名) 横行霸道, 蛮不讲理的人」(権勢を笠に着て横暴な振る舞いをし、道理をわきまえない人間)とある。
192. 原文は「女光棍」 女性のごろつき。あばずれ女。まっとうな職業に就かず、不正な手段で生計を立てる女性。「光棍」は四川では特に哥老会の成員「袍哥」を指すこともある。
193. 原文は「引坏了她的什么人么」 「引坏」は誘惑して悪くすること。 王注: 「什么人」は虚写である。この「什么人」が指すのはその女性の「男人」に決まっているが、彼女は口にするのが恥ずかしかったのである。
194. 原文は「耸」 「ぐいと身をそらす、体を立てる」という意味であろう。『四川方言詞典』には「song3 (动)(往前或往上)推」(前、あるいは上に推す)とある

が、無理に四川方言の用法と解釈しなくてもよさそうである。 王注：彼女はこの土地に来たのは初めてであり、「引坏了她的什么人么」というのは事実ではない。それゆえ不愉快そうに、あたかのその女性が自分の前にいるかのように挑戦的な態度をとったのであり、この描写は非常に真に迫っている。

195. 原文は「她的大眼睛可濡湿了」 王注：大きく見開き、谢开太から視線を外さなかった彼女の目に涙が浮かんだのである。

196. 原文は「她重又记起了她的耻辱, 她所遭受的狠毒的待遇」 王注：彼女は解放され、食事をとったことで先ほど一旦は恥辱を忘れていたのだが、ここでまたそれを思い出してしまったのである。「狠毒」の「狠」は「恶狠狠」(凶暴なさま)、「毒」は「毒辣」(悪辣なさま)の意味である。

197. 原文は「花枝招展」 花咲く枝が風に揺れて美しいさま。転じて女性が美しく着飾ったさま。 王注：女性が道を歩く時の、色気がある様子を言う。美しく着飾り、化粧を施し、歩く時はたおやかな腰つきで歩き、農村の普通の女性とは異なる。これを「花枝招展」と言う。

198. 原文は「黑漆龙门」 「龙门」は、四合院建築の「大门」のことであり、屋根の上に二匹の龍が玉を争う彫刻がある。「龙门子」、「朝门」とも言う。一口に「龙门」と言っても四川では時代や地域、階層によって違いがあり、「双挑出檐式」、「牌坊门式」、「八字朝门式」、「二道龙门」の四種類の建築様式に分類することができる。『中国居住建筑簡史』pp143を参照。『四川方言詞典』にこの語彙は収められているが、おそらく四川以外の地域でも用いられていたであろう。沙汀はこの小説の前半部でも役所の門を繰り返し描写し、また「祖父的故事」でも祖父と彼らの家の「八字龙门」について書いており、彼の小説の中で門は物語の展開を促す特殊な役割を与えられているようである。 王注：「龙门」とはお金持ちの家が作る、上に龍の彫り物のある門のことである。「黑漆」は身分のある人の家だということを示している。

199. 原文は「一阵辱骂」 王注：「一阵」とあるから一言ではなく、罵りの言葉の連続である。四川方言には罵詈雑言は非常に多い。

200. 原文は「究竟」 結果。一部始終。委細。 王注：誰を罵っているのかということである。

201. 原文は「而她立刻大吃一惊」 彼女が何に驚いたのか、その対象を指示する以下の句が長く、特に「妇人」の語の前後に「一个身材肥壮, 像刷墙壁那样满脸脂粉的(妇人)」「电烫飞机头, 满手黄金戒指」という長い修飾語がある。李怡氏はいわ

ゆる欧化の叙述文の特徴として接続詞、副詞を使用し言葉の意味を限定すること、長いセンテンスを多用することなどを指摘し、沙汀、李劫人などは欧化した叙述文と土着の方言とをうまく結び合わせた作家だと述べている。李怡『現代四川文学的巴蜀文化阐释』pp251参照。 王注：自分が罵られていることに気付いて驚いたのである。

202. 原文は「身材肥壮」 四川方言で太っていることを形容する言葉に「肥董董」「肥嘟嘟」「肥滚滚」「肥鲁鲁」などがあるが、いずれも動物や家禽がよく太っていることを言う。 王注：人を「肥」と形容するのは非常に失礼であり、(この字を使うことによって) 桂芬がその女に悪い印象、反感を持ったことを示している。「壮」は「腰圆膀粗」(腰幅も肩幅も広い) ということである。四川人は一般に背が低く、一旦太り出すとものすごくなる。
203. 原文は「像刷墙壁那样满脸脂粉的妇人」 「堪」では「上唇生有一颗黑痣的妇人」に作る。金持ちの因業婆の形容としては「像刷墙壁那样满脸脂粉的」(塗り壁のように白粉を顔中に塗りたくった) という表現はややステレオタイプであり、むしろなぜ作者が最初に「上唇生有一颗黑痣的」(唇の上にあざ・ほくろのある) と書いたのか、気になるところである。 王注：この句は少し理解しにくい。いくつかの文字が省略されており、「像刷(过)墙壁那样(白的)满脸脂粉的妇人」と理解すればよい。この言葉は女性の顔が白粉だけであることを形容している。彼女の顔面上の白粉は「太多」(多すぎ)「太厚」(厚すぎ)「太浓」(濃すぎ)であり、ちょうど壁が漆喰で厚く塗られるのと同じである。
204. 原文は「向她奔走过来」 王注：この「奔走」の「走」は走るという意味である。中国語に「奔走相告」という成語があるが、これは良い知らせや悪い知らせを「边跑边说」(かけずり回って話す) という意味である。
205. 原文は「电烫飞机头」 「堪」では「飞机头,才烫了不久的」に作る。「电烫」は電気パーマ、「飞机头」は前髪をひさし形に固めた、いわゆるリーゼントヘアスタイル。王注：農村の女性の髪型には二種類ある。未婚の女性はおさを結う。既婚の女性髪は髪を頭頂部でまとめ、ネットをかける。40年代の農村はやはりまだ遅れていたが、この女性は既にモダンであり、電気のドライヤーでパーマをかけている。「飞机头」は頭の前から後ろにかけてずっと飛行機のようになめらかで光り輝いている髪型を「飞机头」というが、「モダンだがまともではない人」というもう一つの別の意味もある。
206. 原文は「满手黄金戒指」 「堪」では「带着满手黄货」に作る。「黄货」につい

ては待考。作者は「黄货」では読者がわかりにくかったのではと考えて「黄金戒指」としたのであろうか。王注：この女性は非常にお金持ちである。このものすごいルックスは当時の農村では非常に浮いた存在であったろう。

207. 原文は「还没辩解一句」 王注：この言葉には少し注意しないといけない。誰がまだ「辩解一句」しないのか。あの太ってがっしりした体格の婦人である。その女性は筱桂芬がどうして彼女の機嫌を損ねたのか一言の説明もなしに横面を張ったのである。
208. 原文は「此后便是七嘴八舌的责嚷」 「七嘴八舌」はたくさんの人が口を出し、議論紛々たるさま。「七嘴八张」とも言う。王注：周囲の人間みんなで娼婦を責め、罵ったのである。
209. 王注：この段落（「她又重记」～「的责嚷，……」）で「那时候」から回憶が始まる。小説ではこれを「倒叙」（前に戻って発端を叙述する）と言う。
210. 原文は「咦唉」 「咦」は感嘆詞で、おや、まあ、あら。四川方言。
211. 原文は「只有她才是人生父母养的妈？！」 王注：この「人生」の「生」は動詞としてとるべきであり、名詞の「人生」ではない。筱桂芬をぶった女性は娼婦を人間扱いしておらず、自分だけが人間であると考え、娼婦を見下していると不平の言葉を述べているのである。人と犬とは対比されることが多く、「あの人は人間が生んで人間が育てたが、私は犬が生んで犬が育てたのか？！」と言いたいのである。ここで言葉になっていない言葉は「我々はみな、人間が生んで育てた同じ人間であるのだから、彼女が自分にこんな仕打ちをすることは許されない」ということである。
212. 原文は「这怪你把皇历翻错了！」 「皇历」は中国で昔、使われていた暦。黄曆、通書、万年曆など様々な呼称がある。旧曆や節氣が記されている他、日選びについて迷信に近い情報が盛り込まれている。通書については数少ない専著『通書の世界』が詳しい。転じて古くなったしきたり、時代遅れのものを指すこともあるが、現在でも世界各地の唐人街で販売され、中国大陸でも既に復活しており、おそらく隠れたベストセラーになっているのではないだろうか。王注：民兵は彼女の言うことに同意し、みな人間が生み育てたのだと認めているが、ただ彼女が日にちを記憶違いして、やって来た時期がふさわしくないとやっている。「黄历」は20世紀初めまで使っていた暦のことであるが、過ぎ去った日々、という意味もある。
213. 原文は「烟烟」 四川方言。『四川方言詞典』に拠れば「yan1yan1（名）（～儿）」

烟(気体)」(煙)とある。王注：四川方言で煙を言う時、疊音で「烟烟」と言う。

214. 原文は「赶走一批」 「批」はまとまった数の物品や人間を数える量詞。王注：一群の何を追い払ったのか。谢开太は「厚道」(温厚)なのではっきりと「赶走一批妓女」とは言わなかった。筱桂芬が傷つくのをおそれ、婉曲な言い回しをしたのである。

215. 原文は「卖灰面碰见了刮大风」 四川方言。『四川方言詞典』では「卖灰面遇到旋头风」を慣用句・俗諺の項に挙げ、「旋头风, 旋风. ~来源于《封神演义》. 该书说姜子牙时运不济时, 做事总是倒霉, 卖面粉偏偏遇上刮旋风. 比喻运气不好」(「旋头风」はつむじ風のこと。この句は『封神演義』から来ている。『封神演義』に、姜子牙が運の向かない時期、何をやってもだめで、小麦粉を売ろうとした時に折悪しくつむじ風に吹かれた話があり、運の悪いことを喩えて言う)と説明する。なお、王師はこれを歇後語とし、出会ってはいけない二つの物が会えることから、「人財两空」(人も財産も無くしてしまう)「什么都没有了」(すべてがなくなってしまう)あるいは「冤家路窄」(仇にはよく会えるもの)の意味であるとする。この出来事に対する谢开太の見方は筱桂芬とは異なっており、筱桂芬は「委屈」(不当な仕打ちを受けたことによる不平不満)と感じ、なぜぶたれたのかわからないと言っているが、谢开太はやって来た時期がまずかったのでぶたれたのだと思っている。

216. 原文は「烟锅巴」 四川方言。水タバコのかす。すいがら。『四川方言詞典』では「yan1golba1 (名) 烟头」(タバコのすいがら)とある。

217. 原文は「班长忽然纵声大笑」 王注：班長は前の二人の会話を聞いていておかしくなったのである。「纵声」とは「放肆」(勝手気まま)に「大声」を出すことである。

218. 原文は「什么人叫你们要拖垮人家的老公呢？」 この文、「堪」では「什么人叫你们搞烂他的行头呢？」(誰が人のお道具をダメにしたんだ?)に作る。「行头」という言い方が少し露骨であるということで改めたのであろうか。「拖垮」は時間が延び延びになることで物事が達成できなくなったり、体を壊したりすること。巴金「关于第四病室」：「看来一个人生重病就可能拖垮一家」 「老公」は『四川方言詞典』に拠れば「nao3gong1 (名) 丈夫」(夫)とあり、四川方言である。

王注：このせりふに注意すること。これは郷長夫人を弁護したものである。あんたたち「这一类人」、つまり娼婦たちが「人家」つまり郷長夫人のダンナをダ

メにしてしまったからあんたをぶったんだというのが班長の解釈である。ここま
で三人がそれぞれ一言ずつ言うが、その言葉に三人の三者三様の立場と見方が表
れている。筱桂芬は郷長夫人をなじり、謝開太は客観的に事実をとらえて筱桂芬
を慰め、班長は郷長夫人をかばう言い方をする。

219. 原文は「嬉皮笑脸」 不真面目ににやにやした顔つき。

220. 原文は「“这只能怪自己呀！” 所丁不满地辩解说」 「堪」では「不满地辩解说」
を「认真的接着说」に作っており、「不满地辩解说」とする方が、謝開太の郷長
に対する批判姿勢が強まる。ここでの「自己」は郷長自身を指す。 王注：謝開
太は班長の言葉を聞き、先ほどとは異なるもう一つの見方を述べる。

221. 原文は「又不择嘴, 来一个捡一个」 「择嘴」は『四川方言词典』に拠れば「ce2
zui3 (动) 挑食」(食べ物のえり好みする)の意味。沙汀「选灾」：「啥年辰
呵！只要把肚皮塞得饱就算万幸！难道还择嘴么？」 王注：四川で「择嘴」と言
うと、「挑食」「偏食」(食べ物の好み偏っている)の意味であり、ここでは郷
長がとても好色であり、どんな娼婦でも拒絶しないことを表す。ここで「捡」(拾
う)というのは、「捡破烂」(屑を拾う)と言うのと同じで、相手を尊重していな
いことを表す。謝開太は先ほどは客観的にお日柄が悪かったと言っていたが、班
長が筱桂芬を攻撃するとすぐに態度を変えて、郷長を攻撃しはじめるのである。
短いたった四句の言葉であるが、含まれている内容は少なくない。

222. 原文は「于是作为躲闪, 她扒起饭来」 「躲闪」はよける、身をかかわすの意。

王注：彼女は二人の男性が話していることが自分の職業と関係あるために聞いて
恥ずかしくなり、顔が真っ赤になったため、それを隠そうとしたのである。

223. 原文は「这不是没由来的」 王注：「由来」は原因の意味である。 按：王師は
「由来」を四川方言であるとする。

224. 原文は「所谓不择嘴又是什么意思」 「堪」では「所谓不择嘴的意义安在」と作
っており、「安在」(いづくにかある)という文語的な言い回しを改めていること
がわかる。

225. 原文は「荒淫无度」 酒色におぼれきっていること。 王注：「荒淫」自体が悪
い言葉であるのに、それが「无度」、つまり限度がないということであるから「非
常荒淫」ということになる。

226. 原文は「乡长的身体越来越加坏了, 随常都在闹病」 「堪」では「乡长的性功能
败坏了」に作り、郷長の何が悪くなったのかをもっと直截的に描いていた。 王
注：この「加」の用法は四川独特のものであり、普通話なら単に「越来越坏了」

と言う。

227. 原文は「于是他的太太硬把她的忿怒转注在所有的流娼身上」 このテキストでは「忿怒」に作るが「忿怒」の誤植であろう。「硬」は副詞で「無理やりに、あくまで」の意味。『四川方言詞典』では「ngen4 (副) 就；偏(含“无论如何都…”的意思)」とするが、ここでは特に四川方言の用法と理解しなくてもよいであろう。王注：夫人は本来は夫がひどいのであるから彼を恨むべきであるが、郷長という立場にあるためそれができず、だから「硬」なのである。流しの娼婦に怒りをぶつけたのは彼女たちが夫の体をダメにしたからである。これが事の真相である。
228. 王注：この一段（「筱桂芬害」～「流娼身上…」）からこの「她掩饰地开始掏饭」まで含め、彼女の「退」あるいは「退让」が出ており、彼女はやはり自分の職業が悪いものであると思っていたのであろう。しかしこの後で方向転換が起きる。
229. 原文は「“你们拖垮人家的老公！”」 王注：「你们」は班長と谢开太を指すのではない。四川人は「你」の代わりに普通よく「谁」を使うものであるが、この意味は「根本不是我拖垮人家的老公」（私があの人のダンナをダメにしたんじゃない！）ということである。
230. 原文は「一下扬起颧骨突出的瘦脸」 王注：先ほどまでは恥ずかしがって、表情を隠そうとうつむいていたのに、興奮してきたために今は顔を上げている。
231. 原文は「“我先前来过啦？他是光脸吗？是麻子吗？……”」 王注：「我先前来过啦？」というのは「没有啦」（来たこともない）ということであり、「他是光脸吗？是麻子吗？」というのは「郷長が色白できれいな顔か、それとも疱疹の跡があるのかも知らないのに、どうしてあなたは私が他人の亭主をダメにしたとなじるのか」という意味であり、彼女の一連の言葉は班長に対する反抗であり、かつ言葉遣いが非常に激烈である。
232. 原文は「“他是开玩笑的！”」 王注：谢开太は温厚な性格で、常に双方の論争を穏やかなものにしようと気配りをしており、ここではすぐに「これは冗談で、意図的に筱桂芬を攻撃したのではない」と班長を弁護する。
233. 原文は「因为她的气恼淡淡一笑」 「堪」では「淡淡一笑」を「粲然一笑」（歯を見せて朗らかに笑う様）に作る。「淡淡」は四川方言で「無頓着に、うっかりと」の意味。『四川方言詞典』では「淡淡」を「dan4dan4 (副)分量不重,程度不深」（重みがない、程度が軽い）とする。王注：「因为」は四川方言であり、普通話の「因为」（なぜなら）という意味ではなく、「为」（～のために）という意

味である。彼女が怒っているのをみて、ちょっと笑い、雰囲気を少し軽くしようとしたのである。

234. 原文は「“啊,开玩笑的!”」 王注:彼女は谢开太の釈明にも聞く耳を持たない。冗談だと言うが、自分はこれを冗談とは受け止められないということである。ここで注意してもらいたいのは、筱桂芬は最初、外で足枷をはめられていた罪人であったが、今はそうしたことを忘れてしまっていることである。それはなぜかという、彼女は自分は罪を犯していないと思い、「捍卫自己的尊严」(自分の尊厳を守る)したかったからである。
235. 原文は「“你怕人家不是人么,什么玩笑都开?你自己又来试一试看”」 王注:「你怕」の「怕」は恐れるという意味ではなく、「难道」(副詞、まさか～～ではあるまい)という意味で「口头语」(口癖)である。「人家」は「我」を指す。「什么玩笑都开?」とは他の冗談はよくても、この手の冗談だけは言うてはいけないということである。「你自己又来试一试看」は非常に手厳しい。班長にそれならあなたが娼婦をやってみたら、と言っているのである。
236. 原文は「生涩」 (言葉や態度が) 不自然でぎこちないさま。またかたくなで融通の利かないな形容。沙汀「淘金记」19:「“那个酒店老板,忽又哭丧着脸,生涩地去找他收陈账来了”」
237. 原文は「脱气」 四川方言。『漢語方言大詞典』では「断断续续」(とぎれとぎれ)と説明し、西南官話(四川成都)として「一个秋天的晚上」のこの文を例に挙げている。沙汀「淘金记」16:「“连二表爸都这样讲”,她终于脱气的说,“我就没抓拿了”」 王注:「上气不接下气」(息が続かなくなる、息が切れる)の意味である。
238. 原文は「哪个甘愿来吃这一碗作孽饭么?」 「作孽」は罰当たりなことをする、罪業を残す、の意味。「造孽」にも作る。なお、四川方言には「可怜」(哀れである)の意味もある(『四川方言詞典』)。 王注:「甘愿」は「心甘情愿」(心から願う)「乐意」(喜んで、気持ちよく)という意味である。「吃～～飯」というのは中国人が職業を表す時の言い方で、例えば「吃教书飯」は教師をすること、「吃音乐飯」は演奏家で食べていくことである。ここで言いたいのは娼婦というのは誰もがやりたがらない、非常に苦痛な職業であるということであり、班長の冗談、班長はもちろん冗談のつもりでなく、冗談というのは谢开太の釈明であるが、この穏やかで雰囲気を和らげる釈明を筱桂芬は受け付けないことから、彼女の性格が非常に「泼辣」(大胆で押しが強い)であることがわかっていく。

239. 原文は「在这中间」 王注：「娼婦と民兵が話をしている間」という時間を指しているが、空間とも解釈できる。
240. 原文は「嘿嘿嘿蠢笑」 王注：娼婦に反抗されてのこの笑いは、彼に道理がないということを表している。
241. 原文は「认真地」 四川方言独特の用法である。『四川方言詞典』では「ren4zen 1 (副) 真正；当真」(本当に、果たして)とし、沙汀の「淘金記」からの文を例に挙げる。 王注：四川方言では「认真地」は「真正地」(本当に)の意味である。
242. 原文は「“哎呀！一句话就把你得罪了”」 「得罪」は相手の機嫌を損ねる、怒らせる。 王注：班長は一言釈明し、状況を打開しようとする。この言葉の意味は「不要这样嘛」(そんなに突っかかるなよ)、「不要往心里去」(そんなに気にするなよ)、「何必呢」(そこまですることないだろ)ということである。
243. 原文は「又害羞地一笑」 王注：(前の「嘿嘿嘿蠢笑」とは違い) 班長は娼婦に謝罪するのを恥ずかしいと思い、(一種の照れ隠しで) 笑ったのである。
244. 原文は「“得罪我们算什么呵！一生下地来就是贱货”」 「贱货」は安物の意味。転じて人を貶す罵詈雑言。くず、げすなやつ。『四川民俗大典』には「娼妓は社会の害悪として、昔からずっと蔑視されてきた。旧時、四川各地の家の規範、家法などの宗族の規定では子弟に女郎買いをすることを禁じており、一族にはみうちで娼妓になった者を追放したり、除籍したり、処刑する権利まであった」とあり、礼教社会の中でいかに娼婦が蔑まれてきたかが伺われる。 王注：班長の「“哎呀！一句话就把你得罪了”」という言葉はまた彼女の反発をうけ、彼女は班長の婉曲なお詫び、あるいは譲歩を断固受け付けようとしめない。彼女の言わんとするところは「就是得罪了,但是得罪我们没关系. 为什么呢?因为我们是贱货,而且是怎么个贱货呢?生下来的,命中注定的贱货」(確かに怒らせたけど、あたいたちを怒らせても平気よ。なぜならあたいたちはくず、しかも生まれつきのくずなんだから)ということであり、この言葉は非常に激しく、それゆえこの言葉が終わった後、三人は「无话可说」(言うことがない)で沈黙してしまうのである。「生下地来就是贱货」と言う言葉は自分を貶めることによって「以退为进」(先に後退することによって結果的に前進する)しようとしている。中国では儒教思想が指導的な地位を占めてきたと一般的には考えられており、儒教思想とは道徳を遵守する一種の生き方であり、人々はみな道徳を重んじなければならない。そのため儒家からみれば娼婦は非常に下賤なよくない人間であった。しかし20世紀以降、

中国の社会が徐々に近代化されてきたことによって、「笑貧不笑娼」という考え方が出てきた。人々が嘲笑するのは貧乏なことであり、娼婦となってお金をもうけても人々から嘲笑されることはない。それゆえ中国ではおかしいことに、一方では儒家思想により人々は道德の観点から見て「徳高望重」（徳望が高い）、「高貴」（高貴である）などと言うが、もう一方では経済的な見方があり、金銭から人を評価する。今、この筱桂芬を見るところ、彼女は美しく着飾って田舎町にやってくる、実際は決して自分を身分が低いなどとは思っていないに違いない。彼女にはそんなに儒家思想はなく、それより多くを占めるのは金銭至上主義の考え方である。だからこの「生下地来就是贱货」は「反话」（反語）であろう。

按：李怡氏は四川籍の作家の作品に登場する女性たちについておそらく初めて本格的に分析を加えた研究者であろう。同氏の論に拠れば、小説の中の四川女性（主に労働者階級）で首をつったり身投げをして自殺する者はまれであり、それは現実の四川女性たちの何としてでも生きようとする強烈な生存意欲からきている。また礼教の面から見ると、四川文学の女性たちは作品の中で、男性をちっとも恐れず、貞操観念が希薄なように見える。このような四川文学の女性たちの「火辣」（当たりのきつさ）と「泼辣」（押しの強さ）はこれこそ四川の地域社会が生み出した四川女性「川妹子」の気質に他ならない。清朝以降、大量の移民が流入した四川では夫婦関係を基軸とした核家族が多かったために（例えば嘉慶年間の人口調査に拠ると毎戸平均が4.1人と少ない）、江南のように宗族組織が女性を抑圧せず、結婚や恋愛が比較的自由であったことが「川妹子」の気質を形成したのだと李氏は論を結んでいる。注198前掲李書pp79-91「火辣辣的川妹子」参照。

245. 原文は「翹」（細長いものを）垂直になるように立てる。

246. 原文は「呷」　すするように飲む。

247. 原文は「班长也没有再张声, 但却努力维持住瘦脸上的笑意, 这是解嘲」　「张声」は四川方言で、『四川方言詞典』に拠れば「zang1sen1（动）做声. 多用于否定句」（声を出す。多く否定文で用いられる）とある。「笑意」は笑み。「解嘲」は他人のあざけりに対して取り繕う、照れ隠しする。王注：「张声」は四川方言で「話をする」の意味である。班長は自分が公務員であり、筱桂芬は彼らが拘禁している人間であるにもかかわらず、その筱桂芬から批判され、メンツをつぶされたと思っている。「解嘲」とはある物事が起きた時それを軽く扱い、自分に対する攻撃や批判をあまり大したことではないように見せることである。班長の目から見れば、彼は筱桂芬の恩人である筈だが、今は彼女の仇のように思われ、彼

女から批判されており、尊厳を傷つけられて非常に不愉快な気持ちである。

248. 原文は「筱桂芬还会在露天里受冻的」 「堪」は「这个人还会在寒冷里扯露气的」に作る。「扯露气」はおそらく四川方言であろう。
249. 原文は「“呵,我告诉你哇!”他忽然想起地说」 王注:「“呵,我告诉你哇!”」は、班長がこれから権力を行使することを彼女にはっきり知らせめようとしている。班長は自然に思い出した風を装い、報復や不興からこの要求を出したのではないように振る舞う。
250. 原文は「“五更锣响你就要转去呵!”」 この「五更」は特に第五更を指す。夜明け時。旧時、漏刻で時間を計測し、日没から日の出までを初更から五更まで五等分していた。一更はほぼ二時間。五夜とも言う。「锣」はドラ。銅鑼。 王注:「空が明るくなる頃、再び門前に戻れよ」ということである。
251. 原文は「他紧盯住她,但是他的恫吓并未引起任何显著的反响,他感到挫折了」 王注:班長は筱桂芬を脅したが、彼女には恐れや許しを乞うなどの反応が無く、脅しは何の効き目もなかったと思ったのである。
252. 原文は「口不应心」 言っていることと心の中で思っていることが違う。 王注:面倒をかけるなよというのは班長の本心ではない。
253. 原文は「以为是我们挖苦。闹出误会来更不大好!」 「耍」はたわむれる、からかうの意味。「挖苦」は嘲弄する、なぶる、冷やかすの意味。「我们」は班長と謝開太二人を指す。先ほどまで悪巧みを巡らしていた班長が、ここで「我们」と言い、更に「誤解を招くともっとまずい」と言っているのには笑える。 王注:班長は「以为是我们挖苦」と言っているが、ここではまさに今、「耍挖苦」をしているのである。この「挖苦」は一般の意味ではなく、あることに対して受けた怒りや恨みを何倍にもして仕返し、報復することであり、四川方言である。
254. 原文は「我们识好歹的!」 「识好歹」は善し悪しがわかる、分別があるという意味である。否定文で人の(道理のわからない)愚かさ加減を罵るのに使われることも多い。この作品の中で筱桂芬は一人称複数の代名詞「我们」をしばしば用いるが、ここでの「我们」はその少し前に出てきた「“得罪我们算什么呵!”」の「我们」と同じく、自分を指しているのであろう。この言葉には、たとえ世の中から蔑まれていても「あたいは分別はあるんだ」という彼女の人間としての尊厳が顔をのぞかせている。『成都方言語法研究』pp217では、成都方言で「我们」が主語、目的語の場合、話し手一人の「我」を表していることが多いと指摘している。 王注:「我们」は「我」の意味であり、これは一種の表現スタイルであ

る。「我们识好歹的！」全体の意味は、「わかっている」、「問題は起こさない」、「そのときになって誤解を招くようなことはしない」ということである。

255. 原文は「“本来是呀！”」 王注：班長は筱桂芬が「软话」（相手の意に従うようなへりくだった言葉）を言うのを聞いて、気分が少しよくなってこう言う。「本来是呀」とは「你本来就是不太懂事嘛！」（あんたはもともとあまりものがわかっていない）ということである。
256. 原文は「要不看见你太可怜了,睡在铺盖窝里哪一点不好呵！」 「铺盖」は掛け布団のこと。北方中国では大きな掛け布団を体の下で左右の縁があわさるよう筒型に折り、中に入って寝る。『中国生活誌』pp294参照。「哪一点不」の後に形容詞が置かれるのは一種の強調であろう。 王注：ここは「要不」の後に「是我」の二文字、「睡在」の前に「我自己」の三文字を補って、「もしあんたがかわいそうに外で泣いているのを目にしていなかったらば、自分は今頃とっくに寝ていたことだろう。どうして夜中まであんたと一緒にここに座っている羽目になったんだ?!」と解釈する。
257. 原文は「“这样这样,” 所丁忽然圆通地说」 「圆通」は性格が円満である、また融通無碍であるという意味。 王注：「这样这样」とは「好吧,这样办吧！」（そうですね、そうしましょう）ということである。「圆通地」は衝突が起きないよう仲直りさせるように、ということである。
258. 原文は「喏！」 相手の注意を喚起するために話の前に発する語。そら！ これ！ 王注：四川の人間は人にもものを渡す時に「喏」と言う。
259. 原文は「俨然」 王注：「俨然」は「庄重地」（重々しく）でありながら「装佯」（見栄を張ってきどっている）である様子を言う。班長は民兵の言葉でメンツを回復し、気分が前より更によくなったためにこのような態度をとるのである。
260. 原文は「班长原想舒舒服服抽几口去睡的,让那老实人自己站班,并把那五更锣响时候该做的差事摊派给他」 「站班」は立ち番すること。昔、長官が外出する時、部下の役人や召使いたちが低頭して手を垂らし侍立したことから。「差事」はもともとは臨時に委任された公務のこと。転じて仕事。「摊派」は（寄付や労役などを）割り当てること。これらの言葉はいずれも昔から用いられてきた官庁用語であろう。 王注：班長は夜が明ける頃にまた筱桂芬に足枷をはめて縛る不愉快な仕事を谢开太に押し付けようとした。みんな顔見知りになったのであるから、今度再び彼女に足枷をはめるのは楽しいことではなく、このよくない仕事を谢开太にやらせようとしたのである。

261. 原文は「坦白」 率直で私心のないさま。正直である。 王注：もともと班長の心は「坦白」ではなかった。彼には筱桂芬をものにしようという野心があったからである。
262. 原文は「什么鬼胎来烦扰他了」 「鬼胎」は腹黒い考え、後ろ暗い魂胆。「烦扰」は邪魔する、迷惑を掛ける。 王注：「鬼胎」とは谢开太を遠ざけてから悪いことをしようとする考えを指すが、今はそれも彼を悩ませることはなくなった。
263. 原文は「当他抽好了烟,又把烟棒传给筱桂芬的时候」 雲南などでは現在でも水キセルでタバコを回し吞みする光景がよく見られる。 王注：「又把烟棒传给筱桂芬」という言葉には要注意である。一般的に言って、四川では人に「敬烟」（タバコを勧める）するのは、「敬茶」（お茶を勧める）するのと同じで相手を尊重する意味がある。道理から言えば、班長はタバコを吸い終わった後、キセルを谢开太に手渡すべきであるが、彼の心が「坦白」になった上、先ほど筱桂芬が班長に頭を下げる態度を示したりしたため、彼女にキセルを渡し、タバコを吸うよう勧めたのである。この動作には二つの意味がある。一つは、タバコを勧めることで彼女に詫びを入れようとしたのである。もう一つの意味は、班長は何の欲望も持たなくなり、自分と筱桂芬の間には何の秘密もないことを谢开太に言いたかったのである。
264. 原文は「神清气爽」 王注：一服終わった後、気分が爽快になったのである。先ほど筱桂芬に一言二言、言われてからずっと不快な気分であったが、二人が彼に対してうやうやしい態度をとるため、彼の自尊心も満たされ、気分がよくなって眠気も消え失せたのである。
265. 王注：この一段（「班长原想」～「意睡觉了」）では作者が班長の心理状態を描写している。
266. 原文は「鸡爪」 爪のついたままの鶏の足。醤油と香料を加えて煮、酒の肴にすることもある。
267. 原文は「膘眼看一看」 「膘」は横目で見ると、ちらっと見る。
268. 原文は「班长的神情显得安闲而且满足」 王注：班長が自分の考えを示した一言「什么人叫你们要拖垮人家的老公呢？」で筱桂芬を怒らせ、彼女の班長への攻撃が始まって班長は不機嫌になり、最後に谢开太が二人の仲を取り持とうとする。この長い描写を経、ここに至って班長と筱桂芬との間のわだかまりが消えてなくなり、次の段落から新しい会話が始まる。
269. 原文は「“你怕二十岁出脚了吧？”所丁突然地问,当他审视了筱桂芬一会之后」

「审视」は、詳しく見る、じっくりと観察する。 王注：ここのところは句が転倒しており、「当他审视了筱桂芬一会之后, 所丁突然地问, “你怕二十岁出脚了吧?”」ということである。「二十岁出脚」は四川人の推定に拠ればだいたい22歳から24歳というところである。

270. 原文は「“哪里呵!”」 王注:「没有」「不对」(そうではない) という意味である。

271. 原文は「“哼!”」 動詞ではなく感嘆詞で、不満などを表す時に発する言葉。ふん!

272. 原文は「又像怀疑, 又像有点惊怪」 王注: ここでの「怀疑」とは「あんたは出鱈目を言って騙そうとしているんじゃないか」、「18を過ぎているだろう」という意味であり、次の「惊怪」とは「そんなことはあり得ない」、「あんたの様子からしてどうして18歳なんてことがあろうか」などと思ったことである。

273. 原文は「“的确的呢!” 接着她又辩解地说」 「堪」では「“的确的呢!” 这流氓认真的辩证了」に作り、また次行の「仿佛这个在她十分重大一样」は「堪」の「仿佛这个辩证于她十分重大一样」を改めたものである。娼婦が自分の年齢に対する疑いを晴らす行為を「辩证」という社会科学の用語で仰々しく表現するのはユーモラスだと思うのだが……。

274. 原文は「一个人吗, 岁数是多大就多大啦!」 王注: この「一个人吗」は一般的な意味の「一個人」ではなく、「人吗」(人間というのは)あるいは「做人吗」(人間として) という意味である。

275. 原文は「“你做几年生意了呢?” 班长打偏头望望她, 又在脉经上涂了点口水」
「打偏头」は少し顎をあげ、頭を斜めにした状態。「脉经」は経脈。「口水」は唾液の口語的な言い方。「堪」では「口沫」に作る。 王注: ここで班長が話をし出すが、班長と民兵の仕草態度が異なる点に注意してほしい。民兵は班長よりもずっと善良であり、それゆえ彼が年齢を尋ねる時も普通に年齢を質問しただけで他意はない。しかし班長はその後にすかさず娼婦を何年やっているんだという(非常に意地悪な)質問をしている。しかも彼は質問する時、顔を相手の方に向けず少し顔を斜めにしながら横目で見ているが、これは人を軽んじている仕草である。その後、彼は手が痒いので手のツボに唾液をこすりつけている。四川の農民は唾液に怪我や病気を治す効能があると信じており、例えば暑気あたりの時などは、「太阳穴」(こめかみのツボ)に唾液をつけるとよくなると思っている。こうした仕草は班長が依然として筱桂芬を見下していることを示している。 按: 前の

ところで谢开太が筱桂芬をじっくりと観察するように見ている（「审视」）のに対し、班長はちらっと見た（「瞟眼看一看」）だけであり、ここでも正視しようとしていない。それはおそらく既に彼が娼婦をじっくりと見たことがあるのと、水キセルを渡し、冷戦に手打ちをしたとは言え、まだ心の中に照れくさい気持ちがあつて目をあわせたくないからではないか。この部分は少し後に出てくる表現「班长更加专注地问, 停止了抓痒」と呼応しており、班長の表面的な態度の変化を表す描写であることには違いない。

276. 原文は「“明年春天就两年了” 她回答得很平淡」 王注：彼女は16歳の時からこの商売をやっていることになる。班長から何年この仕事をしているんだと聞かれたことにより、彼女は自分の過去、つらい歴史を思い起こし、この後気持ちがまた沈みはじめたのである。
277. 原文は「荷包」 細々したものを入れる小さな袋。きんちゃく。
278. 原文は「“老实说吧, 哪个甘愿来做这种事呵!”」 王注：筱桂芬は谢开太が自分の年齢を尋ねるとは思っておらず、また、何年この仕事をしてきたかという班長の質問は更に予想外のことであり、彼女はまた人々から尋問される、受動的な低い立場に置かれる。そのために彼女はこのように自己弁護しなければならないのである。
279. 原文は「幽幽地」 声がかすかで弱々しいさま。
280. 原文は「不怕你笑」 王注：この「笑」は普通の「笑い」はなく、嘲笑、笑い話にするということである。
281. 原文は「我们早前也还是吃得起碗饭的呢！」 「早前」は四川方言。『四川方言词典』では「zao3qian2 （名） 以前：这里」（以前。ここ）とある。王注：この「我们」は「我们家」を指す。当時の中国の農村では普通は糠や野菜を食べていたが、ここで「吃得起碗饭」というのは白米のご飯を食べることができたということであり、雑穀類を食べることではない。ある程度、ステイタスとお金のあった家だったのであろう。按：『安縣志』巻55「礼俗」に拠れば、安県の東南西三郷では米を生産し、米を主食としているのに対し、永安郷以北の山間部ではキビを生産し、キビを主食としていたらしい。
282. 原文は「自家有好几亩」 「亩」は土地の面積の単位。市畝。ムー。中国の一ムーは6.667アール。
283. 原文は「它妈」 王注：魯迅がかつて「国骂」と呼んだ下卑た言葉である。普通には人偏の「他」を使うが、ここでは動物を指す三人称代名詞を使っていることか

ら、彼女が地主を畜生と見なし、(普通の「他妈的」という言葉を使う場合よりももっと激しく) 憤っていたことを示している。(念のために言っておくと) その土地自体を罵っているのではなく、(その土地の所有者である) 地主を罵っているのである。

284. 原文は「一年要卖一两槽肥猪」 「槽」は飼い葉桶。特に豚の餌箱を「猪槽子」と言う。量詞としての「槽」は、窓の一区切りや建物、部屋のくぎりを数えるのが一般的であるが、『成都方言語法研究』pp185に拠れば、成都方言では豚、特に同じ餌箱の餌を食べている豚たちを数える量詞として用いられている。1990年代初頭の四川省豊県における豚の飼育状況については前掲蕭書pp37に詳しい記述がある。それに拠れば、現在の豊県では土地の細分化により牛の所有数が激減する一方で、豚は重要な換金手段として多くの家が飼育しており、年間数頭を出荷している。ちなみに四川省は中国最大の豚の産地であり、四川産の豚は「川豚」として全国に知られているらしい。豚の飼育周期は約八ヶ月で、雌豚は二年にわたり五回子豚を生み、出産後、飼い主の不注意で死なせたものと死産や凍死などの事故死を除き、約十頭前後が存命できるが、生まれた子豚を全部育てるのは餌の確保を考えると無理であるため、必要な頭数だけとっておいて余った豚は市場で売ってしまう。1993年末の相場では、一頭につき二百斤(一斤は0.5グラム)以下なら一斤につき1.5元、二百斤以上なら一斤が1.6元であり、一年で五頭売れば、飼料代を差し引いてもこれによる現金収入が年間800元程度になり、これは馮村にあるビール工場で働く人の年収の約三分の一から四分の一に相当する。 王注：農村で豚を飼育している時、(豚を数えるのに)「頭」ではなく、「槽」が使われる。「槽」には二つの意味があり、一つは子豚の時から大きくなるまで餌を与えて育てるのを「槽」と数え、「喂了一槽」などと言う。もう一つは一匹の雌豚が子豚を生み、そのたくさんの子豚を大きく育てるのを「槽」と言う。それゆえ普通、「一槽猪」と言うと、少なくとも三、四頭以上、十頭以内を指し、「一两槽肥猪」なら六、七頭にはなるから比較的多いと言えるであろう。
285. 原文は「她摊开两手」 王注：これは一種、遺憾の意を表している。前のところで「不怕你笑」とあったが、いま現在自分はこのひどい職業に就いているものの、もともとは金持ちであり、こんなところまで落ちぶれてしまったことをあなたは笑わないでしょう？と彼らが自分を理解し、同情し、これ以上嘲笑しないよう望んだのである。
286. 原文は「折下身子」 王注：「弯下腰」(腰をかがめる)の意味である。

287. 原文は「响」 音をたてる。大声を出す。
288. 原文は「杂种」 罵詈雑言。畜生などと日本語に訳されるが、「母親が淫乱で父親が誰かわからない子」という意味であり、相手の出自を動物になぞらえて当てこする言葉である。「他妈的」などもそうであるが、日本に比べると中国の罵詈雑言は罵りの対象となる人の母親を性的な面で侮辱、攻撃するものが多い。王注：罵詈雑言である。反対語は「純種」（純血）である。
289. 原文は「金剛钻」 王注：これは綽名である。四川の人間は人に綽名をつけるのが好きである。「金剛」は非常に硬い金剛石、ダイヤモンドのことであり、「金剛钻」はこの石を使って作った「钻头」（錐、ドリル）を指す。中国には「没有金剛钻, 不能揽瓷器活」という言葉があり、お碗などが割れた時、この「金剛钻」を使っていくつか穴を空け、固定用の鋼線で割れた個所を修繕する。それゆえ、「金剛钻」は非常に「硬」な「钻头」である。このことからこの人物には二つの特徴があることがわかる。一つは彼が「硬」、つまり「厉害」（恐ろしい）であること、二つ目は彼が「貪」（貪欲）、つまり「无孔不入」（隙さえあればどこでもつけ込む）で「有利可图」（ぼろ儲けができる）であれば入り込んでいき、美味しいところを自分で持っていってしまうような人間であることである。
290. 原文は「整惨」 「整」は動詞で四川方言。『四川方言詞典』に「zen3 （动）搞；弄」（やる、する）とある。「惨」は程度補語でやはり四川方言。『四川方言与普通话』では「②很惨，苦」（酷い、度を過ぎている）とする。「堪」では「振惨」に作る。
291. 原文は「她欠起身」 「欠身」は座っている状態から立ち上がるために体を前にかがめること。「欠身」は普通は他人に敬意を表するために行われることが多いが、ここではもちろんそうではない。
292. 原文は「联保主任」 保長聯合の主任。国民党政府は民国21年（1932）8月に「鄂豫皖三省剿匪總司令部施行保甲訓令」及び「剿匪区内各県編查保甲戸口条例」を公布し、湖北、河南、安徽の三省に保甲組織を編成しはじめる。保甲組織は「剿匪区内各県編查保甲戸口条例」の規定に基づいて、戸を単位として「戸長」を置き、十戸を甲として「甲長」を置き、十甲を保として「保長」を置いた。また一郷一鎮の中で戸数が多く二保以上編成できるところには保長聯合辦公處を設け、県長または区公所が保長の中から一人を主任に任命し、書記を一人か二人を置くことになっていた。保甲組織は同一組織内の各戸に相互監視と相互告発を義務づけ、不正を見逃した場合には連帯責任を負わせた他、労役の割り当てや壮丁徴用

なども保甲組織を通じて行われた。保甲制は宋代に早くもその原型が出来上がっており、清代でも広く行われ、民国初期には廃止されていたものであるが、国民党は革命根拠地を制圧するためにこれを復活させ、民国23年（1934）以降は全国でも施行されるようになった。注2前掲『中国官制大辞典』pp804「保甲」、孟昭華、王明寰『中国民政史稿』pp68を参照。

293. 原文は「蔑片」 王注：乾燥した竹きれ。これを使うと、火が常に消えず、したがってマッチを節約できる。
294. 原文は「不兴」 成都方言には他人を責めたり、警告や注意を喚起する場合に用いられる否定副詞「不兴」があり、その後の動作行為がまだ発生していないことを示す。その動作行為は通常、主観的にコントロールできるものが多い。また、これを否定副詞「不」に「时兴、流行」（はやる）の意味を持つ動詞「興」がくつついた語とも解釈することも可能である。『成都方言語法研究』pp312を参照。
295. 原文は「但她并不立刻抽烟」 王注：彼女は完全に過去の思い出の中に浸っており、竹きれが燃えだし、いつでもタバコに火をつけられる状態になってもすぐには火をつけなかったのである。
296. 原文は「那是才把联保主任改成长的时候」 「堪」にはこの句はなく、後から書き加えられたものであるが、この作品の時代背景を知る数少ない貴重な手がかりである。注44でも少し述べたが、1938年10月から四川、湖南など五つの省で「新県制」が実験的に施行され、翌39年9月には国民政府が「県各級組織綱要」を公布して新県制を本格的に施行する。1991年版『安県志』pp56、509に拠れば、安県で新県制が施行され「联保主任」が「乡长」に改められたのはそのさらに翌年の1940年のことである。
297. 原文は「等到儿子受训回来,他就把乡长交给儿子当了」 「受训」は訓練を受けること。沙汀「联保主任的消遣」で、主人公は成都へ行って三ヶ月の訓練を受けただけですぐに聯保主任となっている。規定によると郷長は選挙によって選ばれることになっているが、現実はそうではなかったらしい。注2前掲『支那問題辞典』pp476-477に拠れば、単姓村落の場合は多く人徳や経済力を兼ねそろえた有力者が自然にそのポストに就き、また複姓村落では第一流の人物は郷長になることを好まず、むしろ不名誉とさえし、村の中産階級で格別メンツを重んずる必要もない者が郷長に指定されるらしい。選ばれた郷長は県長と区長の承認を受けなければならないにせよ、この郷長が町の有力な一族の出であれば、自分の息子への禅譲など何ら問題にならなかったであろう。 王注：この「受训」は当時、国

民党が育成するに値すると判断した官吏を集めて訓練することである。彼の息子は国民党の正規軍で訓練を受けて戻ってきたと考えられる。そして息子が帰ってきたところで、自分は郷長をやめ、そのポストを息子に譲ったのである。こうして権力者はそのポストを代々子孫に伝えていき、一方、筱桂芬のような人間は落ちぶれて娼妓になるしかないのである。

298. 原文は「想通」 思い当たる。合点がいく。
299. 原文は「“你还有父母没有呢？”班长更加专注地问，停止了抓痒」 王注：前に班長が「娼婦を何年やっているのか？」と質問した時は、斜に彼女を眺め疥癬を搔いたり唾をつけたりしながら、「居高临下」（高いところから見下す）の態度、彼女の事など全く意にかけない態度を示しているが、ここではそれとは異なり、「父母はどうしているのか？」と彼女の家庭に関心を寄せている。しかも班長は疥癬を搔く手を止めており、既に彼女を自分と同等の人間と見なした上で質問をしている。
300. 原文は「天下老鴉一般黑」 文字通りの意味は「天下のカラスはみな同じく黒い」ということであるが、「世の中のことはみな似たり寄ったり」「天下の悪人はみな同じように腹黒い」というような貶す意味合いで用いられることが多い。 王注：北方中国では普通、「老鴉」ではなく「乌鸦」と言う。意味は白いカラスはいない、つまり世の中の金持ちはみな「悪」だと言っているのである。これは中国のある種の不平等な競争、「損不足、富有余」（困窮している者がもっと貧乏になり、富裕な者がもっと豊かになる）というやり方を指している。それゆえ貧者は恨みを抱くことになり、彼らがよく口にするのがこの言葉なのである。
301. 原文は「阿哥」 四川方言。にいさん。親族としての兄に対する呼び方。「阿」は『四川方言詞典』では「a1（綴）用在某些亲属名称的前面（川西部分地区）」とあり、弟は「阿兄」と言う。
302. 王注：この二つの段落（「“这就叫天”～「哥的遭际」）で、谢开太は二人の話を注意して聞いておらず、むしろ今、親しく語り合っているのは班長と娼婦の二人であり、谢开太は傍観者となっている。薪を取りに行き戻ってきた谢开太は「天下のカラスはみな同じく黒い」と言うが、この言葉に深く思うところがあるのであろう。彼は二人の話す具体的な内容をよく聞いてはいないが、個人的な心配事が谢开太の心の中に沸き上がってきていることは確かである。またここでは谢开太の表情が非常によく描かれている。「又像嘲讽，又像怨恨的神气」とあるが、「嘲讽」は「天下のカラスはみな黒い」のだからどうしようもないという気持ちであ

り、しかしながら腹が立つので「怨恨」なのである。

303. 原文は「“怎么！你们那里不兴出钱买么？”他吃惊地问，忘记了添柴。“出过两次钱呵！”筱桂芬沉痛地说，“结果还是抓了！……”」前にも述べたように、お金を払って徴兵を逃れることは可能であった。注44前掲山本論文pp173に拠れば、緩役金一人200元（ちなみに当時県政府科長の月給が140元）を払えば該保の徴集人数の五分の一以内の人数に限り兵役が免除されたい。王注：このところは省略されている描写であり、そのために私たちには父親がどのように死んだのか話が聞こえてこない。兄の境遇についても記されていないが、前後の文脈から判断するに兄は兵隊に取られたのであろう。前に筱桂芬は自分の家は昔裕福だったと言っていたから、お金があるのにお金を払わなかったのかと驚いたのである。ここで「买」とあるのはお金を払って自分自身を買い戻す、つまり兵役逃れをすることである。当時、国民党は一家に18歳以上の男性が二人いる場合には、一人が兵隊になることを要求していた。彼女の家はお金を払わなかった訳ではなく、二回もお金を出したのであり、この話が同じような境遇の班長の共感を誘う。
304. 原文は「她忍不住伸了懒腰，又连连呵欠着，她并未看淡他们的关切」「伸懒腰」は疲れた足腰を伸ばす、伸びをするの意味。「关切」は気遣い、配慮。「看淡」については待考。王注：足腰を伸ばしたり、あくびをするという動作は自分の話の聞き手に対して失礼な態度であり、それゆえ作者自身がこの後に「但她并未看淡他们的关切」という語を補っている。彼女は足腰を伸ばしたり、あくびをしたりしているものの、心の中で班長と民兵二人の彼女の家に対する気遣いを有難く思っている。
305. 原文は「“你们想吧，”」王注：この「想」とは「将心比心」、つまり「あなたの心で私の家の事情を推測し、思いやる」ということである。
306. 原文は「几乎一字一顿」王注：「顿」は停まるという意味であり、一言発するごとに間を取ると解することができる。彼女は「一字一顿」することで、話の内容の重要性を強調しようとしたのである。
307. 原文は「娃儿」『四川方言词典』に拠れば、「wa2er1（名）①孩子 ②指儿女」（①児童。②息子と娘）とある。王注：ここでの「娃儿」には二通り考えられる。一つは兄（嫁）の子供である。「全是娃儿」とあるのだから生んだ子供は少なくない。もう一つの可能性は筱桂芬の弟、彼女の母親が生んだ子供である。彼女は当時、まだ16歳であった。ただ昔の四川の農村では五、六人は子供をつくっていたので、おそらく前者の方であろう。

308. 原文は「妈动不得」「动不得」は動けないの意味。王注：母親がなぜ「动不得」なのか説明がないが、たぶん病気で体の調子が悪いのであろう。また父親が死んで精神的にがつくりきえているということも考えられる。
309. 原文は「嫂嫂又金枝玉叶样」「金枝玉叶」は高貴な家柄の出。皇室の係累。王注：「金枝玉叶」は最初は褒め言葉であったが、ここでは貶義語で、義姉の体の具合が悪く、役に立たないことを主に指している。
310. 原文は「结果吃的比屙的多！」「堪」では「结果窝的比吃的多！」に作る。『四川方言词典』に拠れば「屙」は「(疴, 窩) o1 (动) 排泄(大小便)」(排泄する、大小便をする)とある。「堪」の「结果窝的比吃的多！」は「窝的」(排泄物、つまり支出)が「吃的」(体に入るもの、つまり収入)よりも多いということで、家計が火の車であるという意味が見やすい。一方、現在のテキストであれば「吃的」(消費する人、受益者)が「屙的」(生産する人)よりも多いということでは家計が火の車であると解釈すべきであろう。四川方言では(これは中国の農村部ではみなおそらく同じであろうが)「吃的」の対義語は「屙的」であることが多く、俗諺には「吃饭在烧烟, 屙屎在歇气」「吃屎的反倒把屙屎的欺负了」などこの組み合わせが見られる。ところで以前は自作農としてそれなりの生活をしていた筱桂芬の家がどうして急にこんなに没落する羽目になったのであろうか。その原因は二つ考えられる。一つは彼女の説明にもあるように、父親の死と賄賂を使ったにも関わらず兄を兵隊に取られ男の働き手がいなくなったことによるものであり、これが没落の直接の引き金となったのであろう。『民国生活掠影』pp275「困境中的農民生計」は思藻「農村工人生活談」という論文を紹介し、それに拠れば民国期の一人の壮丁の土地耕作能力は12畝程度、八人の自作農の家で三人の壮丁がいる場合、40畝の田畑を耕して200石の収穫があり、そこから経費70石を引いた130石である程度衣食の足りた生活ができ、同じような小作農の家の場合経費が120石かかるため、所得は80石あまりとなり、食べていくのだけで精一杯であったという。また『安縣志』巻56「礼俗」に拠れば、民国以前だと小作農でも20から30畝を耕していれば一家を養っていくことができたが、民国以降は百余畝を耕す中農でも食事を欠かすことしばしばであったと言う。桂芬の家の場合、父親と兄、そして女性三人で自分の土地と借りた土地あわせて50畝程度を耕していたのだとすれば、上記の数字からみてそれなりの暮らしができていた筈である。しかし、父親が死に、兄も徴兵で不在、母や兄嫁もほとんど農作業ができなかったとすれば、桂芬一人が頑張って10畝耕したとしても推定所得は25石程度であり、

年間一人当たり10石程度の所得がないと最低限の生活ができないのであるから、女性と子供だけの一家が農業で生きていくことは現実的に無理であることがわかる。もう一つの間接的な原因としては、四川の農村が1930年代に入って相次ぐ戦争により荒廃しはじめたことが考えられる。前掲蕭書pp206-207には「長江流域における四川は、軍閥による戦乱の最多発地域であった。民国22年（1931）だけでも、大小様々な規模の戦争が33,400回も行われ、戦場と化した面積は60万平方キロにも及び、農村経済に与えた破壊が極めて大きいものであった。（中略）東部の長寿県に四十余万人を数えた農民のうち、半数以上が農業を維持できなくなってしまった。彼らには牛どころか、自分たちが食べる分の食糧や種さえ持っていなかった。（中略）戦争に絡んでの四川における農業生産破壊のもう一つの現われは、各地の田畑の荒廃ぶりであった。四川の食糧生産高大幅に減ってしまった。1930年まで米の輸出省であった同省は、1931年以後になると、3,000余万石も減反してしまい、やむなく湖南省の救援に頼る羽目となったのである〔烏廷玉・張染斌・陳玉峰1993：317-318〕」と記されている。また胡漢生『四川近代史事三考』pp109に引く『四川農村崩壊実録』も1923年から1933年の間に榮県で総人口三十六万人のうち三分の一が失業し、34万畝の田畑が失われたと伝える。こうして農業だけで食べていけなくなった人々は筱桂芬のように村を離れることになる。胡書pp110に引く1936年の『農情報告』に拠れば、四川省全六十四県、二百五十九万戸のうち、一家をあげて農村を離れた家が十五万戸、青年男女が農村を離れた家が約三十万戸の多きを数え、胡氏の分析に拠れば、農村を離れた若者のうち、47.1%は都会に生計を立てに行き（筱桂芬はこの群に属す）、27.1%は他郷に行って農作業に従事し、19.1%は都市の学校に進学した者（沙汀はこの群に属す）で、残りの6.7%がその他となっている。王注：この言葉は少しわかりにくい。普通、中国では「嘴比粮多」（食べる人間が作られた糧食よりも多い）という言い方をするが、ここでは表現がもっと俗っぽく、食べる物が少なく排泄物の方が多い、つまり糧食が足りないことを意味している。

311. 原文は「后来妈就让崔三逛把我带到绵阳去了,家伙吹绵阳纱厂里在招工人」「堪」では「后来妈就把我送到绵阳纱厂里去了,说找钱容易得很……」に作る。現在のテキストだと「崔三逛」なる人買いが彼女を綿陽の紡績工場に連れて行くと騙して連れだし、彼女を苦海に沈めたかのように書かれているが、「堪」では母親が彼女を綿陽に行かせたことになっており、彼女が綿陽の工場で働いているうちに身を持ち崩して娼婦になったのか、それとも母親と第三者の人買いとの間で話が

できており、母親に騙されて綿陽に行ったら無理やり客を取らされたのか、はっきりしない。ただ、作者が現行本でわざわざ新たに「崔三逛」という悪玉を作り出した意図を考えればおそらく後者であり、娘を売り飛ばした母親の道義的罪を転嫁するために第三者の人買いを登場させ、それはまた貧農VS貧農を抑圧する資本家階級及びその爪牙という対立の構図をより鮮明にするという効果をも生んでいる。「绵阳」は四川省北部に位置する地方都市。作者沙汀の出身地安県も現在は綿陽市の管轄下にある。この作品では地名はここを除いて一切出てこず、作品の舞台が中国のどこに設定されているのか、登場人物が四川方言を話していること以外、皆目見当がつかなかったが、ここで筱桂芬の出稼ぎ先が綿陽であることから、綿陽の市場圏の一小鎮ではないかと推測できる。『綿陽県志』巻3「食貨」の「工業」に拠れば、民国4年に少数の資本家が出資した製糸工場が建設され、製糸業が発展の緒についたが、その後日中戦争が始まり多くの工場が休業や解散に追い込まれたようである。王注：「崔三逛」は「金剛钻」のような綽名と同じである。彼の姓は「崔」でよく人を騙すことからこのような綽名がついたと思われるが、おそらく若い女性を街に連れて行って娼妓にする「人販子」（人買い）であろう。この男に綿陽の紡績工場で女工を募集していると騙され、母親は彼女を行かせたが、その結果どうなったのであろうか。後が省略されているが、彼女は娼妓になるしかなかったのだらうと想像できる。なぜなら彼女の実家では彼女が体を売ったお金で「養家活口」（一家を支える）するのを待ち望んでいたからである。

312. 原文は「腌菜」 漬け物（をつける）。
313. 原文は「但是还没有笑成功」 一部の「堪」のテキストでは「笑」字を衍字と考えたのか、あるいは単に誤植なのか、「但是还没有成功」に作っている。王注：谢开太はずっと彼女のことを心配してくれていたもので、彼女は微笑んで彼女の感激を表現しようとしたがうまくいかなかった。ここのところの表現はユニークで、普通は「她没笑出来」とでも言うところを、「成功」という「大詞」で笑いを修飾している。
314. 原文は「膝头」 「ひざがしら」を指す漢語の語彙の分布については岩田礼論文に詳しい考察があり、「ひざがしら」の広域的言語地図が示唆に富む。それに拠れば「膝头」という語形をとる地域はほぼ長江以南に限られる。
315. 原文は「“请你们让我多睡下吧”」 「堪」では「多」を「久」に作る。「久」はおそらく四川方言の言い方であり、一般的な「多」に改めたのであろう。

316. 原文は「梦呓」 寝言（を言う）。
317. 原文は「那两个乡下人不约而同地相视一笑」 王注：ここは重要である。「相视一笑」（顔を見合わせてちょっと笑った）のであるから、既に悪意はなくなっている。彼らはもう筱桂芬を自分たちの妹分、同情すべき一個の人間としてみており、以前のように高いところから彼女を見下ろすというような態度は消えている。
318. 原文は「并不是因为他不满意所丁的关切」 「堪」では「并非他不满意于所丁的关切」に作る。「满意」の対象となるものは、介詞「对」によって「满意」の前に示されるのが普通であるが、「堪」では文語の「于」を用いていた。作者は「非」を「不是」に改めるなど、この他にも「堪」の文語的な要素を意図的に修正しているので現在のテキストに「于」がないのは脱字ではないと思うが、「满意」の後に目的語がいきなり来る形には少し違和感を覚える。
319. 原文は「他也出了好几次钱,但他现在还被逼起来当班长！」 王注：班長も金を払ったにもかかわらず班長をやらされ、父は体の具合が悪く、母や妻も大した仕事はできないが、前線には送られなかったのであるから、筱桂芬の家に比べれば幸運であった。
320. 原文は「种小春」 春播きの作物を「大春」と呼ぶのに対し、旧暦10月の小春期に種をまく作物を「小春」と言う。前掲蕭書pp30-33では四川省豊県馮村の主な春まき作物と秋まき作物を表にして掲げている。それに拠ればこの地区で小春期に種まきをする主な作物は冬小麦、菜種、蚕豆である。
321. 原文は「老头子真活该受罪了。……」 「老头子」は四川方言で父親を指していると考えられる。『四川方言詞典』には「老头儿」語について「nao3tour1（名）父亲（一般不直接称呼本人）（父親：普通は当人に直接面と向かってこうは言わない）とある。「活该」はいわゆる罵り言葉の「活该」（ざまあみろ、自業自得だ）ではなく、「活」は副詞で「まったく、非常に」の意味であり、「该」はきっとそうに違いない、そうに決まっていると肯定の意を表す。また「受罪」は災難である、ひどい目に遭うの意味である。 王注：ここでは「活该」という表現はあまり適当ではない。おそらく多少冗談めかして言っているのであろうが、より正確に言えば「活活」（全く、すっかり）ということであり、その方が父親に対して敬意を払っていることになる。
322. 原文は「“喂！ 我们来挖对对福好吧？”」 「挖对对福」について、脚注は「紙牌的一种玩法」（カルタの遊び方の一種）とだけ記す。待考。 王注：班長は心の中で「家に帰りたい」と思っているが、口から出たのはそれとは全く別のこの

言葉であった。

323. 原文は「砸了砸嘴唇」 「堪」では「唆了唆嘴唇」に作る。「砸嘴」は「咂嘴」（舌打ちする、舌を鳴らす）のことであろう。
324. 原文は「“也要得嘛！”」 『四川方言词典』は「要得」について「yao4de2（动）行，可以」（よろしい）とする。「也」は口調を和らげる働きがここではある。カルタをやろうと班長に言われてからしばらく考え込み、舌打ちをして「闷声闷气」（口ごもって声がはっきりしないさま）で返事をしているのだから谢开太はあまりやりたくないのであろう。 王注：民兵は彼女の身の上と彼女が風邪を引かないかどうかはまだ気がかりで、あまり遊びたくはないのである。この「也」があると、「勉強勉強」（しぶしぶと、いやいやながら）というニュアンスが加わる。
325. 原文は「他们挖起对对福来，逐渐把什么都忘掉了：黑暗，午夜，以及那个黑袍红帽，下垂的下唇上粘满烟膏的胖爷……」 「堪」では「以及」を「与乎」に作る。「烟膏」は普通、ペースト状の未精製の阿片を言うが、ここでは油の煤が神像の下唇にこびりついてべとべとになったものをこう形容しているのであろう。 王注：「忘掉」は鍵になる言葉である。彼らは心配事をたくさん抱え、家にも多くの用事があり、自分自身も非常に不幸であるが、カルタをやっている時には何もかも忘れていた。忘れたのは何であろうか。彼らは暗闇を忘れ、真夜中であることを忘れ、神像を忘れ、そして次第に人生の煩悩を忘れていったのである。
326. 原文は「只在洗牌的时候」 「堪」では「只于」に作る。「洗牌」はカルタ、トランプでゲームに一区切りついてカードを新たに切ること。また麻雀で一局終わったあと牌をかきまぜること。
327. 原文は「两个人总要抽空瞄一眼筱桂芬」 王注：彼らはカードをやりながら何もかも忘れていくが、筱桂芬のことだけは忘れず、彼女が風邪を引かないよう絶えず火に気を配っている。この秋の夜に起きた出来事は、最初、班長が邪念を抱くことから始まるが、最後の一文で班長は筱桂芬のことを気遣い、すべてを忘れた中で唯一彼女のことは忘れておらず、これは前半部から結末に至るまでの最大の転換点と言えるであろう。この転換点は人性の真面目、つまり善良な一面の表れに他ならない。

最後にこの作品について、登場人物像、芸術的文学表現、芸術の風格という三つの芸術的特徴から分析し、テキスト改変の問題とあわせて簡単に振り返ってみることにしたい。

1) 登場人物像

この作品は「一个秋天晚上」という時間を示した標題になっているが、主に描いているのはこの時間の中で起きた出来事、特に三人の間に起きた出来事である。「一个秋天晚上」という題は、実は物語の末尾になってわかることであるが、空の暗さが人間性の暗さを象徴しており、明け方になって空が白みはじめた時に、人間性が徐々に戻ってよくなっていくことを強調している。さて、第一のポイント、人物形象から分析に入ることにするが、この小説で直接描かれる人物は三人で、一人は筱桂芬、一人は班長陳耀東、一人は正直者謝開太である。この三人は「灰色人物」(灰色の人物)と言える。灰色は中国では中間的な色彩であり、一般に英雄は赤色や明るい色、悪人は黒色で形容されることが多いが、この三人はその中間の灰色の人物である。途中でも質問したが、この三人は登場した時から非常にイメージが悪い。筱桂芬は登場してきた時、娼婦であるということだけでなく、足枷をはめられたり、見せしめにされたりして惨めさの極みにあったと言える。また陳耀東は酒を飲んだ後、彼女を犯そうと目論んでおり、心の中にやましい点がある。ただ謝開太一人が正直者で、何も変な考えがなく、比較的明るい色彩の人間である。彼ら三人は最初からみな社会の最下層に身を置く存在であり、しかも行い及び境遇が非常に悪い。しかしこの小説で主として描かれる筱桂芬と陳耀東はその点を全く自覚しておらず、これを「人間性の喪失」あるいは「人間性の隠蔽」と呼びたい。しかし、彼ら是对話を通じて次第に自覚しはじめる。拘禁されている筱桂芬であろうと彼女を見張る立場の陳耀東であろうと、彼らはみな社会の最下層の人間であり、いやだからこそ彼らは、社会的要因や戦争が彼らを貧困に追いやり、人間性を喪失させていることに気づき、自分たち貧乏人に共通する命運を見出し、相通じる言葉を共有するようになっていく。彼らは以前は自分たちの悲惨な状況について無自覚であったが、それを自覚することで次第に善良になっていく。これは「人間性の回帰」ととらえることができる。しかし夜が完全に明ければおそらく彼らはまた悪い人間に戻ってしまうであろう。翌日、たぶん筱桂芬は袋を受け取って他の町に行きまた春をひさぐであろうし、班長は彼の権利を行使し続けることであろう。これは「人間性の回帰」が一度で完了するとは限らないからであり、作者はこの小説の中で人間の嘆かわしい、憐れむべき点を描ききったと言えるであろう。

この小説の一つの優れた点は、間接的に何人かの人物をうまく描き出していることであり、主として郷長、郷長夫人、観客や筱桂芬を縛り上げた取り巻きの連中という三タイプの人間が描かれている。郷長は小説では悪玉として描かれている。彼は三つの点で大きな問題がある。政治的にみると、彼は選挙に抛らずに自分の権利を息子に

譲り渡しており、中国ではこれは非合法であり、政治上の罪を犯していると言えよう。経済的に見ると、郷長は多くの壮丁費や賄賂を取っている。生活の面でも墮落しきっており、女性をもてあそんだ結果、病気に罹っている。沙汀は小説の中でこの郷長のような地方行政機構の末端に位置しながら実権を握っている官吏たちの横暴を描くことに執念を燃やしている。注201前掲李書pp58に拠れば、沙汀の小説では上は県長から下は地方収支所の会計に至るまで全七十篇のうち五十一篇にこうした地方社会の実力派が描き込まれていると言う。沙汀は最下級の官吏である郷長の悪い部分を描くことで、県長、市長、省長たちがいかに悪いかを人々に想像させ、中国の官僚機構の悪い面を描き出そうとしたのであろう。

郷長夫人については二個所に描写がある。一個所目では夫人がまるで郷長のようにみんなを動かしているさまを述べている。二個所目では彼女の様子が非常に生き生きと描かれている。数語の描写でしかないが、彼女が太っていることから、郷長がいかに民衆の膏血を搾り取っているかがわかる。彼女は塗り壁のように白粉をつけているが、当時、そんな化粧をするのは上海のような都会の女性か娼婦だけであり、こんな田舎でそんな化粧をしていることから彼女の生活がいかに快適なものであるか想像がつこう。しかも彼女は「飞机头」の髪型をするなどモダンであり、手にはたくさんの貴金属をつけているので民衆から多くの金を搾り取っているのは間違いない。また同時に彼女の生活がいかに寂しいものであるかも伺える。彼女は自分の財産を身につけることによって自分の価値を示すことしかできないのである。また、彼女は非常に凶暴な性格であり、街中の人々が彼女の言いつけに唯々諾々と従っていることから、他人を自分の意に従わせる力を持っていることもわかる。言葉は少ないにも関わらず、郷長夫人の描かれ方は「活灵活现」（目の前に見えるよう）である。特に彼女が筱桂芬の横面を張った素早さは筱桂芬も察知できなかったほどであり、当然我々読者は予期できた筈もない。

最後は傍観者と夫人の取り巻き連中（ごろつきども）である。彼らの描写は非常にシンプルであるが、ここから郷長と土地のやくざ者たちが同じ穴の貉であることがわかる。傍観者も取り巻き連中と大して変わらない。郷長、傍観者、取り巻き連中の描写を通じて、善良な筱桂芬たち三人の苦しみに満ちた生き様が浮かび上がる。彼らは暗黒の世界で善人として生きていたのであり、彼らが落ちぶれ、墮落し、悪に染まるのは必然であった。

この作品の光の部分が三人の主人公であるとすれば、影の部分が郷長・郷長夫人、彼らの取り巻きや観客であり、光があつてこそ影があるように、彼らは直接、物語に

は登場せず、三人の登場人物の回想によってのみその姿を浮かび上がらせるだけである。しかし現実の社会では三人は光ではなく影の存在であり、郷長たちこそが光であり、ある秋の夜という場が彼らの立場をたまたま「反転」させただけに過ぎない。この小説を読了した時、読者が「人間性の回帰」に心を潤されると同時に、何か重苦しいやるせなさを感じるのはこうした厳しい現実がその背景にあるからではないだろうか。

2) 芸術的文学表現

沙汀の文学表現には三つの特徴があると考えられる。一つは方言の運用である。李怡に拠れば、最初に四川方言を取り込んだ文学作品は、1912年から1918年にかけて書かれた李劫人の作品群であるという（注201前掲李書pp233-235）。その後、1930年代に入って四川方言を用いる作家が陸続と登場したが、その中でも代表的な存在が沙汀であり、彼の小説にはほとんどみな四川方言の口語表現が詰まっている。これは沙汀の小説の成功した一面であり、地方の特色に富んだ言葉で書くことで小説に味わいが出たが、同時にまたこれは彼の失敗した点でもある。同じ四川籍の作家である郭沫若や巴金は普通話で作品を書いたのでどの地方の人々が読んでも理解できたのである。しかし、沙汀の小説に出てくる方言を多くの人々は理解できず、次第にみな彼の小説を読まなくなったのである。それゆえこれが中国において沙汀の小説があまり影響力を持たない原因の一つにもなっている。二つ目は情景描写である。沙汀の情景描写は単純ではなく、人物の心情と時間、空間の雰囲気結びつけて描き出すことに長けている。例えば冒頭二段落の情景描写は「冷僻」「昏暗」「困人的寒气」という時代の雰囲気を描き出している。この段落の後にはほとんど情景描写がなく、最後のところに「黑暗, 午夜, 以及那个黑袍红帽, 下垂的下唇上粘满烟膏的胖爷」と少し描写があるだけであるが、ここでも「一个秋天晚上」という題で始まっているように、夜という時間を示しているとともに、社会が暗黒状態であることを物語っている。三つ目は人物の対話である。人物の対話はただ対話のために対話しているのではなく、人物の心理を描き出している。いくつかの対話の中で優れていると思われるのは、班長が商品として扱われる女性と交渉するのに、どのように自分の原始的欲望を伝えてよいかわからなくてとまどい、またおかしいことを言って馬鹿にされるのを恐れながら筱桂芬とあれこれやりとりをする対話の部分である。もう一つは三人がたき火を囲んで話を始めるかなり長いやりとりのある部分で、これについては既にある程度この講義で詳しく分析したが、三人の心理の比較的大きな変化が描かれている。もう一つは班長が「何年この商売をやっているんだ」と尋ねる文から始まる対話で、最初、班長は高い立場か

ら彼女を見下しているように見えるが、後の方になって「天下のカラスはみな同じく黒い」という言葉から自分たちが同じ運命にあることに気付き、態度が穏やかになる。この数ページはみな対話によって構成されており、ここに沙汀の魅力がある。彼は対話を通じて人物の性格を巧みに描き出すことができるのである。

3) 芸術の風格

簡単にまとめるとすれば、次の二つの風格が考えられる。一つは新喜劇的風格である。新喜劇的とはみんなを抱腹絶倒させるような喜劇ではなく、対話の中に四川人のユーモアを滲ませ、このユーモアがあるからこそ、私たちが小説を読んだ時に重苦しさ、苦痛や悲哀をそれほど直接には感じないのである。作者は新喜劇的風格を通じて封建的権力下にある人間の愚昧さを描こうとしている。具体的にみると、謝開太を描いた「寛闊的黃臉」（大きな黄色い顔）などは喜劇的色彩がある。筱桂芬が自分の兄嫁を形容する「金枝玉叶様」（お嬢さん育ちみたいに）という表現、「吃的比屌的还多！」（出ていく方が、入ってくる方より多くなった）という言葉、筱桂芬が自分の衣服のことを語る「皱得来象腌菜了！」（皺がよって漬け物みたい）という表現、「没有笑成功」（うまく笑うことに成功しなかった）などの表現はみな喜劇的風格を持っている。もう一つの風格は、冷ややかな叙述の中に含まれる温もりである。沙汀の小説からは冷ややかさが感じられ、巴金などの作品の血が沸き立つような感覚はない。彼は常に一定の距離を保ち続けるため、人物の描き方が比較的冷淡なのである。しかし、例えば小説の最後で、班長と謝開太の二人はすべてを忘れてしまうが、カルタを切るとき常に筱桂芬の方に目をやり、薪を火にくべるようにしている。それは彼女が風邪を引かないようにという配慮からくる動作であり、ここに作者の温かみを感じ取ることができる。

最後に「堪察加小景」から「一个秋天晚上」への改変について気付いた点をメモしておくことにする。1944年に戦火の中で一気呵成に書き上げたものが「堪察加小景」であるが、その後の改訂で、内容においては大きな違いはないものの、以下のような若干の変更が認められる。

a) 一般名詞の固有名詞への変更 特に流娼、班長、所丁など職名に基づく人物の呼び方を極力改め、記号化されていた登場人物たちに個人名を与えることで、読者に登場人物への親近感を持たせている。例えば女主人公を指す場合、「堪」では「筱桂芬」という名前は彼女を読者に紹介する時に一度出たきりで、あとは「她」か「流娼」「娼妇」という言葉が使われていたのに対し、「一」では「筱桂芬」が二十一個所出て来ており、特に後半部、三人がたき火を囲んで親密に会話をする部分に多く見える。

b) 四川方言や口語、俗語的表現の書き直し 沙汀が四川方言を対話の部分などに取り込んで効果をあげていることはしばしば指摘されており、ちょっと意外な感じもするが、この「堪」は同じ時期に書かれた沙汀の代表作「淘金記」(1943)や他の小説などと比べると、四川方言をあまりたくさん使用している作品ではないことがわかる。もっとも農村出身の登場人物たちの言葉や心理を活写するために対話の部分で方言や口語的表現の使用は不可欠であった。「堪」は「一」に書き換える際、もともとそう多くは用いられていない四川方言の語彙や口語的な言い回しを一部、改めている。具体例を挙げれば、「淡淡」(→「粲然」)、「晃晃」(→「老实人」)、「疥疮子」(→「疥疮」)、「揩油」(→「糟蹋」)、「寒冷里扯露气」(→「露天里受冻」)、「火锹给你插进去了吗」(→「你是在喊冤哇」)、「入她妈哟」(→「倒搞出怪来了」)、「搞烂他的行头」(→「拖垮人家的老公」)などであり、せりふごと書き換えられたものには性愛に関連する描写が多い。

c) 書面語の書き直し 沙汀は「堪」の地の部分では書面語をよく使っていたが、「一」ではそうした表現をことごとく普通の分かりやすい口語に改めている。例えば、「止步」(→「站住」)、「已然」(→「最后」)、「类乎」(→「像」)、「与乎」(→「以及」)、「意义安在」(→「什么意思」)などのほか、「堪」では多く用いられていた介詞「于」も「一」では削られるか「在」になっている。書面語の多用は作者が幼少時から古典教育を受けてきたこととも関わりがあるであろう。

d) 人物形象の補強 「一」では「堪」と比べ、登場人物のイメージをよりわかりやすくする方向で若干の改変が行われていた。例えば筱桂芬はあらゆる面でその悲惨さを強調するように書き換えられ、谢开太は彼の人柄のよさを強調する方向で書き換えがなされている。また、筱桂芬たちを取り巻く郷長夫人、ごろつき(「堪」ではただ「某些人物」としか書かれていなかったが、「一」では「流氓」となっている)や人買いの崔三逛(この人物はそもそも「堪」には出てこなかった)も悪者としての性格が強く打ち出され、結果的に悪玉と善玉のコントラストがより鮮明になってくる。

【参考文献】

<沙汀>

金葵編『沙汀研究専集』(浙江文芸出版社 1983)

沙汀著、張大明編『沙汀』(香港生活・讀書・新知三聯書店香港分店、人民文學出版社 1984) ※ 卷末に次の論文を所収。沙汀「談談人物的創造」(節録)／沙汀「生活是創作的源泉」(節録)／茅盾「《法律外的航綫》」(節録)／金丁「關於

沙汀的短篇小說」(節錄)／張大明「沙汀創作剪影」／張大明「沙汀生平及著作年表」

沙汀著、曾广灿、汪春泓編『沙汀代表作』(黄河文芸出版社 1989)

吳福輝著『沙汀伝』(北京十月文芸出版社 1990)

劉紹棠、宋志明主編『中国郷土文学大系 現代卷』(農村読物出版社 1996)

沙汀著、中国現代文学館編、李淑英編選『沙汀』(華夏出版社 1997 自強文庫・中国現代文学百家)

莊漢新・邵明波主編『中国20世紀郷土小説論評』(学苑出版社 1997)

吳福輝『沙汀日記』(山西教育出版社 1997)

中裕史「沙汀の妙味－小説のなかの袍哥－」(『アジアの歴史と文化：阿頼耶順宏・伊原澤周兩先生退休記念論集』所収 汲古書院 1997)

沙汀著『沙汀自伝』(北岳文芸出版社 1998)

<日本語訳>

沙汀著、尾崎文昭訳「ある秋の夜」(「一個秋天晚上」 『中国現代文学珠玉選〔小説2〕』所収 二玄社 2000)

<四川>

梁兆麟修；崔映棠等纂『綿陽縣志』(臺灣學生書局 1967 新修方志叢刊四川方志16 民國21年刊本影印)

劉公旭纂『安縣志』(臺灣學生書局 1968 4冊 新修方志叢刊四川方志36 民國22年刊本影印)

胡漢生『四川近代史事三考』(重慶出版社 1988)

成都地圖出版社編制『四川省地圖冊』(第5版 成都地圖出版社 1988)

劉致平著、王其明增補『中国居住建筑簡史：城市，住宅，園林』(中国建築工業出版社 1990)

安県志編纂委員会編『安県志』(巴蜀書社 1991))

四川省編纂委員会編、蒲孝榮主編『中華人民共和國 地名詞典 四川省』(商務印書館 1993)

季富政、庄裕光編著『四川小鎮民居精選』(四川科学技術出版社 1994)

李怡著『現代四川文学的巴蜀文化闡釋』(湖南教育出版社 1995)

山本真「日中戦争開始後、四川省新都県における県政改革の実見とその挫折－1938年

11月の県城包囲事件に対する一考察」(『一橋論叢』第120巻・第2号 1998)
 四川省文聯組織編写『四川民俗大典』(四川人民出版社 1999)
 蕭紅燕著『中国四川農村の家族と婚姻：長江上流域の文化人類学的研究』(慶友社 2000)

<方言・語彙>

有田忠弘著「沙汀の作品における方言について—長編《淘金記》を素材に」(『研究論集』第4号所収 関西外国語短期大学研究会 1959)
 梁德曼著『四川方言与普通話』(四川人民出版社 1982)
 岩田礼著「言語地図と文献による語彙史の再構—“ひざがしら”の狭域的／広域的言語地図を中心に—」(『伊藤漱平教授退官記念中国学論集』所収 汲古書院 1986)
 王文虎、張一舟、周家筠編『四川方言詞典』(四川人民出版社 1987)
 崔榮昌『四川方言与巴蜀文化』(四川大学出版社 1996)
 大河内康憲『中国語の諸相』(白帝社 1997)
 許宝華、宮田一郎主編、復旦大学、京都外国語大学合作編纂編『漢語方言大詞典』(中華書局 1999)
 張一舟、張清源、鄧英樹著『成都方言語法研究』(巴蜀書社 2001)
 黄尚軍『四川方言与民俗』(四川人民出版社 2002)

<社会風俗・宗教>

竹内実、羅濛明対談『中国生活誌：黄土高原の衣食住』(大修館書店 1984)
 宗力、劉群著『中国民間諸神』(河北人民出版社 1986)
 石井昌子著「道教の神々」(福井康順他監修『道教とは何か』所収 道教第1巻 平河出版社 1983)
 澤田瑞穂「冥府とその神々」(『修訂 地獄変』所収 平河出版社 1991)
 張燕風著『老月份牌廣告畫 上卷論述篇』(漢聲雜誌社 1994)
 『老照片 服飾時尚』(江蘇美術出版社 1997)
 R. J. スミス著、加藤千恵訳『通書の世界—中国人の日選び』(凱風社 1998)
 薛君度、劉志琴主編『近代中国社会生活与觀念変遷』(中国社会科学出版社 2001)
 趙英蘭編著『民国生活掠影』(沈陽出版社 2001)

<農村>

- G. W. スキナー著、今井清一他訳『中国農村の市場・社会構造』（法律文化社 1979）
 路遥、佐々木衛編『中国の家・村・神々：近代華北農村社会論』（東方書店 1990）
 聶莉莉著『劉堡：中国東北地方の宗族とその変容』（東京大学出版会 1992）
 三谷孝編『農民が語る中国現代史：華北農村調査の記録』（内山書店 1993）
 曾士才、西澤治彦、瀬川昌久編『中国』（河出書房新社 1995）
 三谷孝他著『村から中国を読む：華北農村五十年史』（青木書店 2000）

<その他>

- 支那問題辞典編集部編『支那問題辞典』（中央公論社 1942）
 松本善海著「中国における地方自治制度近代化の過程—国民政府による—」（松本善海著『中国村落制度の史的研究』所収 岩波書店 1977）
 孟昭華、王明寰著『中国民政史稿』（黒竜江人民出版社 1986）
 黄美真、郝盛潮主編『中華民国史事件人物録』（上海人民出版社 1987）
 茂木計一郎、稲次敏郎、片山和俊著、木寺安彦写真『中国民居の空間を探る—群居類住—“光・水・土” 中国東南部の住空間』（建築資料研究社 1991）
 俞鹿年編『中国官制大辞典』（黒龍江人民出版社 1992）